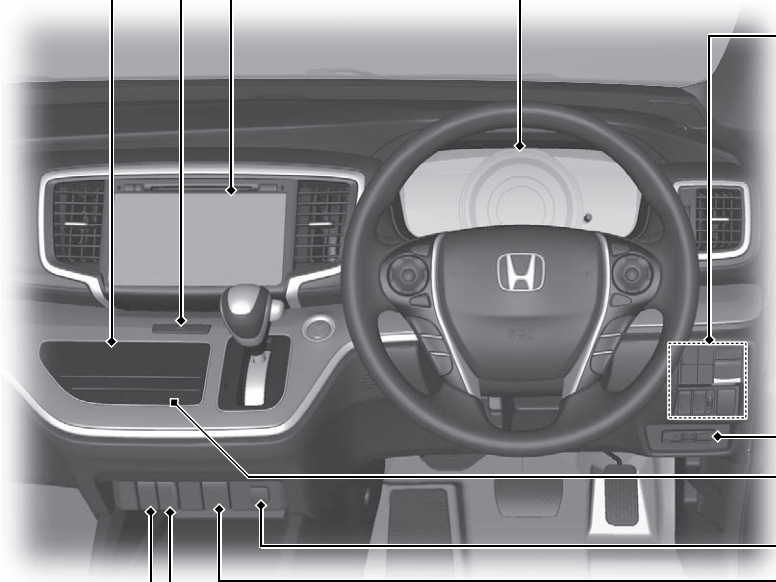
HONDA

Odyssey Hybrid

オーナーズマニュアル

クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

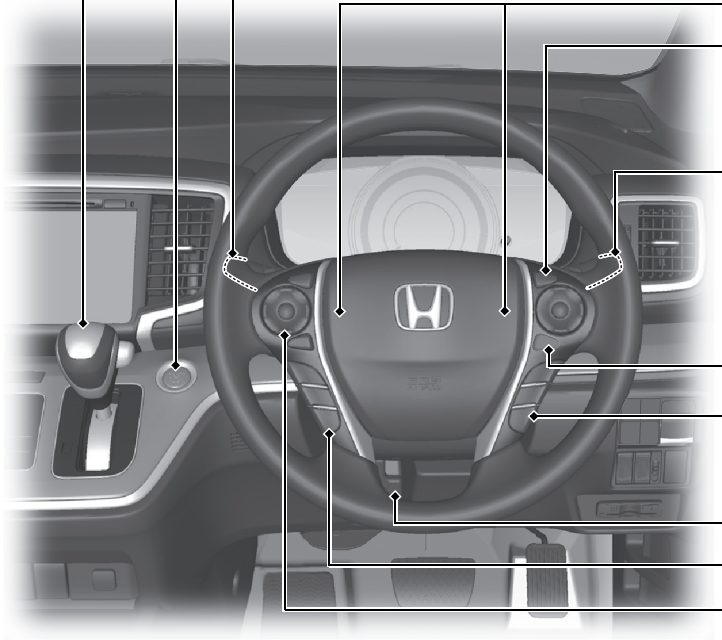
ビジュアル目次



- オートエアコン P. 217
- 非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）
- Honda インターナビシステム❖※1
- メーター P. 108
- 警告灯 P. 72
- 表示灯 P. 86
- ECON スイッチ P. 256
- パワースライドドアスイッチ P. 157
- (VSA OFF)スイッチ P. 263
- CMBS OFF スイッチ P. 272
- (車両接近通報 OFF)スイッチ P. 261
- 路外逸脱制御機能スイッチ P. 313
- パーキングブレーキスイッチ P. 331
- オートマチックブレーキホールドスイッチ P. 334
- パーキングセンサースイッチ* P. 342
- ETC 車載器※2
- リヤデフロスターアイコン / ヒーテッドドアミラーアイコン P. 178
- EV スイッチ P. 8
- アクセサリーソケット P. 208
- USB 端子❖※1
- HDMI® 端子❖※1

※1 ：別冊のメーカーオプションの「Hondaインターナビシステム」を参照してください。

※2 ：別冊「ETC 車載器」を参照してください。

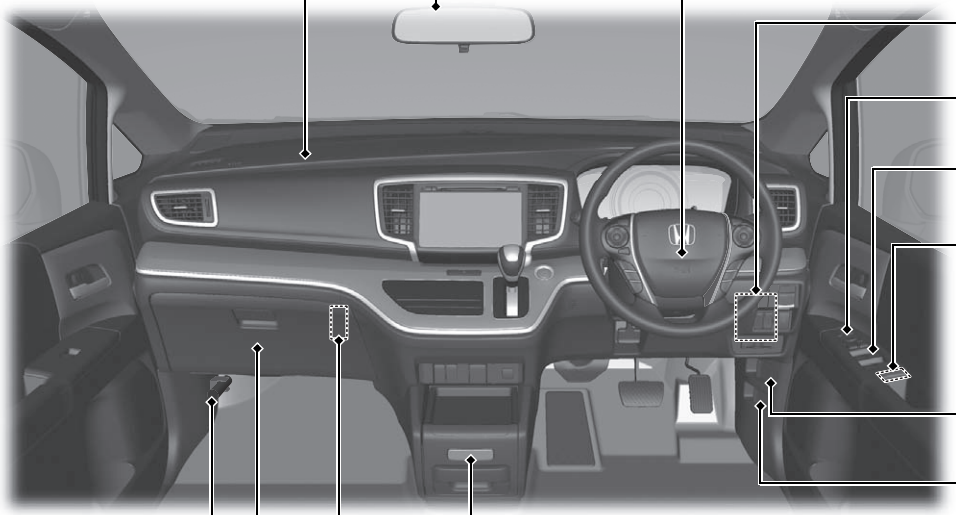


- セレクトレバー P. 254
- POWER スイッチ P. 167
- ワイパー/ ウォッシャースイッチ P. 175
- ホーンスイッチ(周辺)
- MAIN スイッチ P. 287
- ライト/方向指示器(ウィンカー)スイッチ P. 170, 172
- フォグライトスイッチ P. 174
- マルチビューカメラシステム* P. 350
- LKAS スイッチ P. 302
- インフォメーション(i)スイッチ(▲ / ▼) P. 110
- SEL/RESET スイッチ P. 111
- ハンドル位置調節レバー P. 178
- 発話スイッチ*※
- オーディオリモートコントロールスイッチ*※

※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



SRSエアバッグシステム（助手席用） P. 42

ルームミラー P. 179

SRSエアバッグシステム（運転席用） P. 42

室内運転席側ヒューズボックス P. 460

ドアミラー調節スイッチ P. 180

パワーウィンドースイッチ P. 163

シートヒータースイッチ* P. 214

フューエルリッドオープナー P. 387

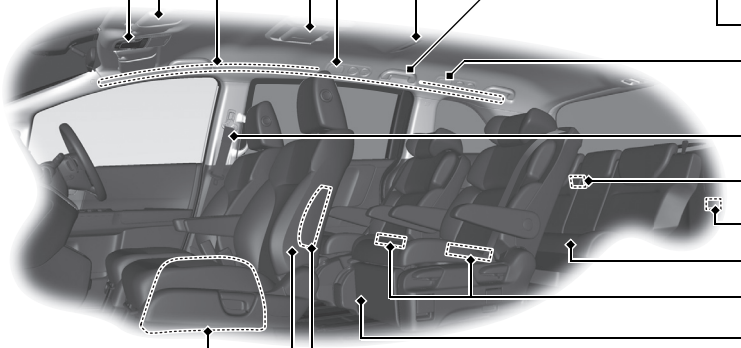
ボンネット解除ノブ P. 395

リフトアップトレイ P. 203

室内助手席側ヒューズボックス P. 462

グローブボックス P. 203

発炎筒 P. 428

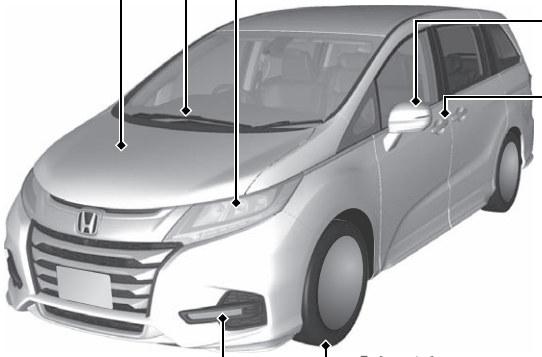


- フロントシート室内灯 / マップランプ P. 200, 201
- サングラスボックス P. 212
- サンバイザー
- バニティミラー
- サイドカーテンエアバッグシステム P. 47
- リアエンターテインメントシステム* P. 233
- セカンドシート室内灯 / マップランプ P. 201
- 後席用オートエアコン*/ クーラー* P. 225, 228
- グラブレール
- コートフック P. 211
- サードシート室内灯 / マップランプ P. 201
- シートベルト P. 32
- テールゲート照明灯 P. 202
- カーゴスペース照明灯（左側） P. 202
- サードシート P. 191
- ISOFIX/i-Size 取付装置 P. 55
- セカンドシート P. 185
- サイドエアバッグシステム P. 45
- フロントシート P. 182
- スライドシャッター付コンソールボックス* P. 204
- USB 端子*※
- アクセサリーコンセント* P. 209

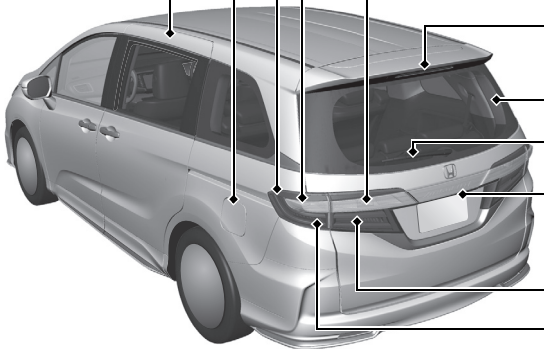
※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



エンジンルーム内のメンテナンス P. 394
ワイパー P. 175, 405
ヘッドライト P. 172, 398
ドアミラー P. 180
ドアミラーウィンカー P. 170, 400
ドアの施錠 / 解錠 P. 138
タイヤ P. 409, 429
フォグライト P. 174, 400



スライドドアの開閉 P. 152
給油のしかた P. 387
後部側方灯 P. 402
ウィンカー P. 170, 399, 400, 401
後退灯 P. 403
ハイマウントストップランプ P. 402
テールゲートの開閉 P. 151
リヤワイパー P. 176, 407
番号灯 P. 172, 402
尾灯 P. 402
制動灯 P. 400 / 尾灯 P. 402

SPORT HYBRID i-MMD（インテリジェントマルチモードドライブ）

SPORT HYBRID i-MMD 車は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。そして、モーターは高電圧バッテリーやジェネレーター（発電機モーター）から供給された電気により駆動します。高電圧バッテリーは、エンジンとジェネレーターによる発電、または回生ブレーキにより充電されます。充電された程度に応じて、電力のみで走行することができます。

モーター、ガソリンエンジン、ハイブリッド（モーターとエンジン）による走行の、合計 3 種類の走行状態があります。どのような運転が適切かをシステムが判断し、走行状態を自動的に選択します。さらに EV スイッチを使って、手動で EV 走行に切り換えることができます。

- **エネルギー効率について**

通常のガソリンエンジン搭載車と同じように、この車の燃費や航続可能距離は、運転のしかたによって大きく左右されます。急加速や高速で走行すると、動力源がエンジンへ切り換わりやすくなります。また暖房負荷や冷房負荷が高いとき、航続可能距離が短くなります。いずれの場合も高電圧バッテリーの残量は早く低下します。

- **バッテリーのタイプ**

2種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための12Vバッテリーと、モーターの駆動と12Vバッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

- **ハイブリッド車について**

高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。
従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

SPORT HYBRID i-MMD システムの構成部品

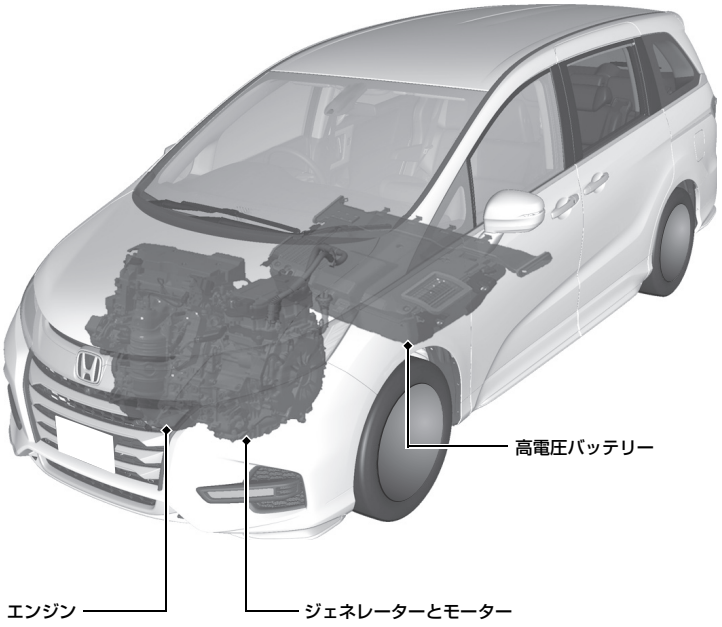
エンジン – ジェネレーターを回します。状況によっては車軸を直接駆動することもあります。

ジェネレーター – エンジンを始動します。エンジンが作動中はジェネレーターで発電してモーターに電力を供給したり、高電圧バッテリーを充電します。

モーター – 車軸を直接駆動します(状況によってはエンジンと連動します)。また回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。

高電圧バッテリー – 電気をためておき、モーターに電気を供給します。
高電圧バッテリーの特性を理解しておくことが、EV 走行の距離を伸ばすことにつながります。P. 267

高電圧バッテリー残量計 – 高電圧バッテリー内の充電量を表示します。
- 残量計の目盛りが 2 以下のとき：EV モードを選択することはできません。
- 残量計の目盛りが 6 のとき：満充電の状態です。



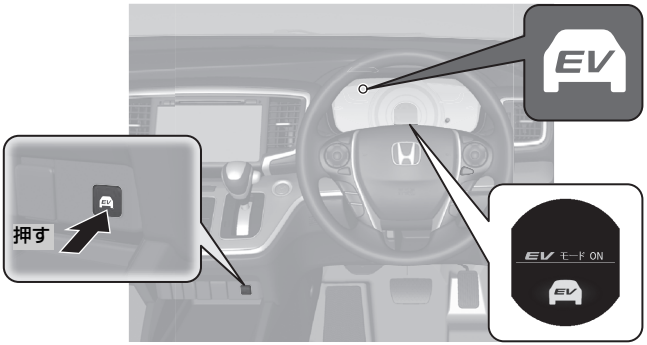


走行モード	EV 走行	ハイブリッド走行	エンジン走行（直接駆動）	回生
走行状態	停車中または低速走行中 • モーターの動力のみで走行	走行中かつ強い負荷がかかっているとき（加速中や登坂中など） • モーターの動力で走行 • エンジンが作動してジェネレーターを回し、電気を供給することでモーター駆動を補助、または高電圧バッテリーを充電します。	高速走行中かつ負荷が少ないとき • 主にエンジンの動力で走行 • 高電圧バッテリーからの電力供給によりモーターアシストします。また、モーターを発電機として作動させ高電圧バッテリーを充電します。	減速中かつアクセルペダルも操作していないとき • モーターが回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。
パワーフローモニター				
モーター	停止 / 作動	作動	発電 / 作動	回生
ジェネレーター	停止	発電	出力なし	停止 / 出力なし
エンジン	停止	作動	作動	停止 / 出力なし
高電圧バッテリー	放電	充電 / 放電	充電 / 放電	充電

EV スイッチ

セレクトレバー下方にあるEVスイッチを押すと、EV走行モードを選択でき、EV 走行中は、EV 表示灯が点灯し続けます。
もう一度、EV スイッチを押すと、EV 走行モードの選択は解除されます。
EV スイッチを押しても、EV モードを選択できない場合があります。このとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります。
走行状態や車両状態によっては、EV 走行モードが自動的に解除されることがあります。

➔ マルチインフォメーションディスプレイ P. 110



次の場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、EV 走行モードが自動的に解除されることがあります。

➔ マルチインフォメーションディスプレイ P. 110

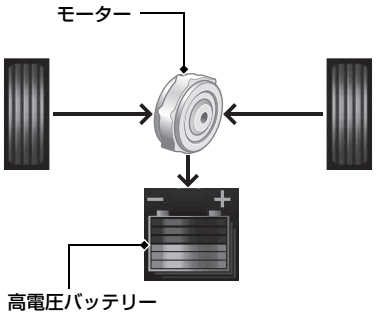
- 高電圧バッテリーの残量が少ないとき
- 車速が高いとき
- エンジン暖機が終わる前に、車速が 40km/h をこえたとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
- 坂道など

EV モードでの走行時、車両接近通報は ON となっています。

➔ 車両接近通報装置 P. 261

●回生エネルギーと回生ブレーキ

回生ブレーキが作動しているとき



減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電気を取り戻します。
この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをし、セレクトレバーを S にすると、回生ブレーキが強く効きます。

- **エンジンは自動で停止 / 始動します**

エンジンが自動的に始動や停止します。そのため、停車時にエンジンが停止状態から始動することがあります。特に、次のようなときは、エンジンが自動的に停止しないことがあります。

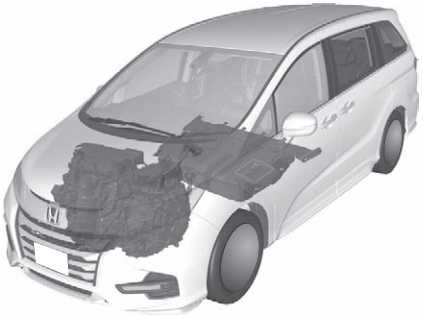
- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- 暖房負荷や冷房負荷が高いとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき

- **ハイブリッド車特有の音について**

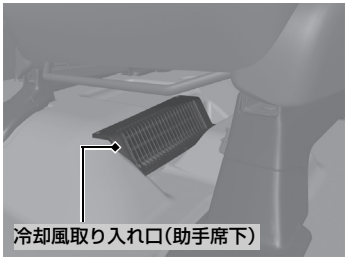
パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

ご使用時の注意



冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や 12V バッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムを分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ず Honda 販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色）には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける。

▶ 車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、指定の Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

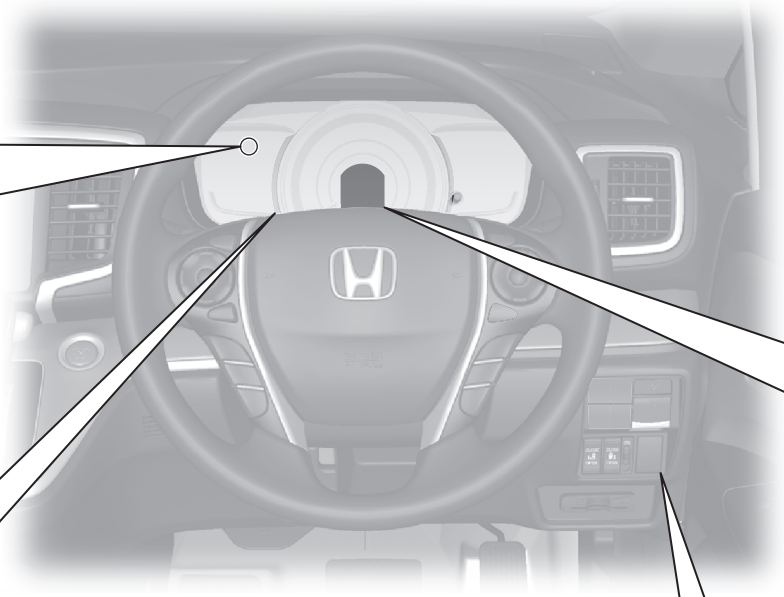
ホンダバッテリー回収窓口 0120-910574(フリーダイヤル)

エコアシストシステム

ECON 表示灯 P. 88

●ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯します。
●ECON スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを数秒間表示します。





アンビエントメーター

●運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

ECON スイッチ P. 256

●ECON スイッチを押すことで、ハイブリッドシステムやエアコンを、より省燃費運転となるように制御します。



パーキングセンサーシステム装備車



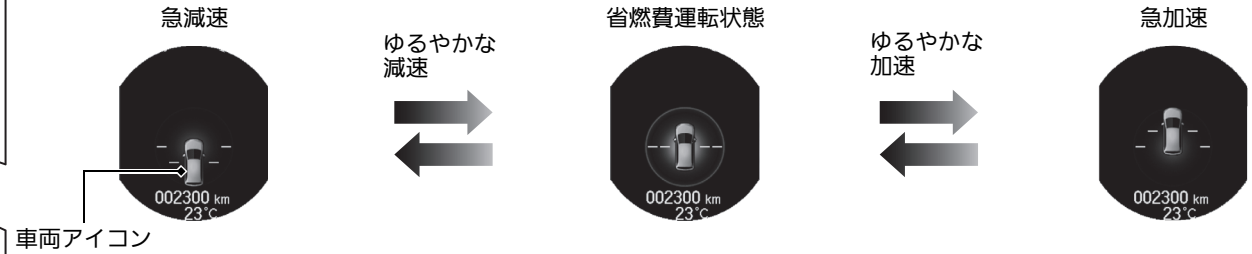
パーキングセンサーシステム非装備車

ECO ドライブディスプレイ P. 116

運転操作の状態に応じて車両のアイコンが前後に動きます。

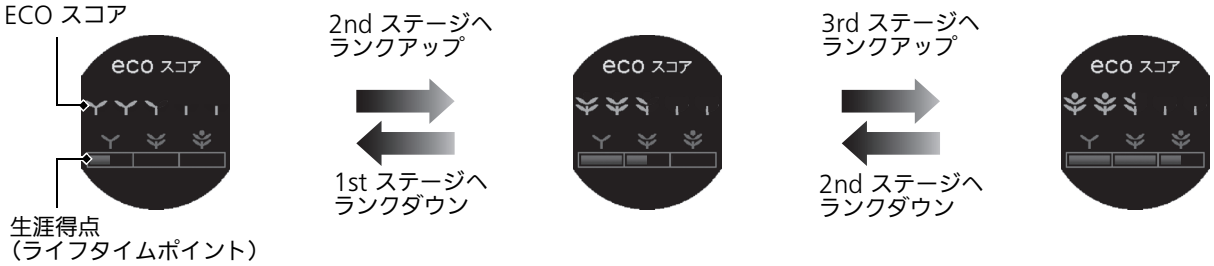
●急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。

●円の中心に車両アイコンが維持できるように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。運転操作の状態に応じて、背景の色が変化します。



ECO スコア

●パワーモードを OFF モードにしたときに表示します。



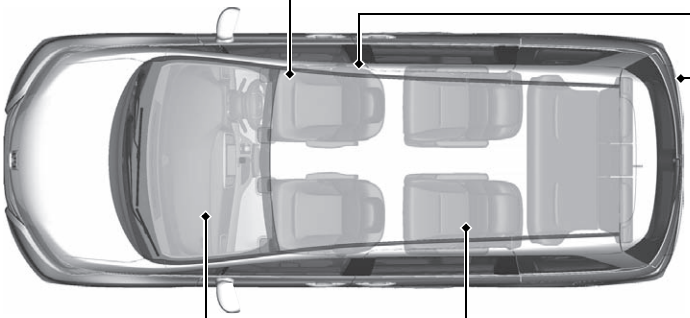
安全なドライブ P. 30



●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

運転を始める前の確認 P. 31

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



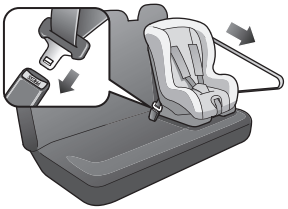
シートベルト P. 32

排気ガスについて P. 70

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全 P. 51

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。



エアバッグ P. 42

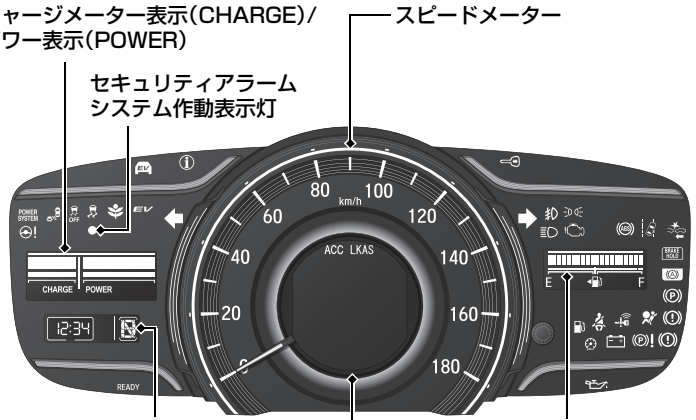
●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P.71

警告灯 P.72/ 表示灯 P.86/ メーター P.108/ マルチインフォメーションディスプレイ P.110

警告灯 / 表示灯

- ECON 表示灯
- ABS 警告灯
- ブラインドスポットインフォメーション警告灯*
- VSA 警告灯
- VSA OFF 警告灯
- EPS システム警告灯
- インフォメーション表示灯
- READY 表示灯
- EV 表示灯
- EV モード表示灯
- パワーシステム警告灯



ライト表示灯

- ACC 渋滞追従機能付 ACC 警告灯(オレンジ)
  渋滞追従機能付 ACC 表示灯(グリーン)
- ハイビーム表示灯
- ライト点灯表示灯
- フォグライト点灯表示灯

警告灯 / 表示灯

- LKAS LKAS 警告灯(オレンジ)
  LKAS 表示灯(グリーン)
- イモビライザーシステム表示灯
- 方向指示器 / 非常点滅表示灯

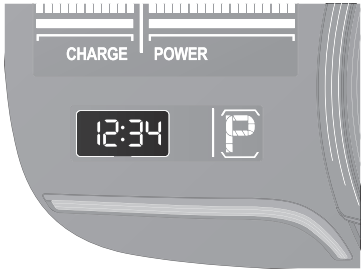
警告灯 / 表示灯

- CMBS 警告灯
- 路外逸脱抑制機能警告灯
- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯
- オートマチックブレーキホールド表示灯
- 電子制御パーキングブレーキ作動警告灯
- 電子制御パーキングブレーキシステム警告灯
- 12V バッテリー充電警告灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- PGM-FI 警告灯
- 燃料残量警告灯
- シートベルト非着用警告灯
- エアバッグシステム警告灯
- Honda スマートキーシステム警告灯
- 油圧警告灯

この「✤」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

各部の操作 P.134

時刻を合わせる P.135

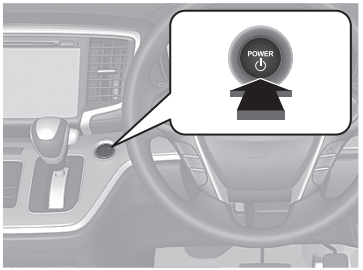


Honda インターナビシステム装備車

人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

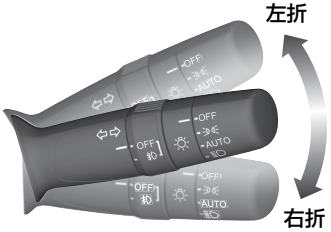
POWER スイッチ P.167

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



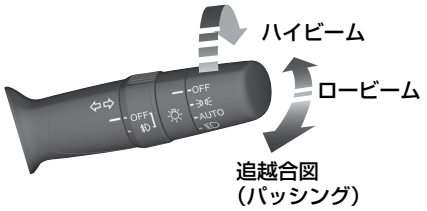
ウィンカー P.170

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



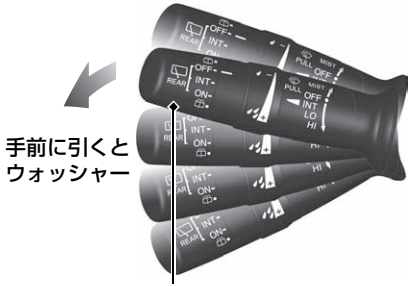
ライト P.172

ライトスイッチ



ワイパー P.175

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

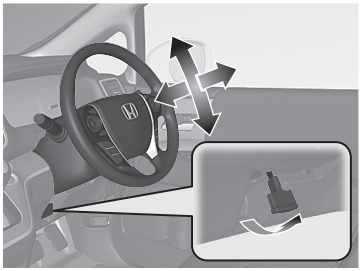


- OFF 停止
- INT 間欠
- LO 低速
- HI 高速

ハンドル位置の調節

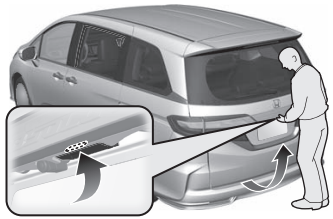
P. 178

●ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



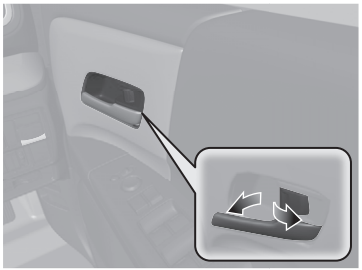
テールゲート P. 151

●テールゲートは、テールゲートオープンスイッチを押して開きます。



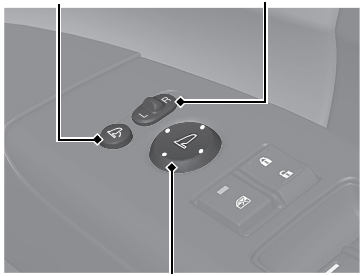
運転席ドアハンドルでの解錠 P. 147

●運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開き、同時にすべてのドアが解錠されます。



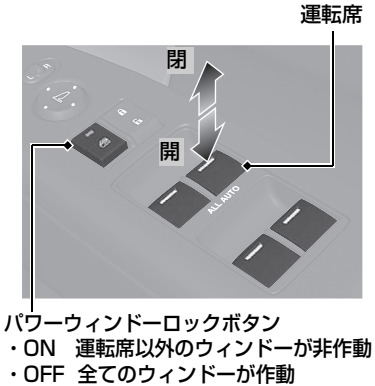
ドアミラー P. 180

●パワーモードが ON モードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー P. 163

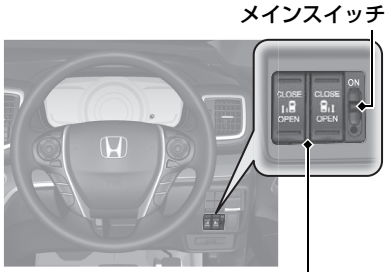
●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



パワーウィンドーロックボタン
・ON　運転席以外のウィンドーが非作動
・OFF　全てのウィンドーが作動

パワースライドドア P. 154

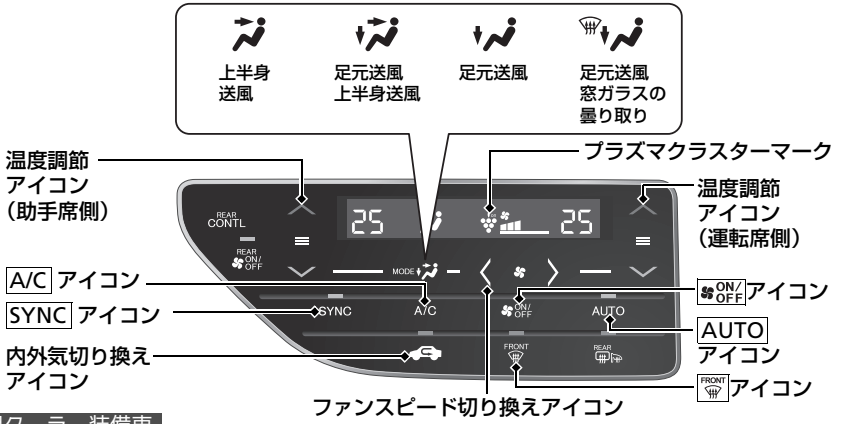
●メインスイッチが ON のとき、開閉したい側の OPEN または CLOSE を押すと自動的に開閉します。



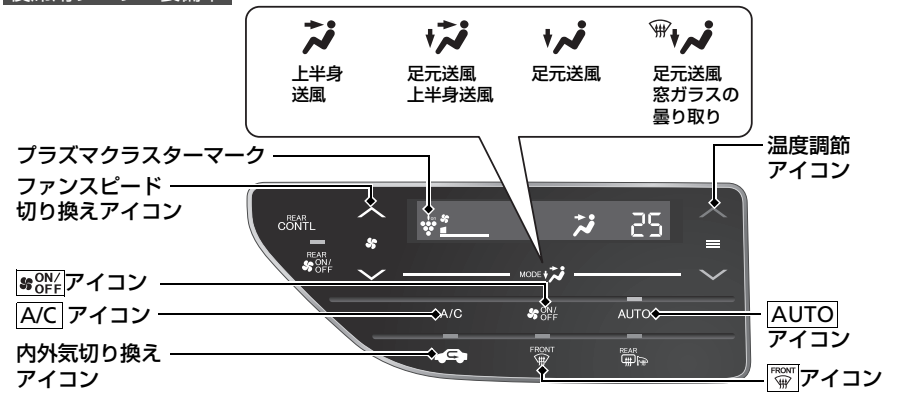
エアコン P.216

●AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
●ON/OFFを押すと、止まります。
●前面ガラスの曇りを取るには、FRONTを押します。

後席用オートエアコン装備車

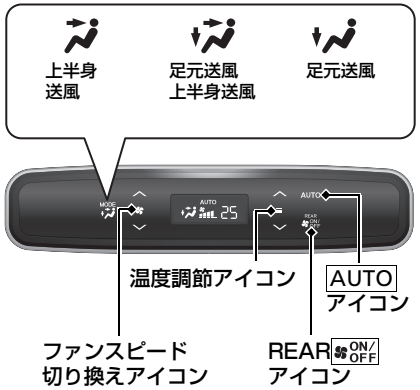


後席用クーラー装備車



後席用オートエアコン*

●AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
●REARON/OFFを押すと、止まります。



後席用クーラー*

●REARON/OFFを押すか、ファンスピード切り換えスイッチを押すと、後席用クーラーが作動します。
●REARON/OFFを押すと、止まります。

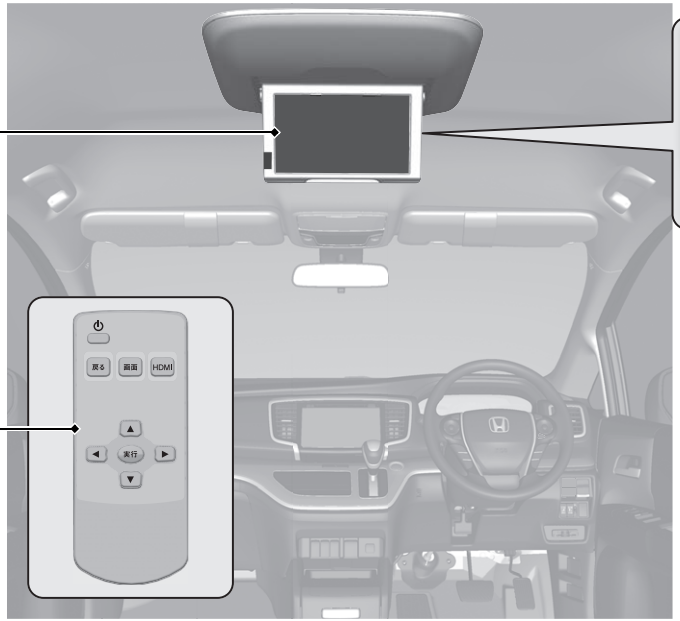


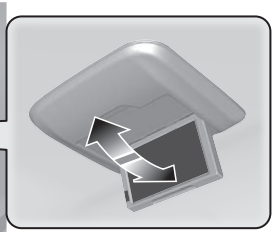
オーディオ P.232

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

リアエンターテインメントシステム✤ P.233

後席モニター





パワーモードをアクセサリーモードまたは ON モードにし、後席モニターを開くと電源が ON になります。
モニターを閉じると OFF になります。

リアエンターテインメントシステム用リモコン
リアエンターテインメントシステムの操作は、リモコンで行います。

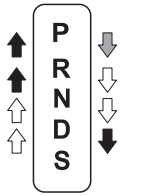
運転 P.244

トランスミッション P.253

●セレクトレバーを P に入れ、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。

セレクトレバー

セレクトレバーの操作



ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作

ボタンを押して操作

ボタンを押さずそのまま操作



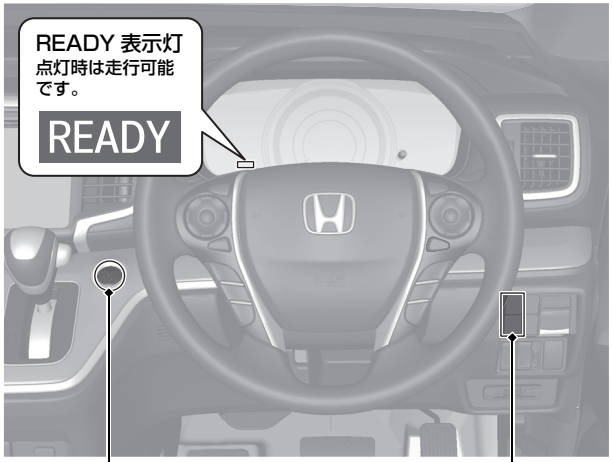
P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
通常走行

S ドライブ(S)
- アクセル操作に対して応答性のよい走りをしたいとき
- 上り坂や下り坂を走行するとき



POWER スイッチ

(VSA OFF)スイッチ

(CMBS OFF)スイッチ

VSA の ON と OFF

P. 263

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。

CMBS の ON と OFF

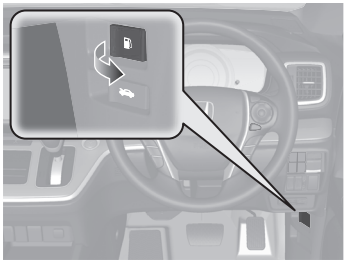
P. 272

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり追突の衝撃を軽減する装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的に CMBS は ON になります。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)にするにはを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

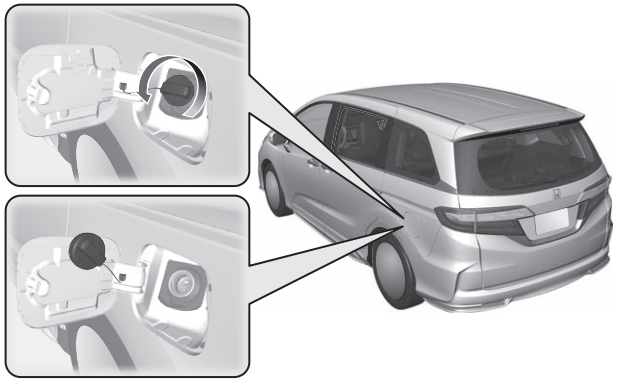
ガソリンを入れる P. 386

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：
55 リットル

1. フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。

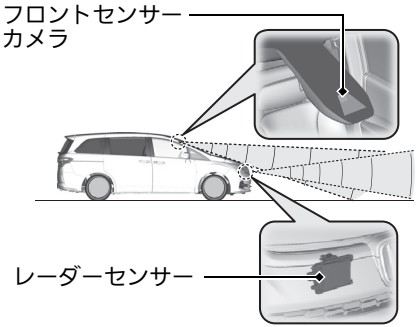


2. ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。
3. キャップをホルダーにかける。



ホンダセンシング P. 268

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる2種類のセンサーで構成された運転支援システムです。



衝突軽減ブレーキ（CMBS） P. 269

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

誤発進抑制機能 P. 277

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

歩行者事故低減ステアリング P. 279

歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール） P. 285

先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

LKAS（車線維持支援システム） P. 299

左右の白線（黄線）をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

路外逸脱抑制機能 P. 310

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

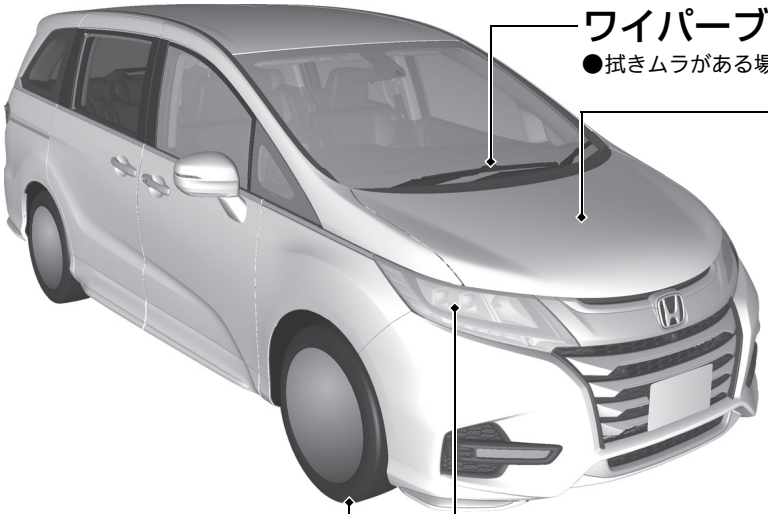
先行車発進お知らせ機能 P. 317

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 P. 321

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

メンテナンス P. 390



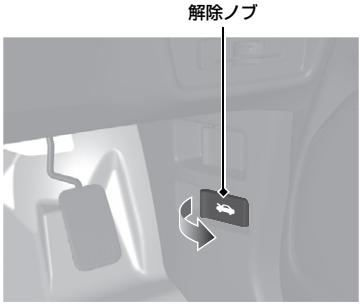
ワイパーブレード P. 405

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

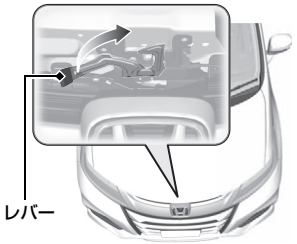
エンジンルーム P. 394, 397, 450

●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●12V バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ レバーを上げボンネットを開ける。



タイヤ P. 409

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト P. 398

●ヘッドライトなどの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

万一の場合には P. 427

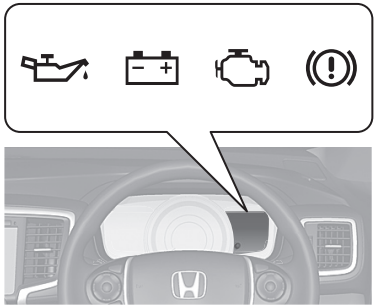
パンクした P. 429

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



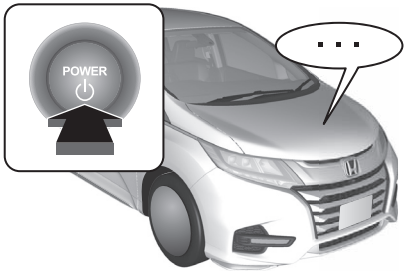
警告灯が点灯した P. 453

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



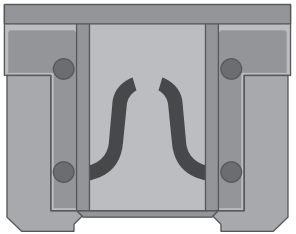
パワーシステムが起動しない P. 443

●12V バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



ヒューズが切れた P. 457

●アクセルペダルの上方、グローブボックスの奥、カーゴスペース左側、エンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした P. 450

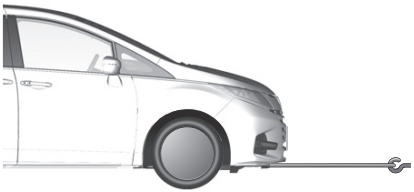
●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

P. 467

●必ず専門業者に依頼してください。やむをえず 4 輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

Q **POWER のパワーモードが OFF モードからアクセサリーモードにならない**

A
- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、 POWER を押してください。



Q **POWER のパワーモードが OFF モードにならない**

A
- セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？



Q **ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した**

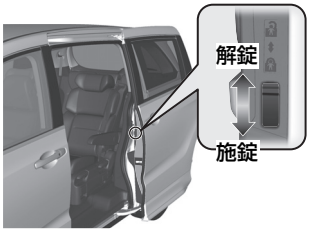
A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
  これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
  そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

ABS(アンチロックブレーキシステム) P.336

Q 後席ドアが車内から開けられない

A

- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
  後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- パワーモードを OFF モード以外にしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？
- EV モード中に運転席ドアを開けていませんか？

Q 走行するとブザーが鳴る	**A** • 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
Q パーキングブレーキスイッチを引いてもパーキングブレーキが解除できない	**A** • ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？
Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない	**A** • 運転席シートベルトを着用していますか？ • セレクトレバーが P 、 N 以外になっていますか？
Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする	**A** • ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。
Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？	**A** • プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断やHondaの車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.30

安全なドライブのために 31　シートベルト 32　エアバッグ 42　お子さまの安全 51
排気ガスの危険性 70

計器の見かた P.71

警告灯と表示灯 72　メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 108

各部の操作 P.134

時刻の設定 135　ドアロック 138　テールゲート 151　スライドドア 152
セキュリティシステム 161　ウィンドー 163　ハンドルまわりのスイッチ 167
ミラー類 179　シート 182　室内灯 / 室内装備品 200　エアコン 216

オーディオ P.231

オーディオ装置* 232　リアエンターテインメントシステム* 233　こまったときは 242

運転 P.244

運転の前に 245　運転 247　ホンダセンシング 268　ブレーキ 331
駐停車 339　給油 386

メンテナンス P.390

メンテナンスの前に 391　エンジンルーム内 394　電球 398　ワイパー 405
タイヤ 409　Honda スマートキー 414　リアエンターテインメントシステム用リモコン* 416
エアコンのお手入れ 417　清掃 419　アクセサリーと改造 425

万一の場合には P.427

工具、発炎筒 428　パンク 429　ジャッキの取り扱い 441　パワーシステムが起動しない 443
ジャンプスタート 447　セレクトレバーが動かない 449　オーバーヒート 450
警告灯が点灯 / 点滅した 453　ヒューズ 457　けん引 467　テールゲートが開かない 469

資料 P.470

仕様：Hybrid 471

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 31
シートベルト
シートベルトについて 32
シートベルトの着用 35
シートベルトの点検 39
エアバッグ
エアバッグの種類 42
SRS エアバッグ 42
サイドエアバッグ 45
サイドカーテンエアバッグ 47
エアバッグシステム警告灯 49
エアバッグのお手入れ 50
お子さまの安全 51
乳幼児の安全 52
大きなお子さまの安全 68
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 70

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
  ▶すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➡ **車内での施錠** P.147
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➡ **フロントシート** P.182
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➡ **フロントシート** P.182
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➡ **シートベルトの着用** P.35
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➡ **エアバッグ** P.42
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➡ **お子さまの安全** P.51
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にしているか？
  ▶さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  ➡ **シフト操作** P.254

安全のための確認事項

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

➡ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.91

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

≫シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

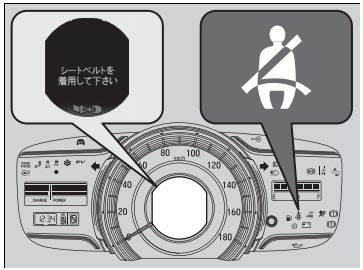
乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを R に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

次ページに続く

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



▶シートベルトプリテンショナー

⚠注意

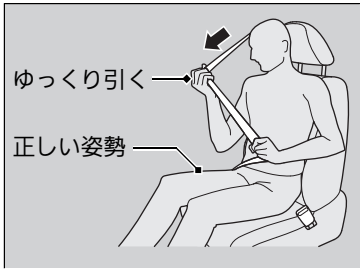
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

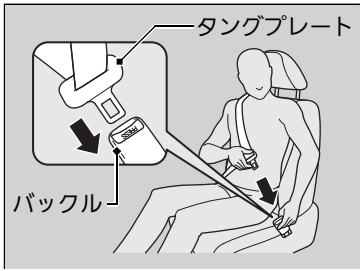
側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

SRSエアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

シートベルトの着用

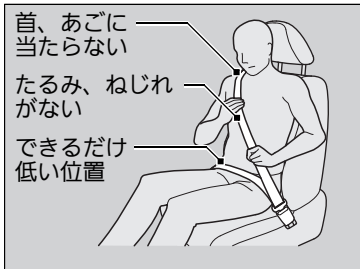
⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

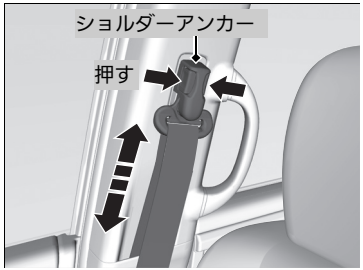
次ページに続く



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

シートベルトの着用

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

ショルダーアンカーの高さ調節

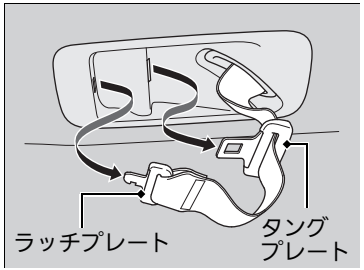
⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

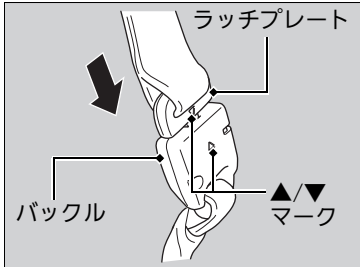
安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

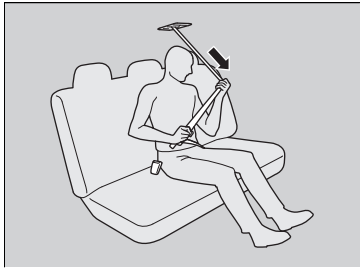
■分離収納式シートベルト



1. 天井の固定部からシートベルトのラッチプレートとタングプレートを外す。



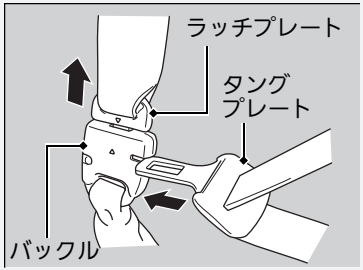
2. ラッチプレートを引き出し、▲ マークがついているバックルに差し込む。
▶ ラッチプレートの ▼ マークとバックルの ▲ マークを合わせて差し込みます。



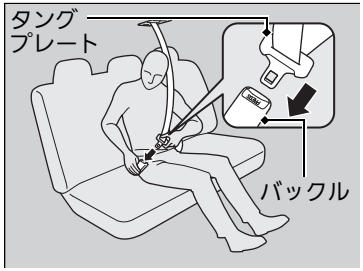
3. 正しい姿勢でシートにすわる。
4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

分離収納式シートベルト

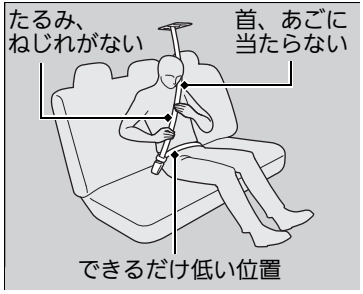
シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを ▲ マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。



次ページに続く



5. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

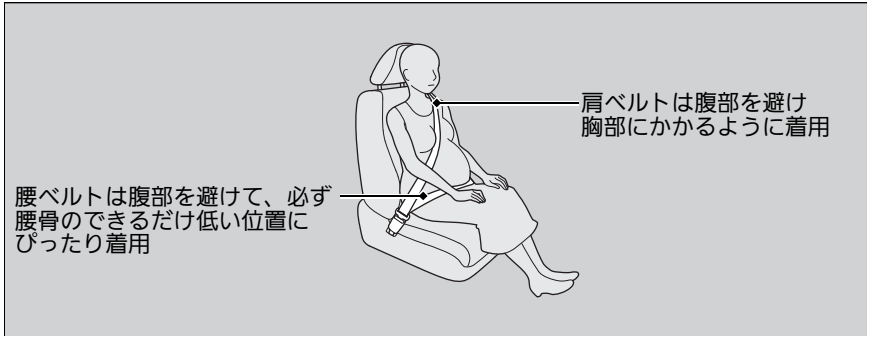


6. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

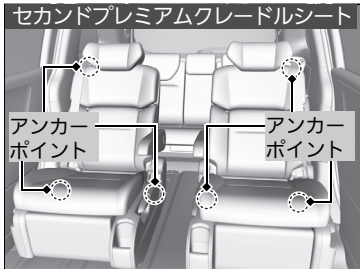
ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

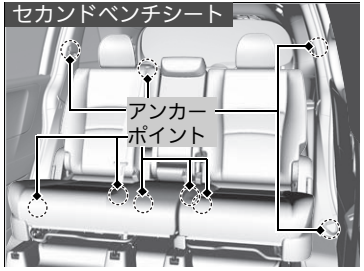
シートベルトのアンカーポイント



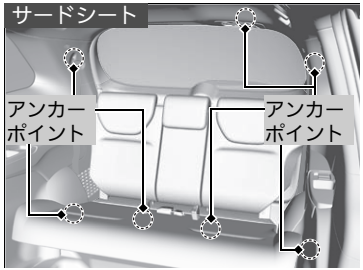
シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



セカンドプレミアムクレードルシートには三点式シートベルトが使われています。



セカンドベンチシートには三点式シートベルトが使われています。



サードシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードにSRSエアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRSエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

≫エアバッグの種類

⚠警告

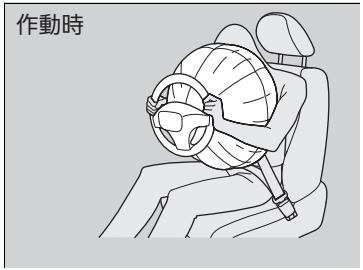
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

エアバッグの作動は、衝突状況とシートベルト着用の有無により異なります。
そのため、運転席または助手席のエアバッグが片側のみ作動することがあります。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

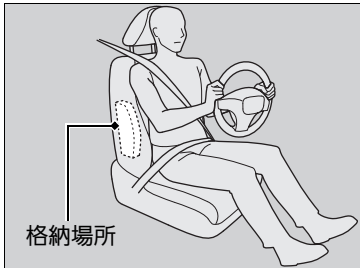
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

次ページに続く

▶サイドエアバッグ

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
セカンドシート同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

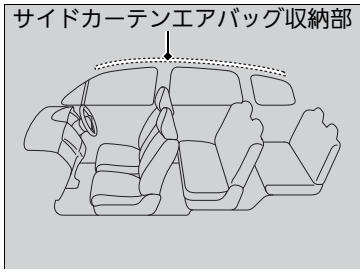
サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

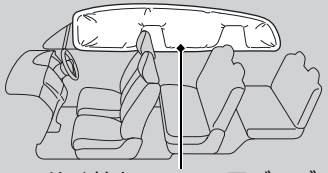
サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

次ページに続く

■作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

作動条件 P.46

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRSエアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグ

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

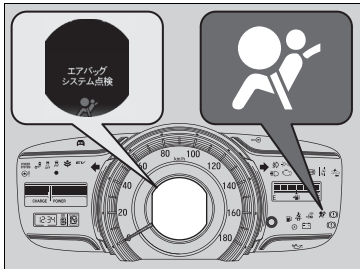
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードをON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。 ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

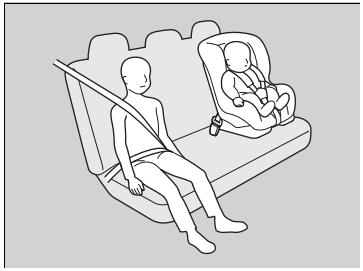
一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せる
  ▶お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。 正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

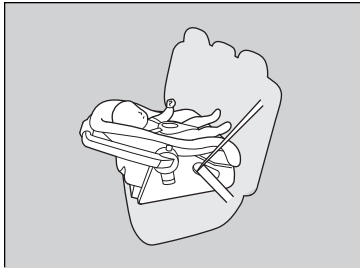
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

セカンドシートに設置することができます。

≫乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

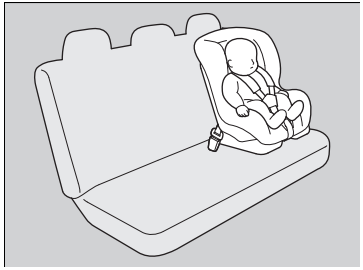
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席のSRSエアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

セカンドシートまたはサードシートへの設置を推奨します。

幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

次ページに続く

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、セカンドシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジまたはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN-ECE R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

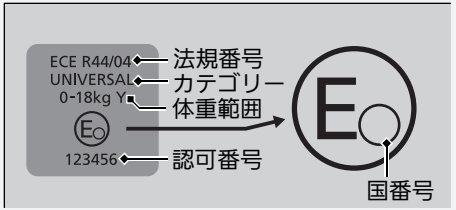
UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

▶チャイルドシートの選びかた

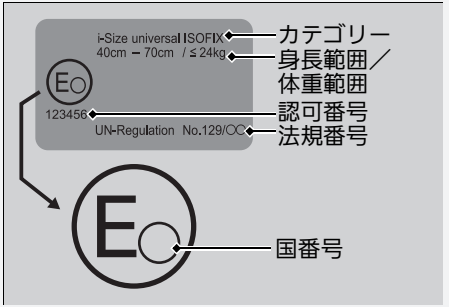
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN-ECE R44 認可表示(例)



UN-ECE R129 認可表示(例)



■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

この車のセカンドシートの外側 2 座席には、ISOFIX/i-Size チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。

次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

■ISOFIX チャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

セカンドプレミアムクレードルシート装備車

重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置						推奨チャイルドシート *1
			前席	二列目席		三列目席			
			助手席	右席	左席	右席	左席	中央席	
キャリコット	F	ISO/L1	X	X	X	X	X	X	
	G	ISO/L2	X	X	X	X	X	X	
0 ～ 10kg 以下	E	ISO/R1	X	IL	IL	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（後向き）
0+ ～ 13kg 以下	E	ISO/R1	X	IL	IL	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（後向き）
	D	ISO/R2	X	IL	IL	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（後向き）
	C	ISO/R3	X	IL	IL	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（後向き）
I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	X	IL	IL	X	X	X	
	C	ISO/R3	X	IL	IL	X	X	X	
	B	ISO/F2	X	IUF	IUF	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（前向き）
	B1	ISO/F2X	X	IUF	IUF	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（前向き）
	A	ISO/F3	X	IUF	IUF	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（前向き）
II 15kg ～ 25kg	—	—	X	X	X	X	X	X	
III 22kg ～ 36kg	—	—	X	X	X	X	X	X	

記号の説明

IUF ：汎用(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートを前向きに装着できることを示す。

IL ：添付のリストに記載された特定 ISOFIX 幼児拘束装置(CRS)が装着できることを示す。この ISOFIX CRS は「特定」「限定」または「準汎用」カテゴリーのものである。

X ：ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

*1 ：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX Neo のご購入は Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

セカンドベンチシート装備車

重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置							推奨チャイルドシート *1
			前席	二列目席			三列目席			
			助手席	右席	左席	中央席	右席	左席	中央席	
キャリコット	F	ISO/L1	X	X	X	X	X	X	X	
	G	ISO/L2	X	X	X	X	X	X	X	
0 ～ 10kg 以下	E	ISO/R1	X	IL	IL	X	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（後向き）
0+ ～ 13kg 以下	E	ISO/R1	X	IL	IL	X	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（後向き）
	D	ISO/R2	X	IL	IL	X	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（後向き）
	C	ISO/R3	X	IL	IL	X	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（後向き）
I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	X	IL	IL	X	X	X	X	
	C	ISO/R3	X	IL	IL	X	X	X	X	
	B	ISO/F2	X	IUF	IUF	X	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（前向き）
	B1	ISO/F2X	X	IUF	IUF	X	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（前向き）
	A	ISO/F3	X	IUF	IUF	X	X	X	X	Honda ISOFIX Neo（前向き）
II 15kg ～ 25kg	—	—	X	X	X	X	X	X	X	
III 22kg ～ 36kg	—	—	X	X	X	X	X	X	X	

記号の説明

IUF　：汎用（ユニバーサル）ISOFIX チャイルドシートを前向きに装着できることを示す。

IL　：添付のリストに記載された特定 ISOFIX 幼児拘束装置（CRS）が装着できることを示す。この ISOFIX CRS は「特定」「限定」または「準汎用」カテゴリーのものである。

X　：ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

*1　：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

■i-Size チャイルドシート

セカンドプレミアムクレードルシート装備車

	座席位置						推奨チャイルドシート *1
	前席	二列目席		三列目席			
	助手席	右席	左席	右席	左席	中央席	
i-Size 幼児拘束装置(CRS)	X	i-U	i-U	X	X	X	Honda Baby&Kids i-Size

セカンドベンチシート装備車

	座席位置							推奨チャイルドシート *1
	前席	二列目席			三列目席			
	助手席	右席	左席	中央席	右席	左席	中央席	
i-Size 幼児拘束装置(CRS)	X	i-U	i-U	X	X	X	X	Honda Baby&Kids i-Size

記号の説明

i-U　：前向き及び後ろ向きの i-Size「汎用」幼児拘束装置(CRS)を装着できることを示す。

X　：i-Size「汎用」幼児拘束装置(CRS)には適さない着席位置を示す。

*1　：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

次ページに続く

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるUN-ECE R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

チャイルドシートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

■シートベルト固定タイプチャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

セカンドプレミアムクレードルシート装備車

重量区分	座席位置						推奨チャイルドシート *1
	前席	二列目席		三列目席			
	助手席	右席	左席	右席	左席	中央席	
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U	U	U	U*3	Honda スタンダード
グループ 0+ ～ 13kg	X	U	U	U	U	U*3	Honda スタンダード
グループ I 9kg ～ 18kg	UF*2	U	U	U	U	U*3	Honda スタンダード
グループ II 15kg ～ 25kg	UF*2	U	U	U	U	U*3	Honda ジュニアシート
グループIII 22kg ～ 36kg	UF*2	U	U	U	U	U*3	Honda ジュニアシート

記号の説明

U　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを装着できることを示す。

UF　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに装着できることを示す。

X　：チャイルドシートを装着できないことを示す。

*1　：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

*2　：チャイルドシートを取り付ける場合、シートの前後位置を最も後ろの位置に調節し、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

*3　：チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

次ページに続く

セカンドベンチシート装備車

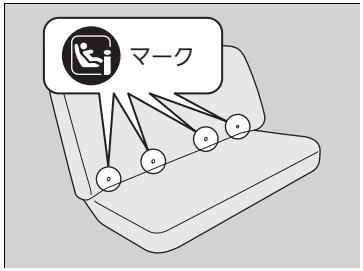
重量区分	座席位置							推奨チャイルドシート *1
	前席	二列目席			三列目席			
	助手席	右席	左席	中央席	右席	左席	中央席	
グループ 0 ～ 10kg	X	X	X	X	U	U	U*3	Honda スタンダード
グループ 0+ ～ 13kg	X	L*4	L*4	L*4	U	U	U*3	Honda スタンダード
グループ I 9kg ～ 18kg	UF*2	UF	UF*3	UF	U	U	U*3	Honda スタンダード
グループ II 15kg ～ 25kg	UF*2	UF	UF*3	UF	U	U	U*3	Honda ジュニアシート
グループIII 22kg ～ 36kg	UF*2	UF	UF*3	UF	U	U	U*3	Honda ジュニアシート

記号の説明

U　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを装着できることを示す。
UF　：汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに装着できることを示す。
L　：添付のリストに記載された特定幼児拘束装置(CRS)を装着できることを示す。
X　：チャイルドシートを装着できないことを示す。
*1　：ホンダ推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
　　他のチャイルドシートも使用に適しているものもありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。
*2　：チャイルドシートを取り付ける場合、シートの前後位置を最も後ろの位置に調節し、シーバックを最も前のロック位置に調節すること。
*3　：チャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。
*4　：後ろ向きに装着できることを示す。

■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

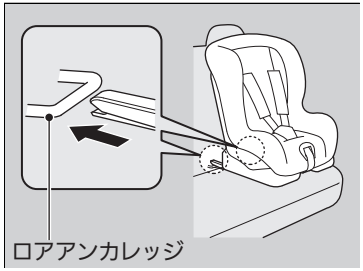
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、セカンドシートの外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下のシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。

2. セカンドシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

➡ **背もたれの角度調整** P.185, 187



3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

セカンドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

次ページに続く

セカンドプレミアムクレードルシート装備車

1本タイプ



2本タイプ



トップテザーストラップ付きチャイルドシート

4. ヘッドレストを調節して最上段で固定し、トップテザーストラップが1本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。
   ▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
5. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っかけ、ストラップを締める。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

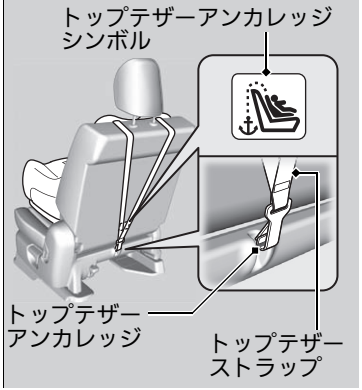
トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

セカンドベンチシート装備車

1 本タイプ



2 本タイプ



次ページに続く



サポートレッグ付きチャイルドシート

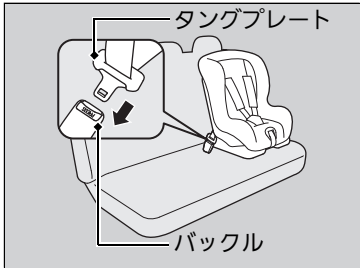
4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。シートの前後左右位置によっては、サポートレッグの設置フロア面が水平ではなく安定しない場合があります。その場合は、シート前後左右位置を調整してください。

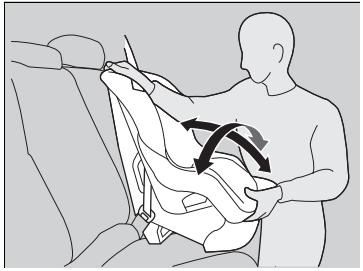
▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

▶ スライドレールやカバーにサポートレッグが設置しないことを確認してください。

■シートベルトでの取り付け



1. セカンドシートの背もたれが、最も前の位置になっていることを確認する。
   ➲ **背もたれの角度調整** P.185, 187
2. チャイルドシートを座席に置く。
3. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
4. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。



■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

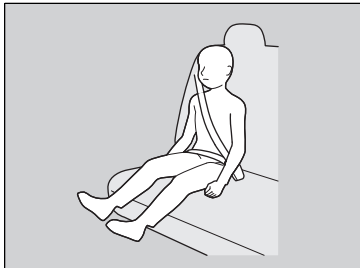
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

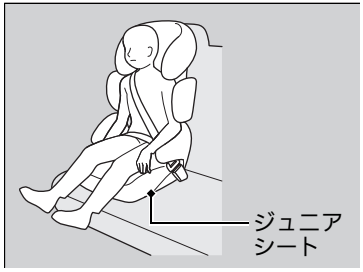
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、セカンドシートまたはサードシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをセカンドシートまたはサードシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRSエアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないかHonda販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。



計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯

警告灯 72

表示灯 86

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ 91

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

メーター 108

マルチインフォメーションディスプレイ .. 110

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 ➡ **ブレーキ警告灯（レッド）が点灯した** P.455 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ システム警告灯 (オレンジ)	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 回生ブレーキシステム、電動サーボシステムが異常のときに点灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯 • オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、高速走行や急停止を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	
		• ヒルスタートアシストシステムが異常のときに点灯	• ヒルスタートアシストシステムが故障して作動しません。Honda 販売店で点検を受けてください。	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
(P)	電子制御パーキングブレーキ作動警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯)	• 電子制御パーキングブレーキが異常のとき、電子制御パーキングブレーキシステム警告灯の点灯と同時に点滅することがあります。この場合、パーキングブレーキが作動しないことがあります。	—
		• 走行中、パーキングスイッチを押し続けたとき	• パーキングブレーキを解除してください。 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.331	
		• ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを引いたとき点灯	• ブレーキペダルを踏んでパーキングブレーキスイッチを引いてください。 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.331	
		• パワーモードが OFF モードのとき、パーキングブレーキスイッチを押すと約 15 秒間点灯し消灯 • パーキングブレーキがかかっていると、パワーモードを OFF モードにしたとき、約 15 秒間点灯し消灯	—	—

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	電子制御パーキングブレーキシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した** P.456	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	油圧警告灯	• パワーモードをON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **➲ 油圧警告灯が点灯した** P.453	
	PGM-FI 警告灯	• パワーモードをON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 パワーシステムを起動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	**➲ PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.454	
	12V バッテリー充電警告灯	• パワーモードをON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • 12Vバッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯** = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 **➲ 12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.453	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	トランスミッション警告灯(シフトポジション表示灯)	• トランスミッションが異常のときに点滅	• 点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードをON モードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➔ **シートベルトリマインダー** P.33	
	Honda スマートキーシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • パワーシステム起動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ8.2リットルになったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 **➔ ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.336	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯(オレンジ)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.330 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285	
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)警告灯(オレンジ)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	エアバッグ システム警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 下記のとき点灯 • エアバッグシステムの異常 • プリテンショナーシステムの異常	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、VSA システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➡ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.262	
	VSA OFF 警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯	➡ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P.262	—
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• パワーモードをON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • EPS システムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.455	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFFにしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➡ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.269	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯	• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.328 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.269	
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.330 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.269	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブラインドスポットインフォメーション警告灯✤	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ブラインドスポットインフォメーションの設定をOFFすると点灯	➡ **ブラインドスポットインフォメーション✤** P.264	
		• 泥、雪あるいは氷がセンサー周辺にたまると点灯	• センサー周辺の付着物を取り除いてください。	
		• ブラインドスポットインフォメーションに異常があるときに点灯	• 点灯したときはただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーシステムが異常のときに点灯	• **走行中に点灯** ＝ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制システムに異常があるとき点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.328 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.310	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯	• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.330 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.310	

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➔ **電球の交換** P.399, 400, 401 ➔ **エマージェンシーストップシグナル** P.338	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯（AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯）	• ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト点灯表示灯	• フォグライトを点灯させると点灯	—	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	• パワーモードをON モードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。このとき同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション(i)スイッチ(▲ / ▼)を押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(i)スイッチ(▲ / ▼)を押すと、メッセージを再表示させる事ができます。	—
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➔ **セキュリティアラームシステム** P.161	—
	ECON 表示灯	• パワーモードをON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯	➔ **ECON スイッチ** P.256	
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションで点灯	➔ **シフト操作** P.254	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ACC	渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押して、渋滞追従機能付 ACC を ON にするとマルチインフォメーションディスプレイ内で点灯	**渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン)	• MAIN スイッチを押して、LKAS を ON にするとマルチインフォメーションディスプレイ内で点灯	**LKAS(車線維持支援システム)** P.299	—

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
READY	READY 表示灯	• パワーシステム起動後、走行が可能な状態のときに点灯	• 故障が発生したときには消灯することがあります。 ➡ **パワーシステムの起動** P.247	
EV	EV 表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • モーターだけでの走行になると点灯	—	—
EV	EV モード表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • EV モードのときに点灯	➡ **EV スイッチ** P.8	
BRAKE HOLD	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドシステムが ON のとき点灯	➡ **オートマチックブレーキホールド** P.334	
Ⓐ	オートマチックブレーキホールド表示灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートマチックブレーキホールドが作動しているとき点灯	➡ **オートマチックブレーキホールド** P.334	—

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(🛈)スイッチ(▲ / ▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 通常走行ができないときに表示	• ただちに安全な場所に車を停車してください。
	• 車両の異常で停車時に車が動いてしまうおそれがあるときに表示	• 停車したときはパーキングブレーキをかけてください。 ➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.331 • Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードを再度ONモードにすることで、走行を続けられるときに表示	➡ **パワーシステムの起動** P.247

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	—
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ライトスイッチ** P.172
	• ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	• エンジン冷却水の温度が異常に上がると表示	• ゆっくり走行してください。
	• エンジン冷却水の温度が上限近くまで上がると表示	• ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➔ **オーバーヒート** P.450

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ドア / テールゲートが完全に閉まっていないときに表示	• ドア / テールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	• パワースライドドアシステムに異常があるときに表示	• パワースライドドアのメインスイッチをOFFにして、ドアの開閉は手動で行い、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。
	• パーキングセンサーシステムが異常のときに表示	• センサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても表示される場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
	• ETC の利用ができないときに表示	• ETC　車載器の詳細は、別冊のメーカーオプション「ETC 車載器」取扱説明書をお読みください。

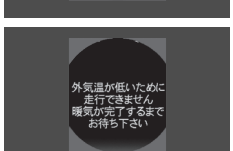
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 12V バッテリーセンサーの機能に異常があると表示 • 12V バッテリーが充電されていないと表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき** = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどをOFF にし、対処してください。 **➔ 12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.453
	メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車 • ルート案内の際に、交差点案内表示が表示	**➔ 別冊のメーカーオプションのHonda インターナビシステム取扱説明書**
	• セレクトレバーが P 以外のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をすると表示	**➔ カスタマイズのしかた** P.122
	• エンジンの冷却システムが異常のときに表示	• すみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに表示	➔ **パワーシステムの起動** P.247
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	• ブレーキペダルを踏まずに POWER を2回押して、パワーモードを OFF モードにしてください。 ➔ **パワーシステムの起動** P.247
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに表示	—
	• パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示 ➔ **Honda スマートキー持ち去り警告** P.169	• パワーモードONの作動範囲内にHondaスマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➔ **Honda スマートキーの取り扱いと電池交換** P.414

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ハンドルのロックが解除されていないときに表示	• ハンドルを左右に動かしながら POWER を押してください。
	• パワーモードが ON モードでセレクトレバーが P 以外のとき、 POWER を押すと表示	• パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを P にして、ブレーキペダルを踏まずに POWER を 2 回押してください。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに POWER スイッチを押すと、警告音と同時に表示	➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.445
	• 走行中に POWER を押すと表示	➡ **緊急時のパワーシステム停止方法** P.446
	• 高電圧バッテリーの残量が著しく低下したとき	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーシステムの温度が高いときに表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • 安全な場所に車を止め、冷却してください。 ➡ **オーバーヒート** P.450
	• パワーシステムの温度が低いときに表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • メッセージを表示させないようにするためには、車両を車庫に保管するか、事前に走行して高電圧バッテリーを温めておきます。
	• 高電圧バッテリーの温度が極度に低いとき（− 40 ℃以下）	• バッテリー温度が上がるまでお待ちください。または温度の高い所へ移動してください。 • 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。
	• 外気温の影響により高電圧バッテリーの温度が著しく低いとき（ − 30 ℃以下）	• 高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。 • 車内を暖房すると高電圧バッテリーが暖まり、走行可能になるまでの時間を短縮できます。
	• パワーシステムが自己診断モードになると表示	• 車速を維持できない場合があります。また、減速する場合があります。 ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • 自己診断の結果によっては、パワーシステム警告灯も点灯する場合があります。 ➡ **パワーシステム警告灯** P.83

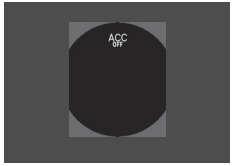
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車両接近通報システムに異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• EV スイッチを押したとき、加速などでエンジン駆動していると表示	• EV モードは低速で一定な走行中に利用できます。
	• EV スイッチを押したとき、高速走行でエンジン駆動していると表示	• 高速走行中は EV モードの走行はできません。
	• 下記の場合、EV 走行モードが自動的に解除されると表示 • 高電圧バッテリーの残量が少ないとき • 車速が高いとき • エンジン暖機中は車速が 40km/h をこえたとき • アクセルペダルを大きく踏み込んだとき • 坂道などを走行しているとき	—
	• 12V バッテリー充電警告灯点灯後に表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• EV スイッチを押したとき、暖房のためエンジン駆動していると表示	• エアコンの設定温度に達するまで EV モードの走行はできません。
	• EV スイッチを押したとき、エンジン暖機中に表示	• エンジンが温まったあと、再度 EV スイッチを押してください。
	• EV スイッチを押したとき、高電圧バッテリーの残量が少ないと表示	• 高電圧バッテリーが充電されたあと、再度EV スイッチを押してください。
	• EV スイッチを押したとき、高電圧バッテリーの温度が低いと表示	• しばらく走行し高電圧バッテリーが温まってから、再度 EV スイッチを押してください。
	• EV スイッチを押したとき、エンジン駆動が必要なときに表示	—

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にオートマチックブレーキホールドが停止したときに表示 • 警報音が鳴ることがあります	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。
	• オートマチックブレーキホールドスイッチを押して、オートマチックブレーキホールドシステムをOFF にすると表示	**オートマチックブレーキホールド** P.334
	• 運転席のシートベルトを着用せずに、オートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• 運転席のシートベルトを着用してください。 **オートマチックブレーキホールド** P.334
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートマチックブレーキホールドスイッチを押すと表示	• ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押してください。 **オートマチックブレーキホールド** P.334
	• オートマチックブレーキホールドが作動中に、自動的にパーキングブレーキがかかったときに表示	**オートマチックブレーキホールド** P.334 **電子制御パーキングブレーキ** P.331

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付 ACC の作動が自動的に解除されたとき	• 渋滞追従機能付ACCが自動解除になった原因が解決された場合、 RES/+ を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285 ➡ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.269
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC がセットできないときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• 車速が高すぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 車速を下げてから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 停車中に先行車が発進し、レーダーセンサーの検知範囲からいなくなって渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付ACCをセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• 車速 30km/h 未満で先行車がいなくてセットできないときに表示	• 先行車がいる状態または車速30km/h以上で走行して渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• 先行車との車間距離が接近しすぎて渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• 先行車との車間距離が接近しすぎてセットできないときに表示	• 先行車との車間距離をとってから渋滞追従機能付 ACC を再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285

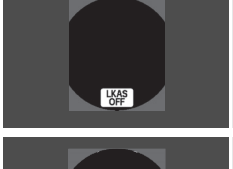
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 運転席のシートベルトが着用されておらずセットできないときに表示	• 運転席のシートベルトを着用してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• シフトポジションが D または S 以外でセットできないときに表示	• シフトポジションを D または S にしてから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• 急な坂道で停車して渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 急な坂道で停車していてセットできないときに表示	• 坂道が緩やかになってから渋滞追従機能付ACCを再度セットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• パーキングブレーキがかかっていてセットできないときに表示	• パーキングブレーキを解除してから渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285 ➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.331
	• 走行中にブレーキペダルを操作していてセットできないときに表示	• ブレーキペダルを操作していない状態で渋滞追従機能付 ACC をセットしてください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、渋滞追従機能付 ACC の作動が解除されたときに表示	• ただちにブレーキペダルを踏んでください。 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停止しているとき、先行車が発進したときに表示	• RES/+ スイッチか -/SET スイッチを押す、またはアクセルペダルを踏むと発進できます。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285
	• 先行車発進お知らせ機能が作動すると表示	➡ **先行車発進お知らせ機能** P.317
	• 渋滞追従機能付 ACC が作動しているときにスリップやホイールスピンなどが発生したときに表示	• 渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)を使用するときは再度、設定しなおしてください。 ➡ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車線を越えそうになると、ハンドルの振動による警告と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、メッセージが消えます。 **LKAS(車線維持支援システム)** P.299 **路外逸脱抑制機能** P.310
	• ハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• ハンドル操作をすると、メッセージが消えます。 **LKAS(車線維持支援システム)** P.299
	• LKAS システムに異常が起こりLKASの作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 **LKAS(車線維持支援システム)** P.299
	• 車線からはみ出るような走行をすると、ハンドル制御と同時に表示	—

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、渋滞追従機能付 ACC、LKAS、標識認識機能が使用できなくなると表示 • 雨、霧、雪など悪天候のときも表示することがあります	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.328 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.299 ➔ **標識認識機能** P.321
	• フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、渋滞追従機能付 ACC、LKAS、標識認識機能が使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.328 ➔ **渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.285 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.299 ➔ **標識認識機能** P.321
	• 光ビーコンアンテナの機能に異常があると表示	• Honda 販売店で点検を受けてください。
	• 信号情報活用運転支援/走行情報送信をカスタマイズ設定で機能 OFF にしているときに表示	➔ **カスタマイズのしかた** P.122 ➔ **信号情報活用運転支援システム** P.257

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

»燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

■時計

時刻を表示します。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

➔ **時刻の設定** P.135

■パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態をバーグラフで表示します。

時計

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

カスタマイズの詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態は、パワーフローとして、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

➔ **高電圧バッテリー残量 / パワーフロー/ エンジン作動表示** P.119

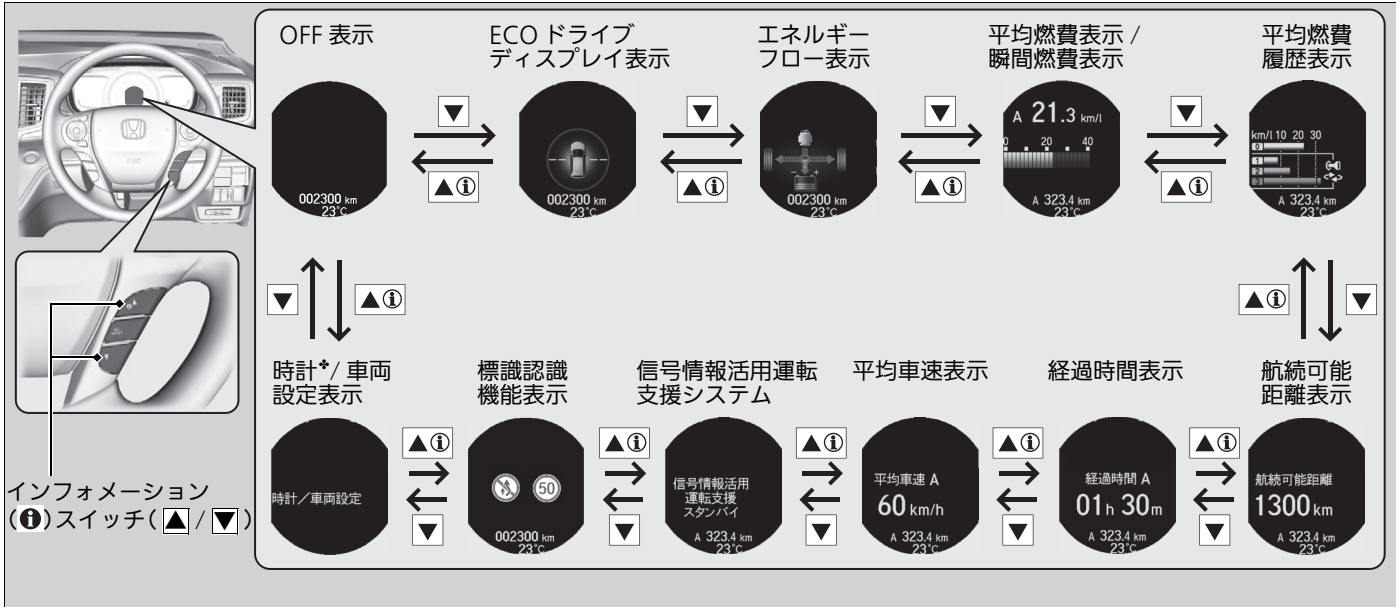
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知するとメッセージが表示されます。

■表示の切り換えかた

■メインディスプレイ

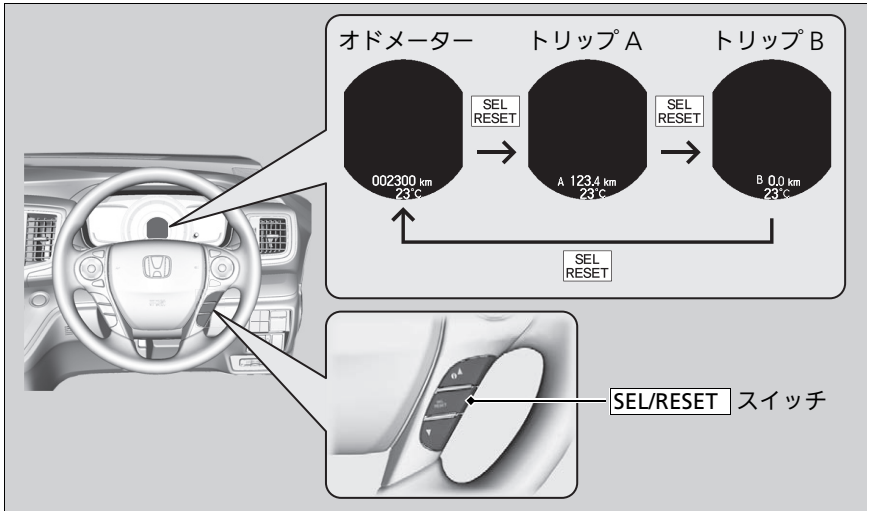
インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲ / ▼)を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■サブディスプレイ

SEL/RESET を押すごとに画面が切り換わります。



次ページに続く

■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、 SEL/RESET を押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■平均燃費

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターA、B をリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターA とトリップメーターB は、 SEL/RESET を押して切り換えられます。

平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
カスタマイズ機能 P.120

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーの残量と燃料、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。
車両停止状態でも EV 航続可能距離が変動する場合があります。

経過時間表示

経過時間表示は 99 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ カスタマイズ機能 P.120

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ カスタマイズ機能 P.120

次ページに続く

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3℃の範囲で補正することができます。

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

➔ **カスタマイズ機能** P.120

■標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➔ **標識認識機能** P.321

■交差点案内表示✤



ナビゲーションシステムと連動して、交差点での曲がる方向や交差点までの距離を表示します。

➔ **別冊のメーカーオプションのHondaインターナビシステム取扱説明書**

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードをON モードにしたとき、外気温が3℃以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

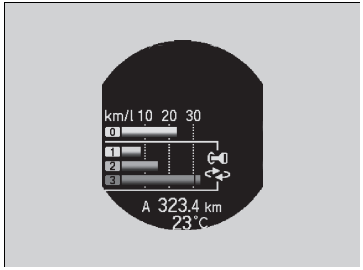
交差点案内表示✤

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.120

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■平均燃費履歴表示



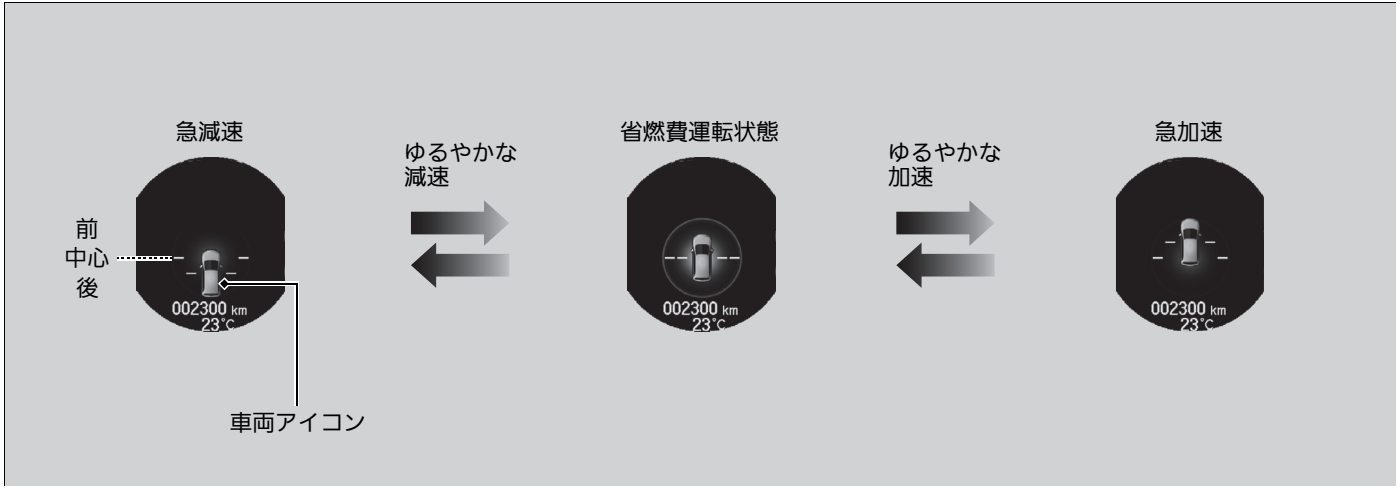
走行時の平均燃費履歴を過去3 回分表示します。
パワーモードを ON モードにすると更新され、最も古い履歴が消去されます。

次ページに続く

■ ECO ドライブディスプレイ /ECO スコア

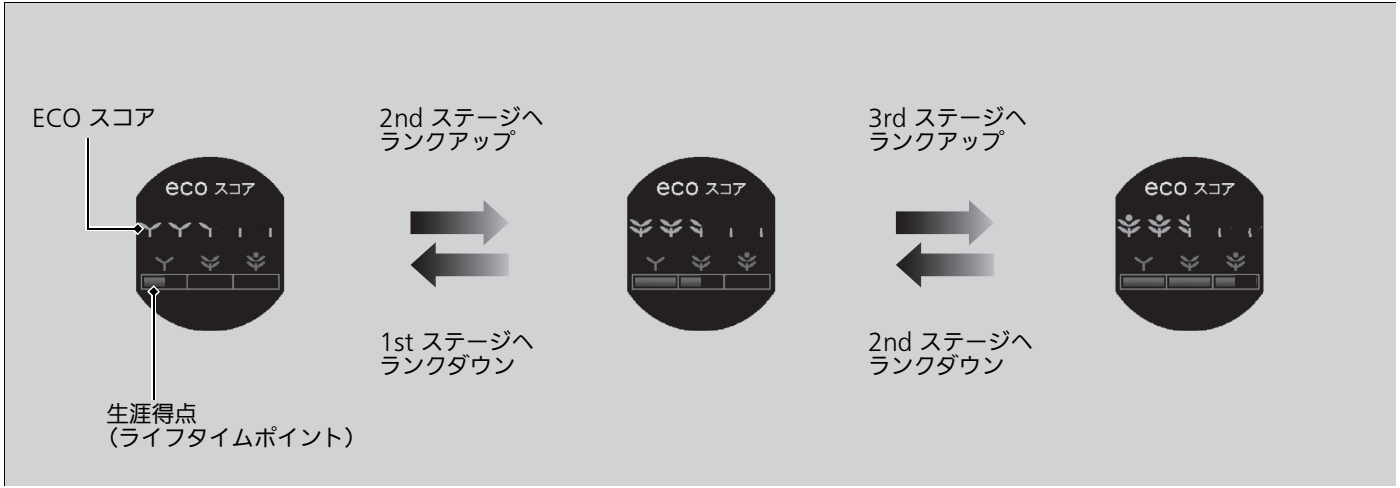
■ECO ドライブディスプレイ

運転操作の状態に応じて車両アイコンが前後に移動します。
急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。
車両が中心からずれないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



■ECO スコア

パワーモードを OFF にすると、数秒表示されます。
1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ(ダウン)します。



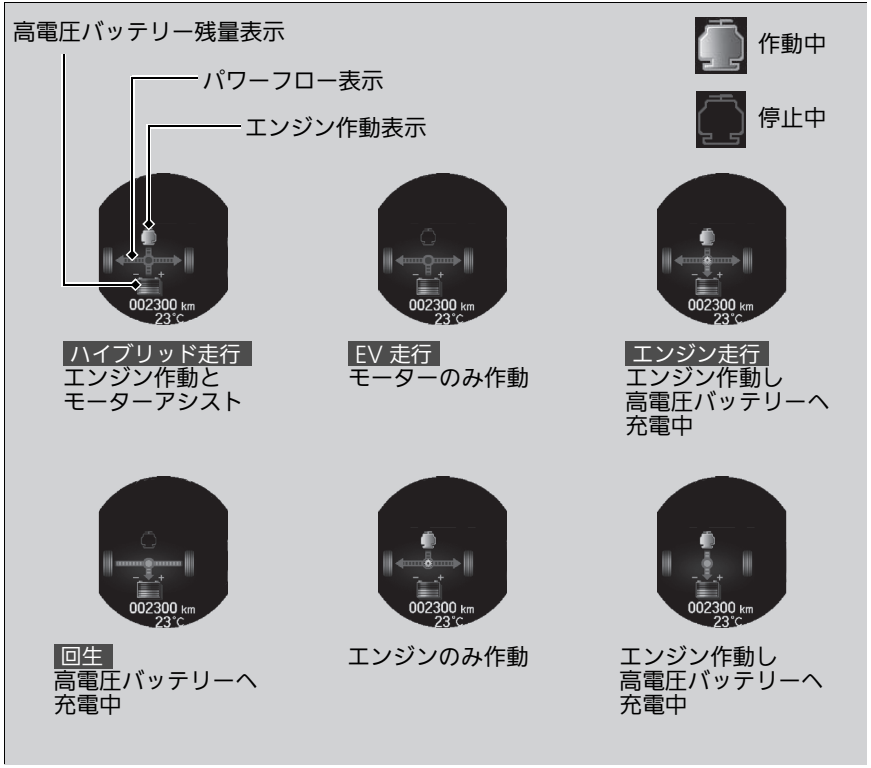
次ページに続く

■ECO スコアのリセット

1. セレクトレバーが P であることを確認し、パワーモードを ON モードにする。
2. ECONモードがONのときは、ECONスイッチを押してECONモードをOFFにする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 再度パワーモードを ON モードにする。
▶ 手順 4 ～ 6 は、30 秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを 2 回踏み込む。
6. ECON スイッチを 2 回押す。
▶ アンビエントメーターが消灯します。
7. パワーモードを OFF モードにする。

■高電圧バッテリー残量 / パワーフロー/ エンジン作動表示

高電圧バッテリーの残量や、高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。



≫高電圧バッテリー残量 / パワーフロー/ エンジン作動表示

パワー表示(POWER)とチャージメーター表示(CHARGE)の動きとパワーフロー/ エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

➡ **パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)** P.109

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

走行すると自動的に充電されます。

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



次ページに続く

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
時計設定✤	時刻調整✤	時間(00 ～ 23)、分(00 ～ 59)
	時計表示✤	24h、12h※、非表示
運転支援システム設定	CMBS 警報距離	Far、Normal※、Near
	ACC 先行車検知音	有り、無し※
	先行車発進お知らせ設定	標準※、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定	アシストタイミング 早め、アシストタイミング 標準※、アシストタイミング 遅め、操舵アシストなし 警報のみ
	レーンキープアシストシステム制御解除警報音	ON、OFF※
	ブラインドスポットシステム設定✤	警報音 / 警報表示※、警報表示、OFF
	標識認識機能	常駐表示 ON※、常駐表示 OFF
	信号情報活用運転支援 / 走行情報送信	割り込み表示有り / 青信号予告音有り※、割り込み表示有り / 青信号予告音無し、割り込み表示無し / 青信号予告音有り、割り込み表示無し / 青信号予告音無し、機能 OFF
メーター設定	外気温表示補正	−3 ℃ ～ ±0 ℃※ ～ +3 ℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON※、OFF
	交差点案内表示✤	ON※、OFF

※：工場出荷値の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

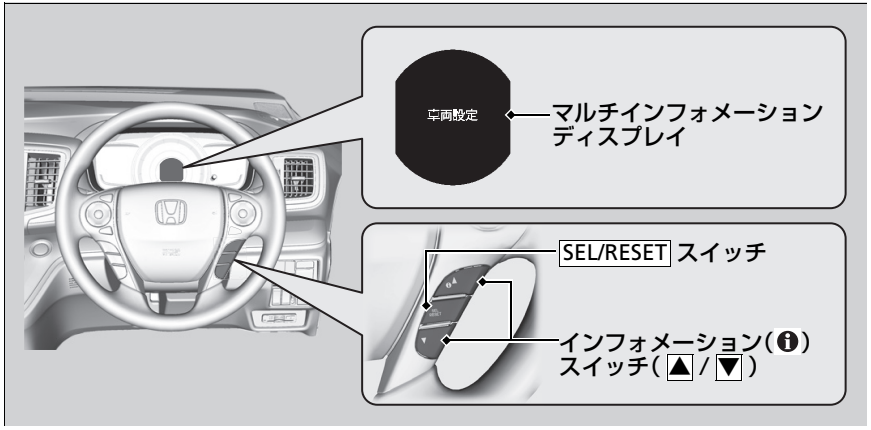
カスタマイズ機能		選択できる設定内容
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	オートライト感度	MAX、HIGH、MID※、LOW、MIN
ドア設定	自動ドアロック連動機能	車速連動※、シフト連動、非連動
	自動ドアアンロック連動機能	シフト連動※、IGN OFF 連動、非連動
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティー機能	作動※、非作動
	オートリトラミラー格納	キーレス連動※、手動のみ
工場出荷設定		中止、実行

※：工場出荷値の設定

次ページに続く

■カスタマイズのしかた

パワーモードがONモードでセレクトレバーがPのときに、インフォメーション(🛈)スイッチ(▲/▼)を押して「時計✤/ 車両設定」を選択します。そしてSEL/RESETを操作すると、カスタマイズを行うことのできる「カスタマイズグループ」画面に切り換わります。

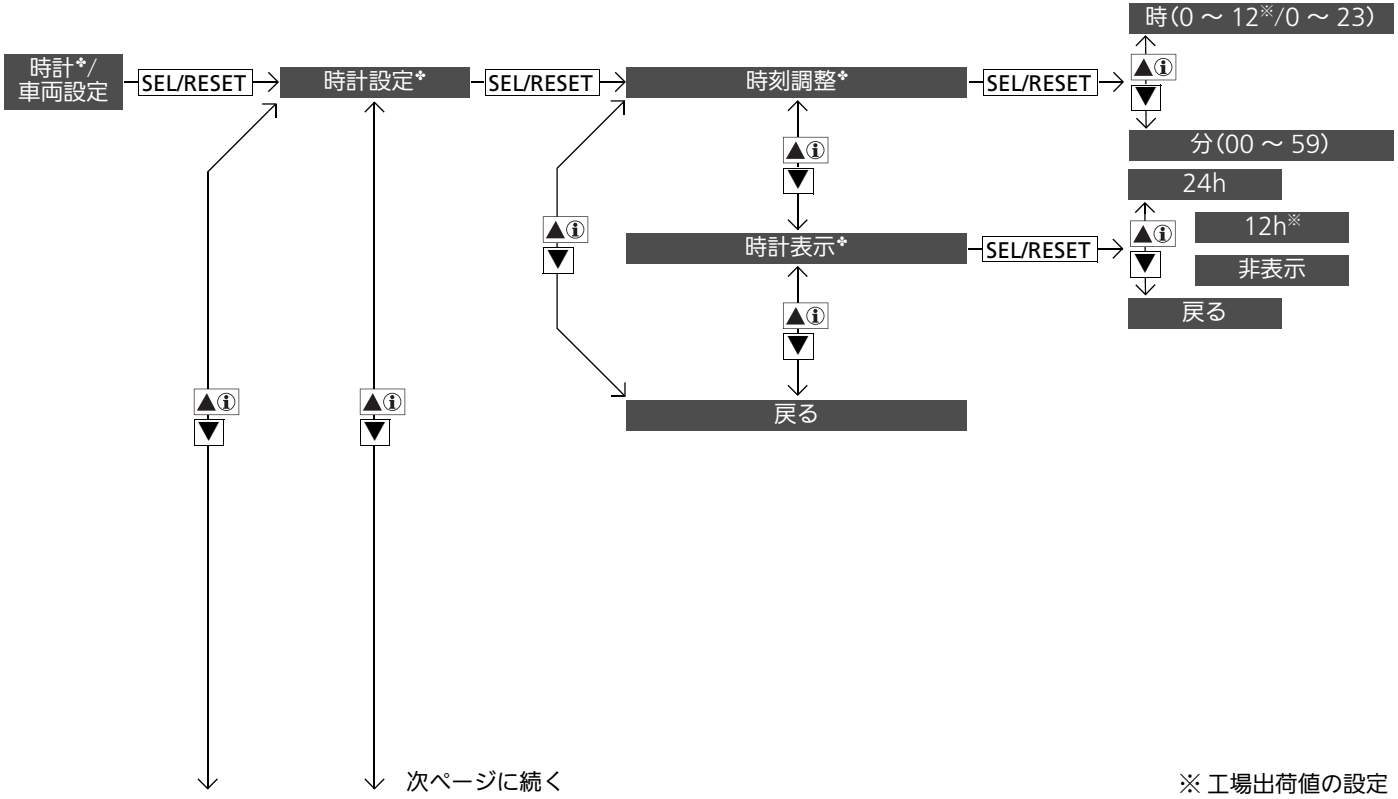


▶▶カスタマイズのしかた
▶▶ **カスタマイズ操作一覧** P.123
▶▶ **カスタマイズ設定の例** P.132

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■カスタマイズ操作一覧

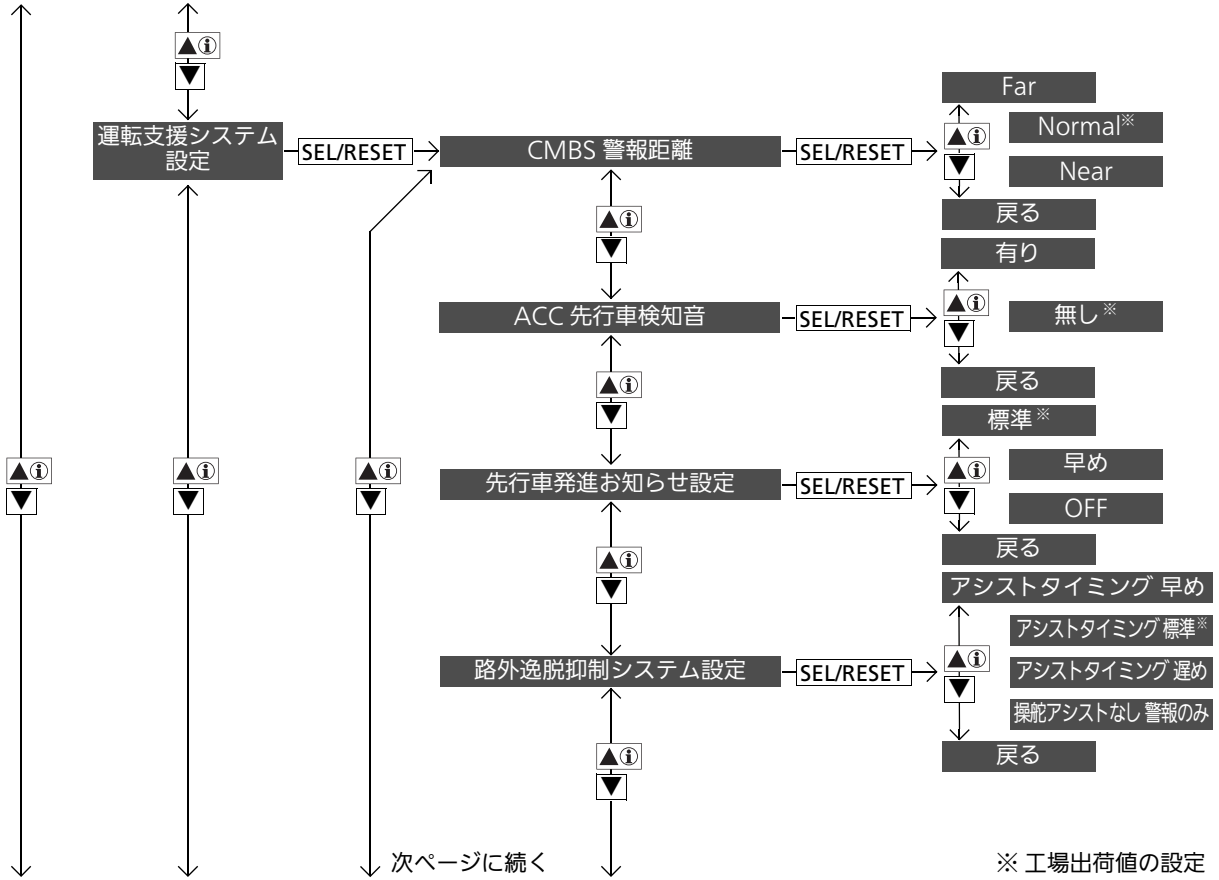
インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、SEL/RESETで決定します。



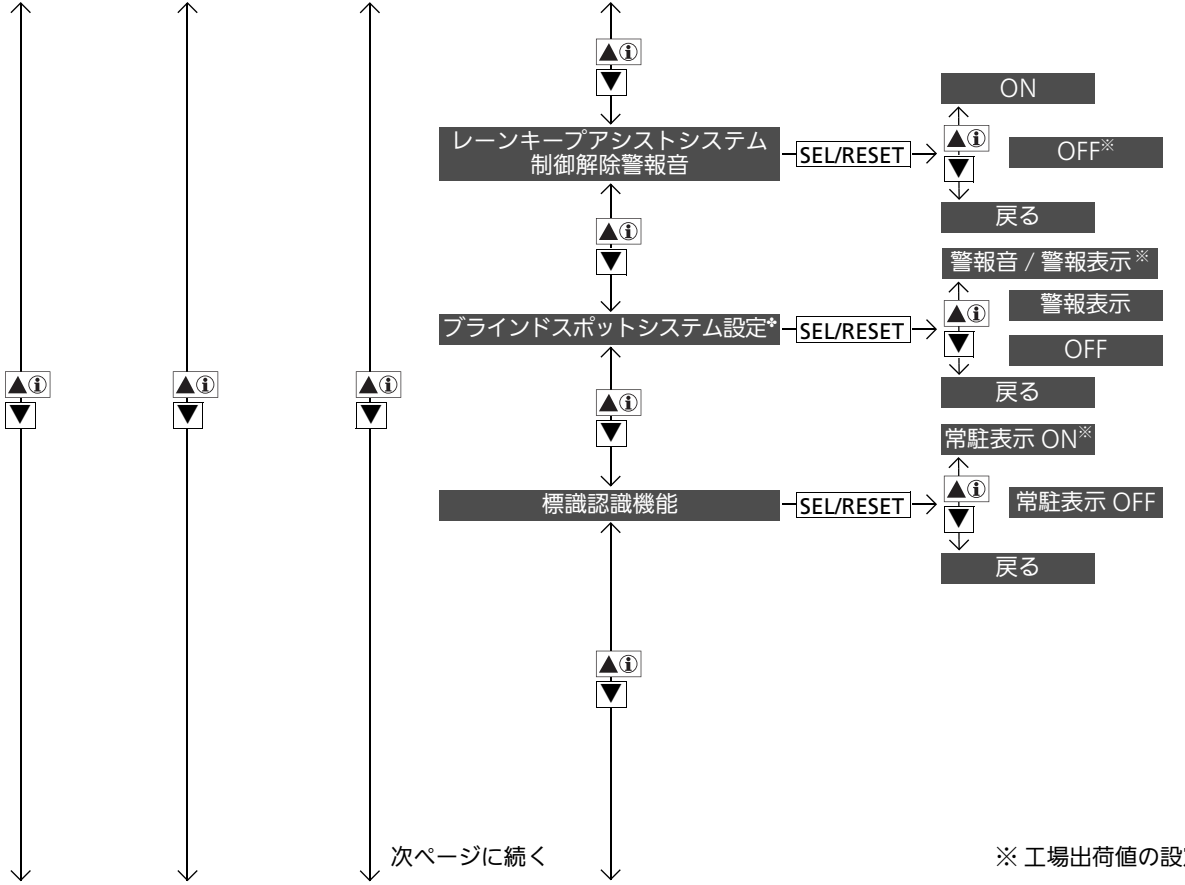
※ 工場出荷値の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く


運転支援システム設定
SEL/RESET
CMBS 警報距離
SEL/RESET
Far
Normal※
Near
戻る
ACC 先行車検知音
SEL/RESET
有り
無し※
戻る
先行車発進お知らせ設定
SEL/RESET
標準※
早め
OFF
戻る
路外逸脱抑制システム設定
SEL/RESET
アシストタイミング 早め
アシストタイミング 標準※
アシストタイミング 遅め
操舵アシストなし 警報のみ
戻る
次ページに続く

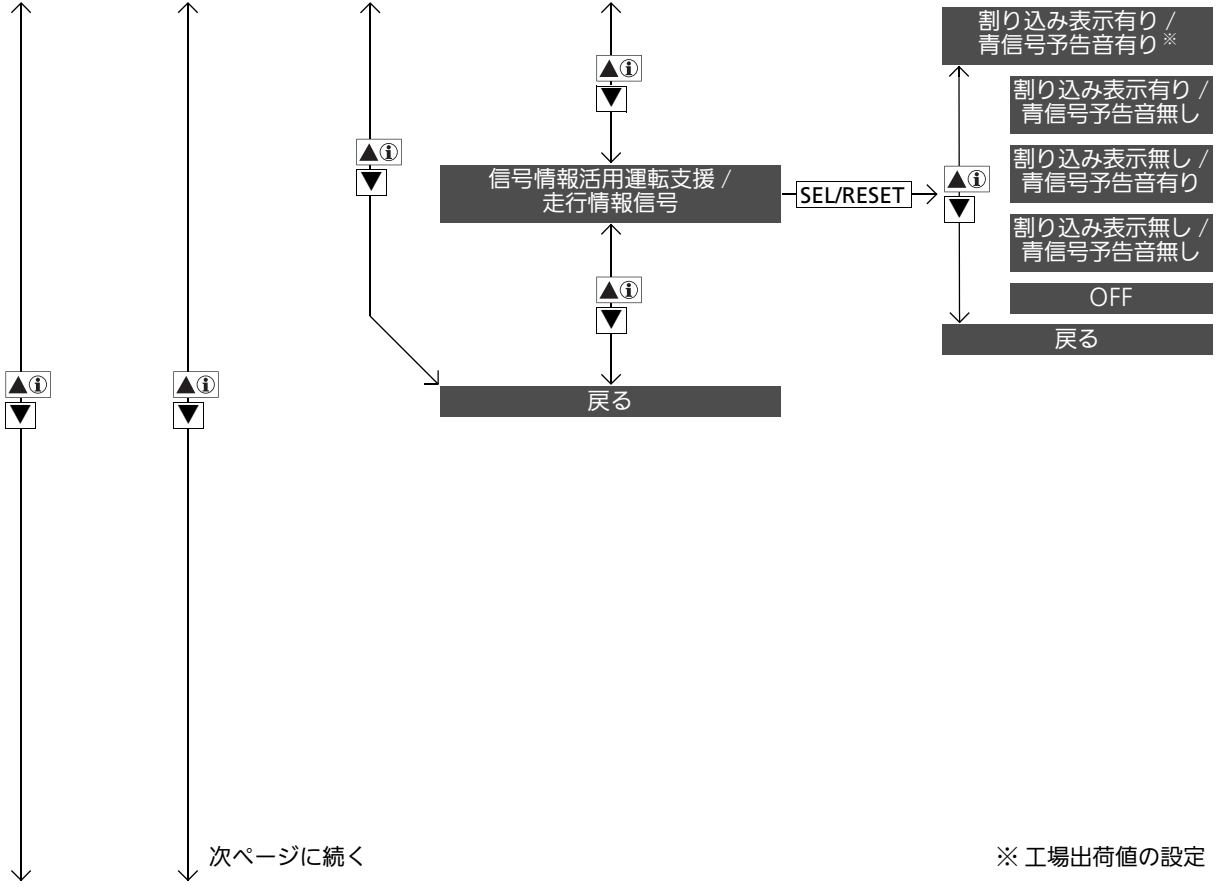
※ 工場出荷値の設定



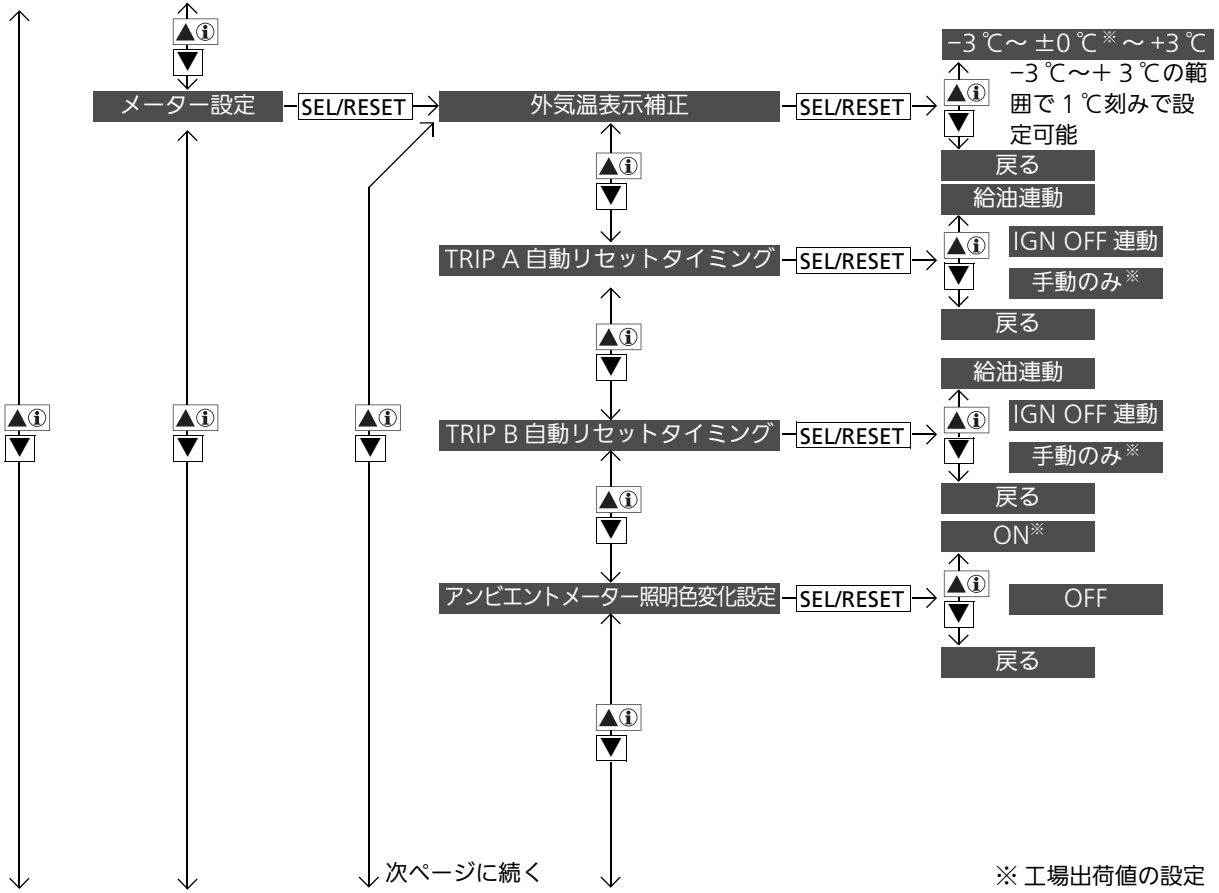
※ 工場出荷値の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

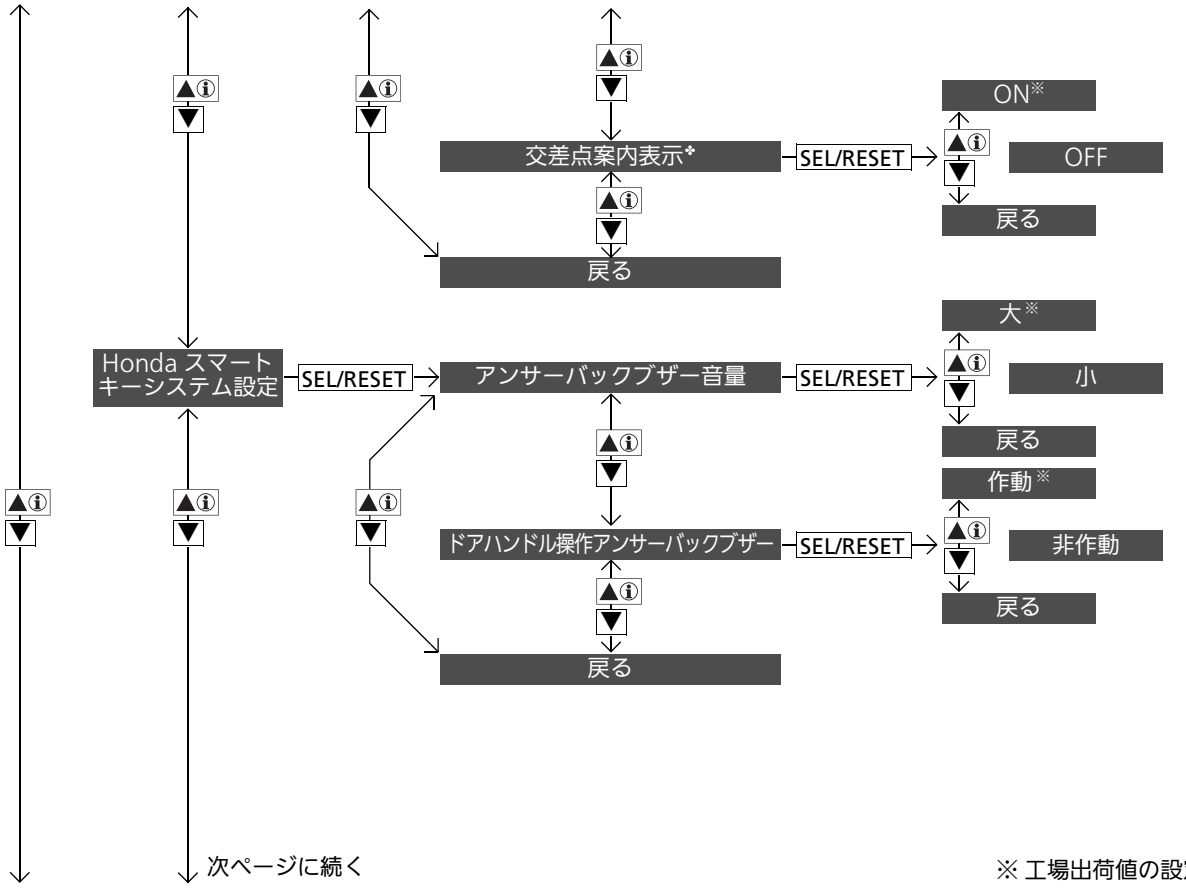

信号情報活用運転支援 /
走行情報信号
SEL/RESET
戻る
割り込み表示有り /
青信号予告音有り ※
割り込み表示有り /
青信号予告音無し
割り込み表示無し /
青信号予告音有り
割り込み表示無し /
青信号予告音無し
OFF
戻る
次ページに続く

※ 工場出荷値の設定



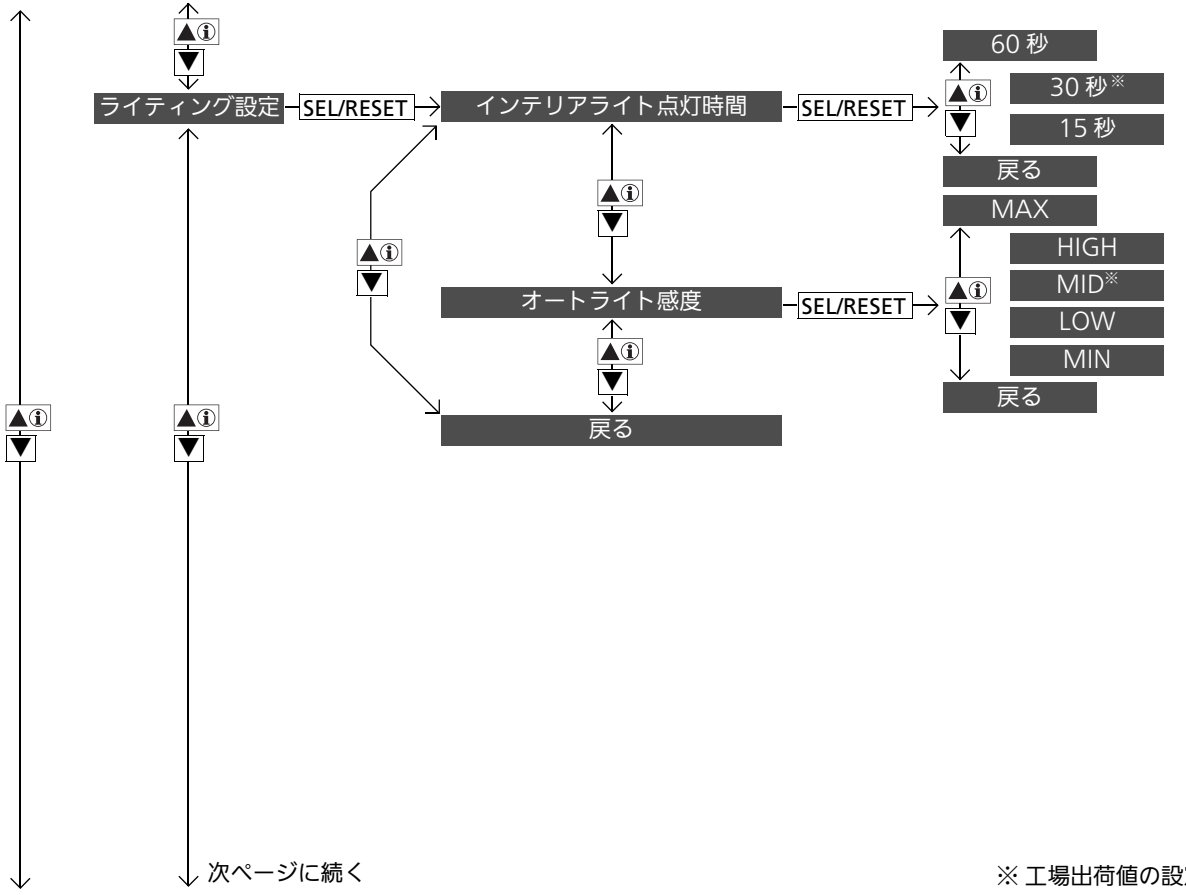
※ 工場出荷値の設定

次ページに続く



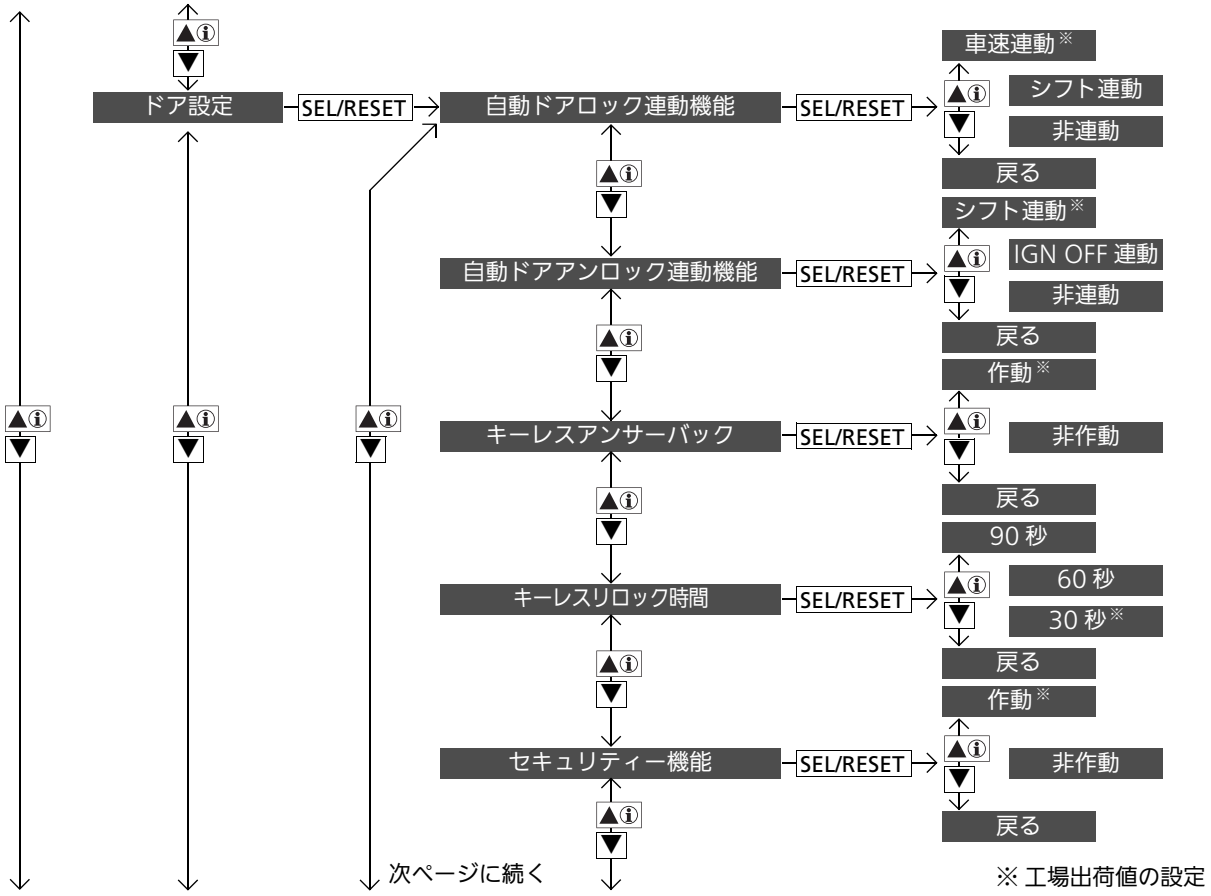
※ 工場出荷値の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

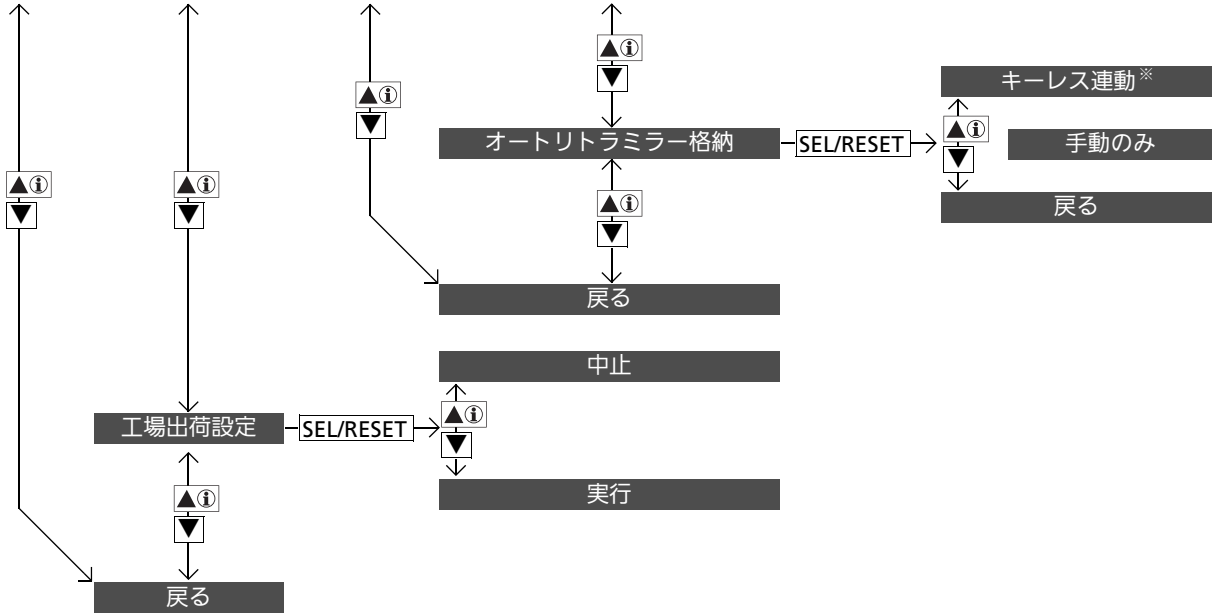


※ 工場出荷値の設定

次ページに続く


ドア設定
SEL/RESET
自動ドアロック連動機能
SEL/RESET
車速連動※
シフト連動
非連動
戻る
自動ドアアンロック連動機能
SEL/RESET
シフト連動※
IGN OFF 連動
非連動
戻る
キーレスアンサーバック
SEL/RESET
作動※
非作動
戻る
キーレスリロック時間
SEL/RESET
90 秒
60 秒
30 秒※
戻る
セキュリティー機能
SEL/RESET
作動※
非作動
戻る
次ページに続く

※ 工場出荷値の設定


キーレス連動※
オートリトラミラー格納
SEL/RESET
手動のみ
戻る
戻る
中止
工場出荷設定
SEL/RESET
実行
戻る

次ページに続く

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A　自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A　自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計✤/ 車両設定」が表示されたら、SEL/RESET を操作する。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されますので、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を選択します。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「運転支援システム設定」が表示されますので、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を選択します。

2. SEL/RESET を操作する。

▶「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



3. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「TRIP A　自動リセットタイミング」が表示されたら、 SEL/RESET を操作する。
▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり、「給油連動」、「IGN OFF 連動」、「手動のみ」が選択できます。



4. 「給油連動」が選択されていることを確認し、 SEL/RESET を操作する。
▶「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「カスタマイズメニュー」画面に戻ります。



5. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、 SEL/RESET を操作する。
6. **手順 5** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。



時刻の設定 135
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 138
車外でのドアの施錠 / 解錠 141
車内での施錠 / 解錠 147
チャイルドプルーフ 149
オートドアロック/オートドアアンロック 150
テールゲートの開閉 151
スライドドアの開閉 152
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 161
セキュリティアラームシステム 161
ウィンドーの開閉 163
ハンドルまわりのスイッチ操作
POWER スイッチ 167
方向指示器(ウィンカースイッチ) 170
アクティブコーナリングライト✤ 171
ライトスイッチ 172
フォグライト 174
ワイパー/ ウォッシャー 175
イルミネーションコントロール 177
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ 178
ハンドルの調節 178
ミラー類の調節 179
シートの調節 182
ヘッドレスト 194
アームレスト 198
室内灯 / 室内装備品 200
エアコン
エアコンの吹き出し口 216
オートエアコンの使いかた 217
後席用オートエアコン✤ 225
後席用クーラー✤ 228

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda インターナビシステム非装備車

時計の時刻を合わせる

時計はメーターディスプレイに表示されます。

■時刻調整





1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計/車両設定」が表示されたら、SEL/RESETを操作する。
   ▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. SEL/RESETを操作する。
   ▶「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、最初に「時刻調整」が表示されます。
3. SEL/RESETを操作する。
   ▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。
4. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、SEL/RESETを操作する。
   ▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、SEL/RESETを操作する。
   ▶「分」が設定され、「〇〇：〇〇に設定しました」という画面が表示された後、「カスタマイズメニュー」画面に戻ります。

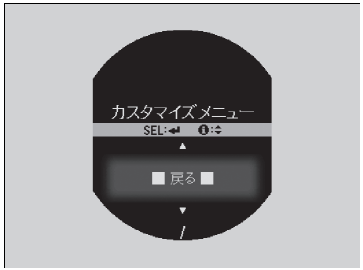
次ページに続く

≫時刻の設定

Honda インターナビシステム装備車

インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押しても時計調節表示に切り替わりません。

時刻は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。



6. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、SEL/RESETを操作する。
7. **手順6**の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

■時計表示



1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計/車両設定」が表示されたら、SEL/RESETを操作する。
▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. SEL/RESETを操作する。
▶「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、最初に「時刻調整」が表示されますので、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計表示」を選択します。



3. SEL/RESET を操作する。
▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり、時計表示設定ができます。

4. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押す。
▶24h/12h/非表示に切り換えることができます。
▶「12h」または「24h」を選択すると時計表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
▶「非表示」を選択すると時計が非表示となります。

5. SEL/RESET を操作する。
▶設定完了のメッセージ画面が表示された後、「カスタマイズメニュー」画面に戻ります。

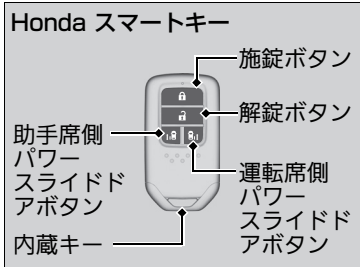


6. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、SEL/RESET を操作する。

7. **手順6** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠/解錠に使用できます。

また、キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠/解錠の操作ができます。

キーの種類と機能

キーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

イモビライザーシステム P.161

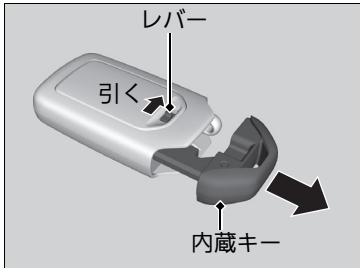
キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■内蔵キー

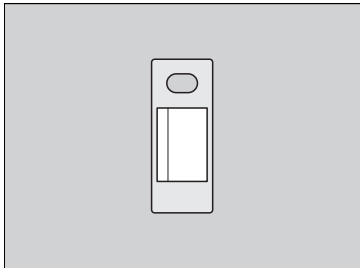


Honda スマートキーの電池が切れたときや車の12Vバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

キーの種類と機能

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.445

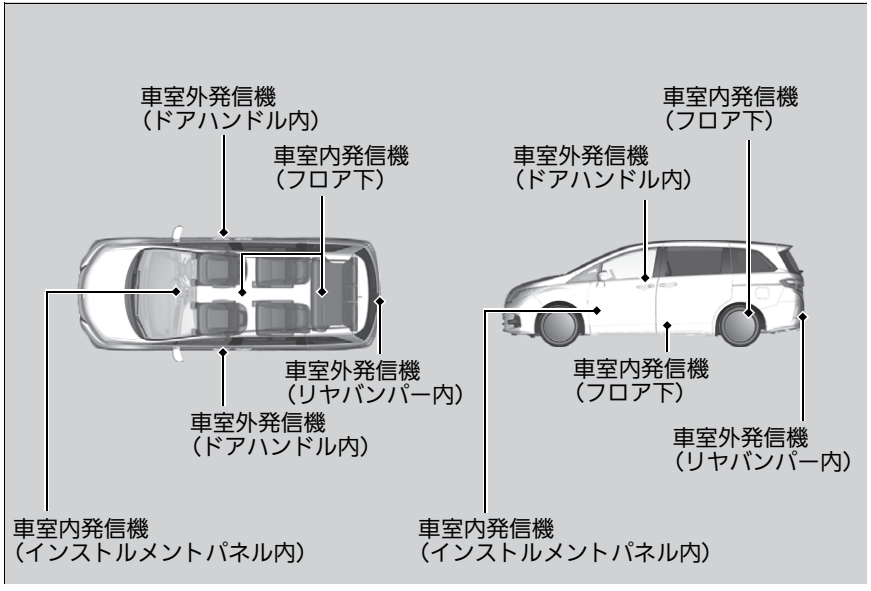
キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



▶Honda スマートキーの微弱電波

⚠注意

植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

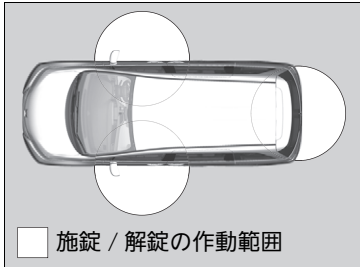
Hondaスマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Hondaスマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



施錠 / 解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠ができます。
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

車外でのドアの施錠 / 解錠

ドア、テールゲートを解錠すると、室内灯が点灯します。
室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。
約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドア、テールゲートを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。
➔ **室内灯** P.200

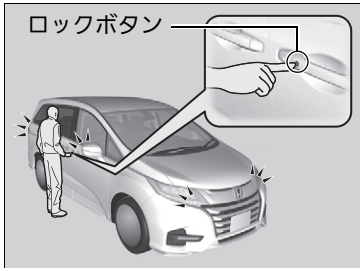
Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

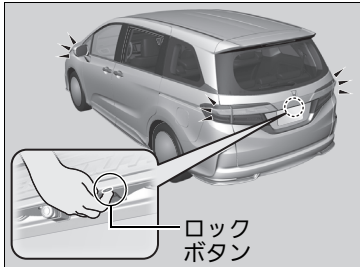
30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときは Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

- Hondaスマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲にHondaスマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。

次ページに続く





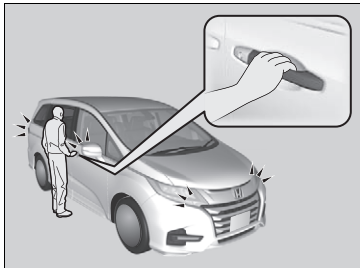
■施錠するには

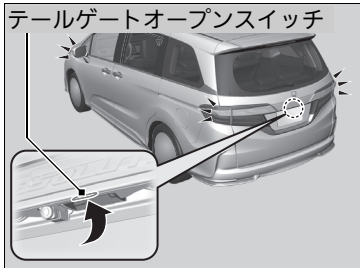
運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内にHondaスマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後、もしくはテールゲートオープンスイッチを押した直後はドア、テールゲートが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおすか、テールゲートオープンスイッチを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。





■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

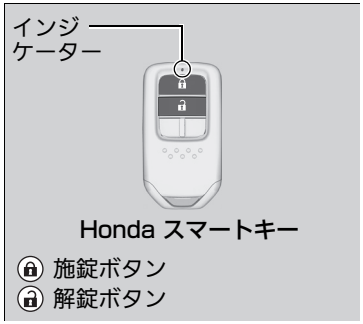
カスタマイズ機能について

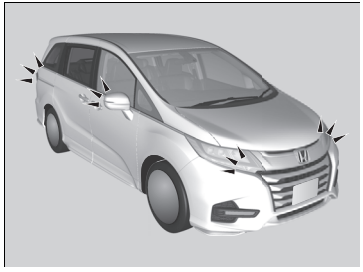
施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.120

次ページに続く

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠





■施錠

施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

マルチインフォメーションディスプレイで再施錠される時間をカスタマイズすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.120

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

➔ **電池交換のしかた** P.414

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

➔ **電池交換のしかた** P.414



キーを確実に差し込んで、回します。

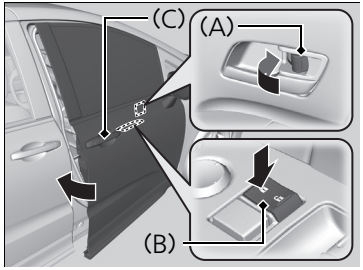
≫キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアにキーを差し込んで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠/解錠されます。

次ページに続く

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

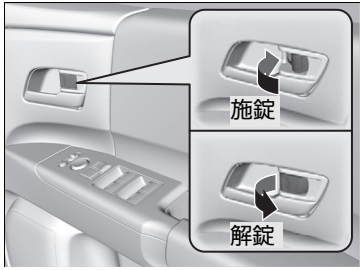
»キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



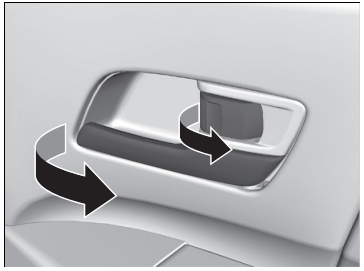
■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠



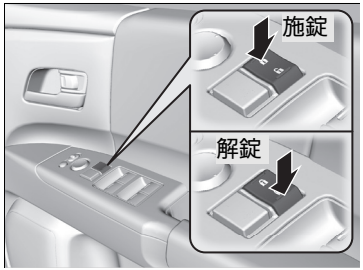
運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開き、同時にすべてのドアが解錠されます。

運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

次ページに続く

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠/解錠のほうに押します。

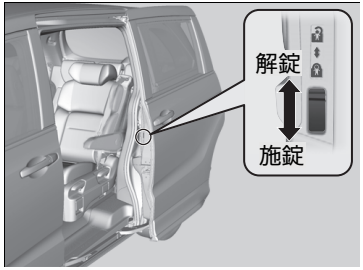
»マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをセカンドシートまたはサードシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。
運転席スイッチ、キーレスエントリーシステムでも開閉できます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック

■車速連動

車速が約15km/h以上になるとすべてのドア、テールゲートが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック

■セレクトレバー連動

ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを P に入れると、すべてのドア、テールゲートが自動的に解錠される機能です。

オートドアロック / オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

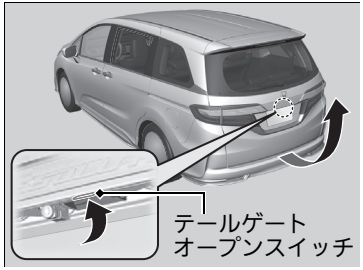
カスタマイズ機能 P.120

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
  ➡ **一酸化炭素について** P.70

テールゲートを開ける



解錠されているときに、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げます。

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

➡ **Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠** P.141

テールゲート開閉時の注意

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

スライドドア開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■閉めるとき

- Honda スマートキーを、車内に置き忘れないようにする

スライドドアの開閉

⚠注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。
特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。
ドアが不意に閉まるおそれがあります。

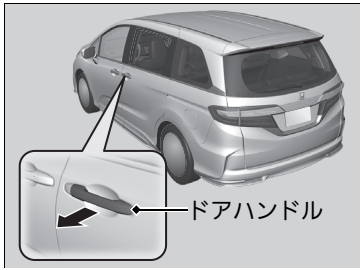
ドアハンドルをしっかり持って開閉する。
ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまがスライドドアを誤って操作しないように、チャイルドプルーフをセットしてください。
➔チャイルドプルーフ P.149

スライドドアのドリンクホルダーに、はみ出すものを入れていると、開閉の妨げになったり、車体に傷をつけるおそれがあります。

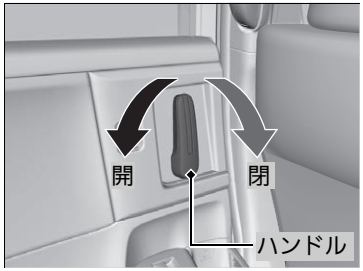
スライドドアの開閉操作



■車外から開閉するとき

開けるとき： ドアハンドルを引き後方へスライドさせる。

閉めるとき： ドアハンドルを引き前方へスライドさせる。



■車内から開閉するとき

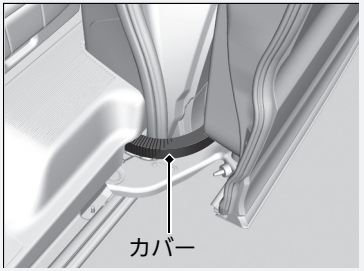
開けるとき： ハンドルを持ち後方へ引いてスライドさせる。

閉めるとき： ハンドルを持ち前方へ押してスライドさせる。

スライドドアの開閉操作

スライドドアは全開にするとストッパーで固定されます。

スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因となります。踏まないように注意してください。



フューエルリッドが開いた状態で、助手席側のパワースライドドアの操作を行うとブザーが鳴り、作動しません。

助手席側のスライドドアはフューエルリッドが開いているとストッパーが作動して途中で止まります。フューエルリッドを閉めてスライドドアを少し戻してから開けると全開できます。

パワースライドドアの開閉操作

キーレスエントリーシステムや運転席にあるパワースライドドアスイッチを使って、パワースライドドアを自動で開閉することができます。また、ドアハンドルを引いて自動で開閉することもできます。

パワースライドドアの開閉操作

⚠警告

パワースライドドアを開閉するときは、ドアの内側と外側の安全を十分確認する。
ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを OFF にする。
ON のままだと、誤ってメインスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉する。また乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかける。
パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすことがあります。

■自動で開閉するときの条件

次の条件が揃っているときに、自動で開閉することができます。

- メインスイッチが ON のとき
- パワースライドドアが解錠されているとき
- フューエルリッドが閉じているとき(助手席側のみ)

キーレスエントリーシステム、パワースライドドアスイッチ、ドアハンドルで開閉操作する場合、以下の条件が追加されます。

■キーレスエントリーシステムでの開閉条件

- パワーモードが OFF モードのとき

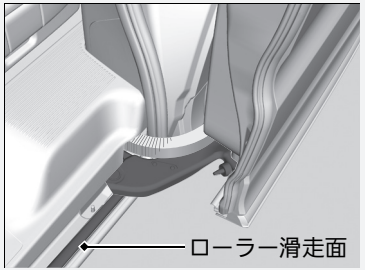
■パワースライドドアスイッチ、ドアハンドルでの開閉条件

- パワーモードを ON モードにしているときは、セレクトレバーが P のとき
  ▶ P 以外でもブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキがかかっているときは操作できます。

パワースライドドアの開閉操作

パワースライドドアのローラーの滑走面に石などの異物があると、作動不良になる場合があります。

異物を取り除く場合は、水平な場所で必ずメインスイッチを OFF にして行ってください。

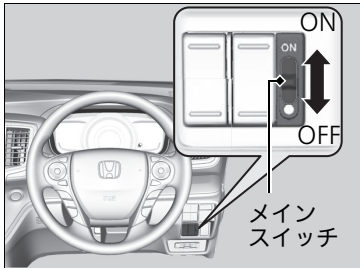


パワーモードが ON モード でパワースライドドアを作動中のときに、セレクトレバーが P 以外でパーキングブレーキが解除されているとき、ブレーキペダルから足を離すと、ブザーが鳴ります。

開けているときは「ピー」とブザーが鳴り続けて途中で止まり、閉めているときは「ピーピーピーピー」とブザーが鳴り、そのまま閉まります。

次ページに続く

■自動開閉と手動開閉の切り換え



自動開閉：メインスイッチを ON にする
手動開閉：メインスイッチを OFF にする
➡ **スライドドアの開閉操作** P.153

パワースライドドアの開閉操作

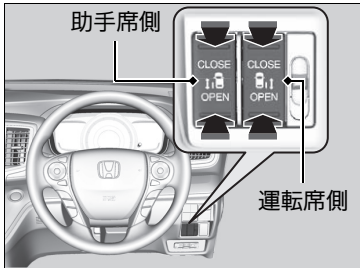
メインスイッチをOFFにしているときも、イージードアクローザーは作動します。
➡ **イージードアクローザー** P.160

坂道などでドアを開閉中にメインスイッチを OFF にして止めないでください。
落下防止機構が作動し、ブザーが鳴り続けます。

落下防止機構が作動中は、再度メインスイッチを ON にして、ドアを自動で閉めてください。

下記の操作を行うと、落下防止機構が解除され、ドアが自重で動くことがあるので注意してください。
- ドアハンドルを操作する
- メインスイッチを ON から OFF にする

■パワースライドドアスイッチで開閉する



OPEN 側を押すと開き、CLOSE 側を押すと閉まります。

開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアスイッチを押すと、「ピーピーピー」とブザー音が鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。

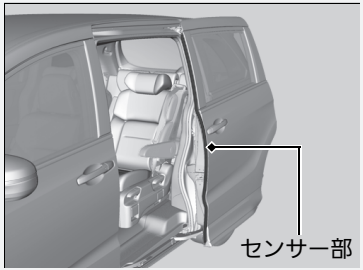
再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

パワースライドドアの開閉操作

パワースライドドアが開いている状態で、12V バッテリーやヒューズを交換した場合は、自動で閉まらなくなります。
その場合は、手動でパワースライドドアを閉めると機能が復帰します。

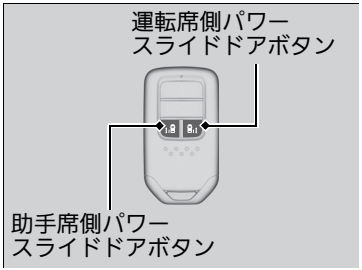
アドバイス

パワースライドドア前端にあるセンサーに触れない。
センサーに触れるとパワースライドドアが閉まりません。また、センサーを鋭利なものなどで傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。



次ページに続く

■キーレスエントリーシステムで開閉する



パワースライドドアボタンを約1秒以上押すと、自動で開閉することができます。

開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアボタンを押すと、「ピーピーピー」とブザーが鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。再度ボタンを押すと反対側に動きます。

≫パワースライドドアの開閉操作

⚠警告

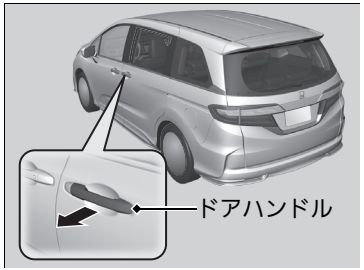
ドアを開閉する前に、ドア付近に障害物がないことを必ず確認する。
はさみ込み防止機能は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。ドアにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

パワースライドドアに指などをはさみ込まないように注意する。
パワースライドドアを確実に閉め切るため、閉め切る直前の部分にはさみ込みを検知しないエリアがあります。

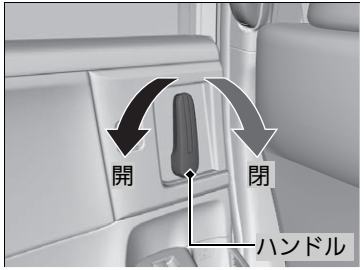
パワースライドドアを自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりパワースライドドアが反対側に動きます。
このとき、ブザーが「ピーピーピー」と鳴ります。

■ドアハンドルで開閉する



■外側のハンドル

ハンドルを引くと自動で開閉することができます。
施錠されていても、Honda スマートキーを携帯してハンドルを引き、戻すと、自動的にすべてのドア、テールゲートが解錠されパワースライドドアが開きます。
開閉中にハンドルを操作すると「ピーピーピー」とブザーが鳴り、途中で止まります。
再度ハンドルを引くと反対側に動きます。



■内側のハンドル

ハンドルを後ろ側に引くと自動で開き、前側に押すと自動で閉じます。

開閉中にハンドルを操作すると「ピーピーピー」とブザーが鳴り、途中で止まります。
再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

パワースライドドアの開閉操作

フューエルリッドが開いた状態で、助手席側パワースライドドアの操作を行うとブザーが鳴り作動しません。
坂道でパワーシステムを停止した状態で、パワースライドドアを途中停止させたままにすると、約 30 分後自動で傾斜方向に作動します。

パワーモードが ON モード のときに、セレクトレバーが P 以外の位置で下記の操作を行うと、内側または外側のハンドルでパワースライドドアを開けようとしても、ブザーが鳴り自動で開きません。

- ブレーキペダルから足を離す
- パーキングブレーキを解除する

イージードアクローザー

スライドドアを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。

パワースライドドアのメインスイッチの位置に関係なくイージードアクローザーが作動します。

イージードアクローザー

⚠注意

半ドア状態の位置からドアが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意する。

イージードアクローザー作動中にスライドドアのハンドルを引くと、作動が止まり半ドア状態のままになります。また、スライドドアのハンドルを引いたままドアを閉めると、イージードアクローザーは作動しません。

故障の原因になるので、イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。 POWER を押すときは、下記の点に注意してください。

- POWER スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードがOFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

≫セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

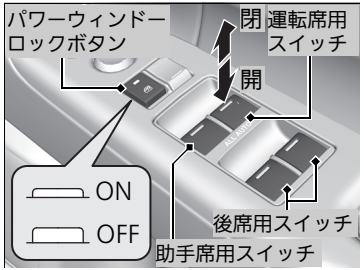
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

次ページに続く

■ウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

パワーウィンドーの開閉

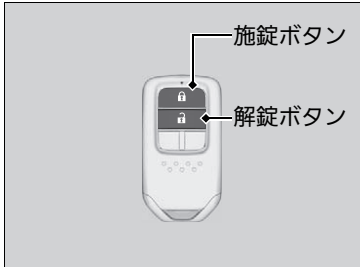
パワーモードをOFFモードにしても、約10分間はパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

パワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

■キーレスエントリーシステムでのウィンドーの開閉



キーレスエントリーシステムを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき：キーレスエントリーシステムで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける
閉めるとき：キーレスエントリーシステムで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。
ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

次ページに続く

■キーシリンダーでのウィンドーの開閉



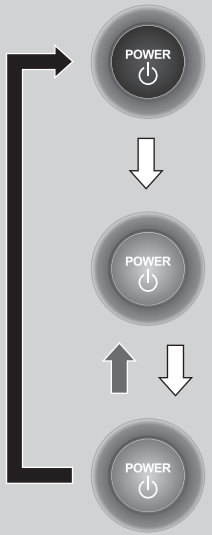
運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき：運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、解錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする
閉めるとき：運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから 10 秒以内に再度、施錠側いっぱいに内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。
ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



OFF モード
- スイッチが消灯
- ハンドルがロックされ、全ての電源が OFF になります

アクセサリーモード
- スイッチが赤色に点滅
- パワーシステムを起動させずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置

ON モード
- スイッチが赤色に点滅
- すべてのアクセサリーが使用可能

（ブレーキペダルを踏んでいない状態）

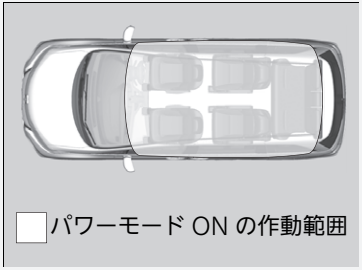
スイッチを押す

セレクトレバーが P 以外のときに、スイッチを押す

セレクトレバーが P のときに、スイッチを押す

POWER スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードを ON モードにできます。Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードのON機能が作動しないことがあります。



パワーモード ON の作動範囲

Honda スマートキーの電池が消耗した状態で POWER を押してもパワーシステムが起動できない場合があります。そのときは、下記ページを参照ください。

➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき**
P.445

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをON モードにできることがあります。

次ページに続く

■パワーモードオートオフ機能

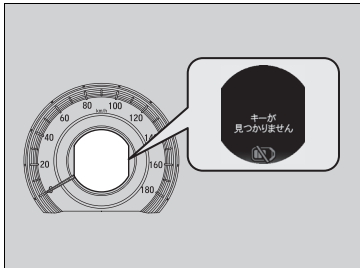
セレクトレバーが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60 分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。
このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。
POWER を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ポーンポーンポーンポーンポーンポーン)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。
警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

»Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモードONの作動範囲内にHondaスマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

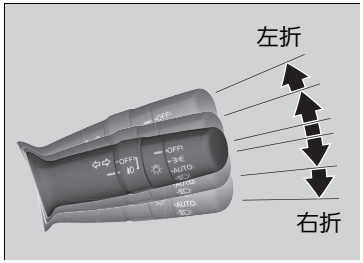
Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードをOFFモードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

方向指示器(ウィンカースイッチ)



パワーモードがON モードのときに使用できます。

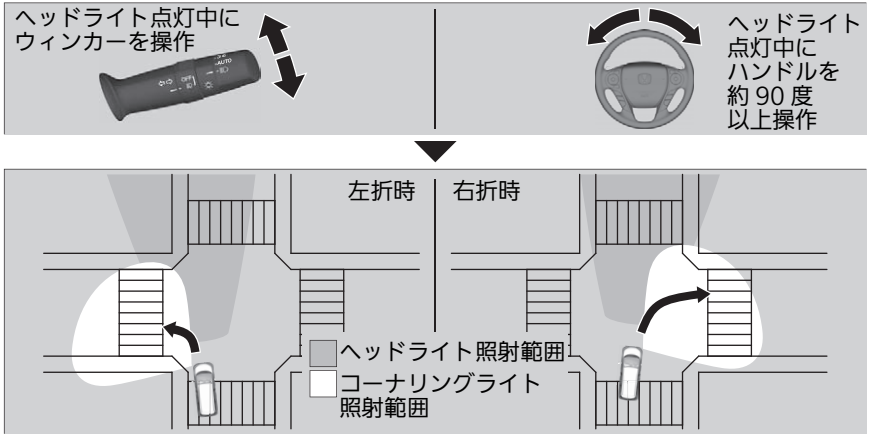
■ワンタッチターンシグナル

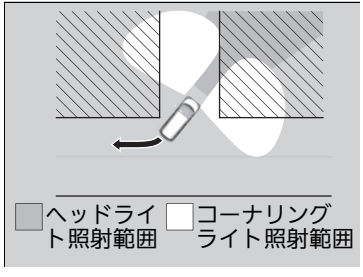
レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が３回点滅します。

アクティブコーナリングライト*

パワーモードが ON モードで、車速が 40 km/h 以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、セレクトレバーを R にしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時にコーナーでの視認性を向上させることができます。

■方向指示器、ハンドル操作による点灯





■セレクトレバー操作による点灯

ヘッドライトが点灯しているときにセレクトレバーを R にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

アクティブコーナリングライト*

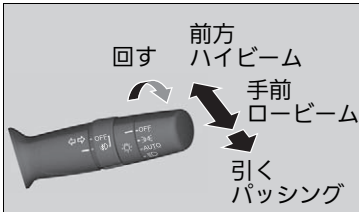
アクティブコーナリングライトを5分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。

消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、セレクトレバーを R に入れると点灯します。



*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ライトスイッチ



車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

AUTO　パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワーモードのモードに関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図（パッシング）

レバーを手前に引き、離します。

ライトスイッチ

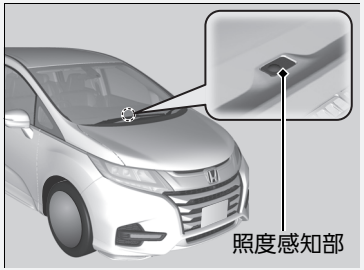
ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。
表示灯 P.86

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。
ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



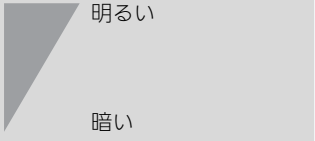
■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードをOFFモードにして、Hondaスマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、フォグライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードをOFFモードにすると消灯します。

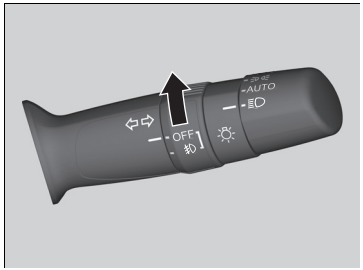
ライトスイッチ

感度設定	車外の明るさに応じてライトが点灯します。
MAX HIGH MID LOW MIN	

オートライトコントロールシステムの感度調整は、マルチインフォメーションディスプレイを使って変更することができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.120

フォグライト

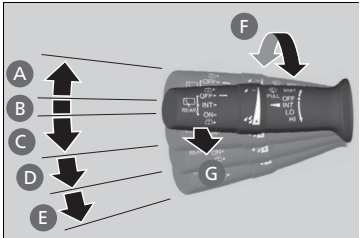


ライトスイッチが OFF 以外のとき(AUTO のときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



Ⓐ MIST：（レバーを操作している間作動）
Ⓑ OFF：停止
Ⓒ INT：間欠（雨量が少ないとき）
Ⓓ LO：低速（普通の雨量のとき）
Ⓔ HI：高速（雨量が多いとき）
Ⓕ 間欠時間の調節
Ⓖ ウォッシャー

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、INT、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを１秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

次ページに続く

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

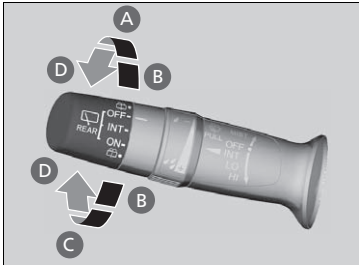
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

■リヤワイパー/ ウォッシャー



- A ON：低速作動
- B INT：間欠作動
- C OFF：停止
- D [⛲]：ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

スイッチを[⛲]まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーを [R] に入れるとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT(間欠)	間欠作動
LO(低速) HI(高速)	連続作動

»ワイパー/ ウォッシャー

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。
間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

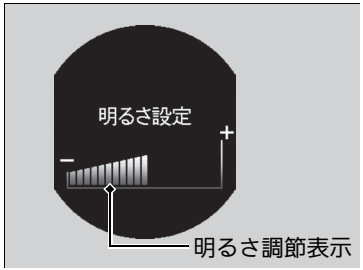
ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

イルミネーションコントロール



パワーモードがON モードのとき、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。
明るくする：ノブを右に回す
暗くする： ノブを左に回す

明るさが最大/最小になると電子音が鳴ります。また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。



■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
目盛が右に増えていくほど、メーター照明が明るくなります。

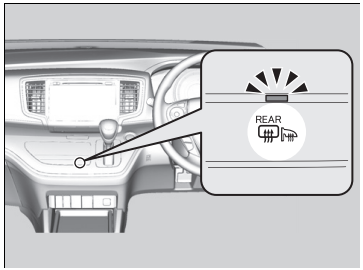
イルミネーションコントロール

ライトスイッチが OFF 以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

減光時に目盛がすべて表示されるまで、セレクト / リセットノブを右に回すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。

車幅灯が消灯しているときに目盛がすべて表示されなくなるまでセレクト / リセットノブを左に回すと、明るさ表示が最小になります。このとき、走行したり、車幅灯を点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ

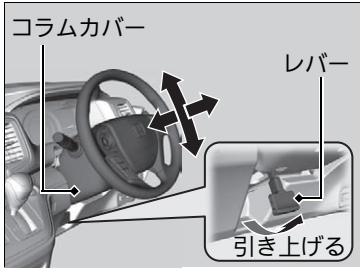


パワーモードがON モード のときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラースイッチ

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

パワーモードをON モードにしたとき、外気温が5℃以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

ハンドルの調節

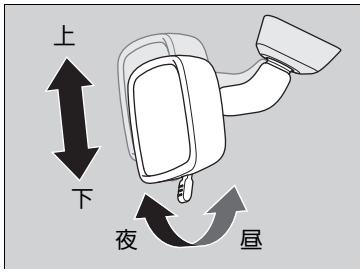
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■手動式防眩ミラー

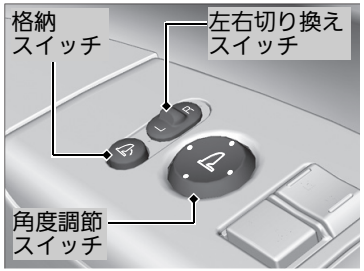


夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、パワーモードがONモードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとにONとOFFが切り換わります。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルやテールゲートのロックボタンを押す

元の位置に戻すとき：

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押す
- パワーモードを ON モードにする

オートリトラミラー

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートリトラミラーの設定を変更することができます。

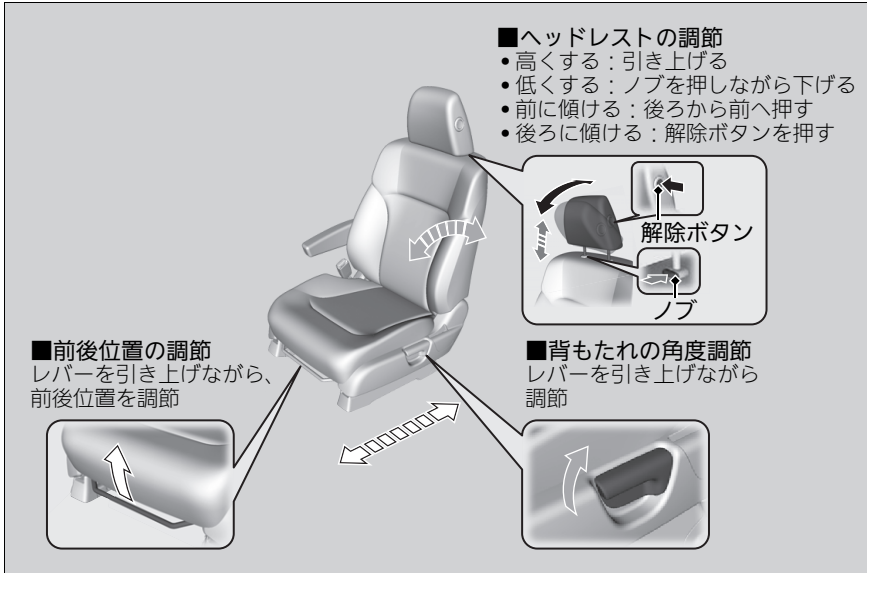
➡ **カスタマイズ機能** P.120

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かしかた

■フロントマニュアルシート(助手席)*



フロントシート

⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

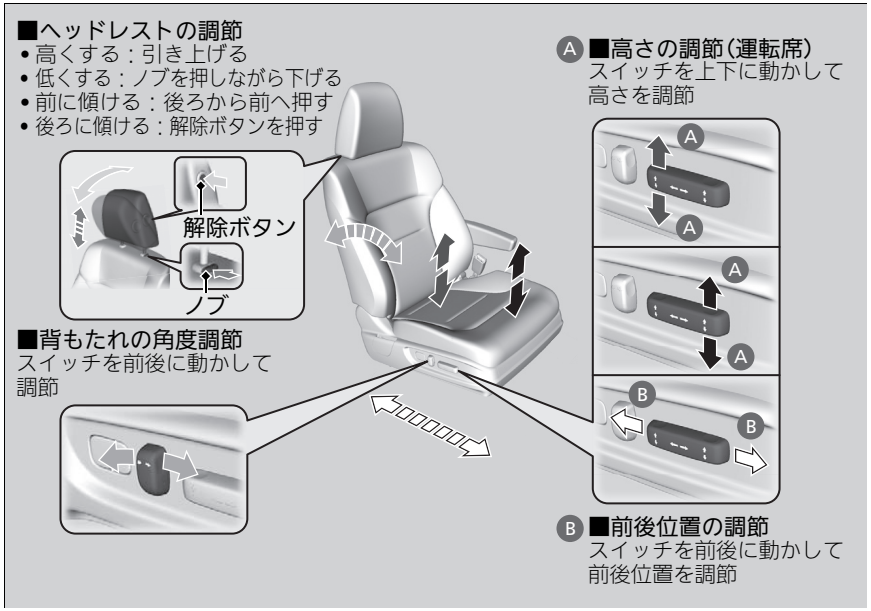
フロントマニュアルシート(助手席)*

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■フロントパワーシート



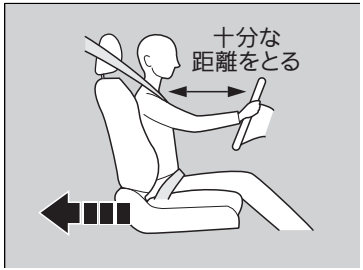
フロントパワーシート

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

次ページに続く

■フロントシートの調節

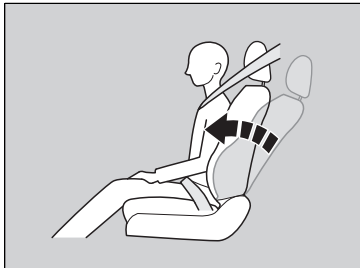


■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

≫フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

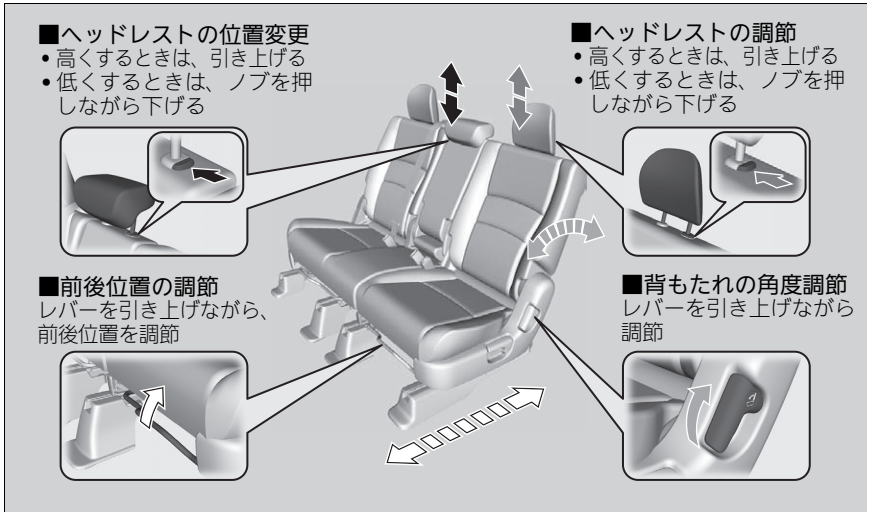
⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

セカンドベンチシート*

■シートの動かしかた



セカンドベンチシート*

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

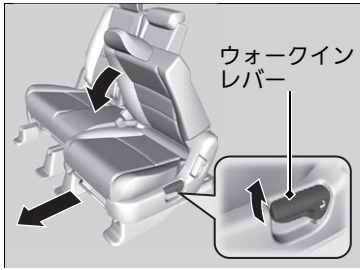
シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

セカンドシートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

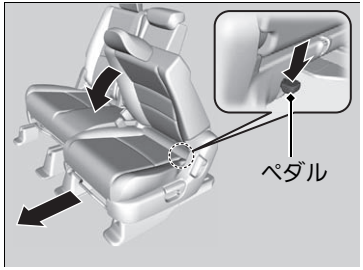
*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■サードシートへの乗り降り



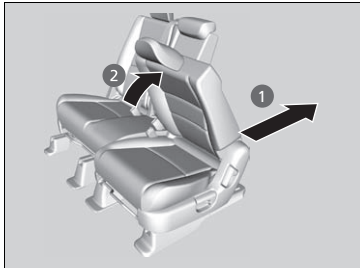
■ウォークイン機構

1. ウォークインレバーを引き上げると、背もたれが前に倒れる。
▶ シート下部のペダルを踏んでも、操作できます。
2. そのままシートを前方に押す。
走行する前にシートを元に戻し、前後位置を調節してください。



■シートを元に戻すとき

1. シートを後方へ押して、前後位置を調節する。
2. 背もたれを起こしてシートを固定する。

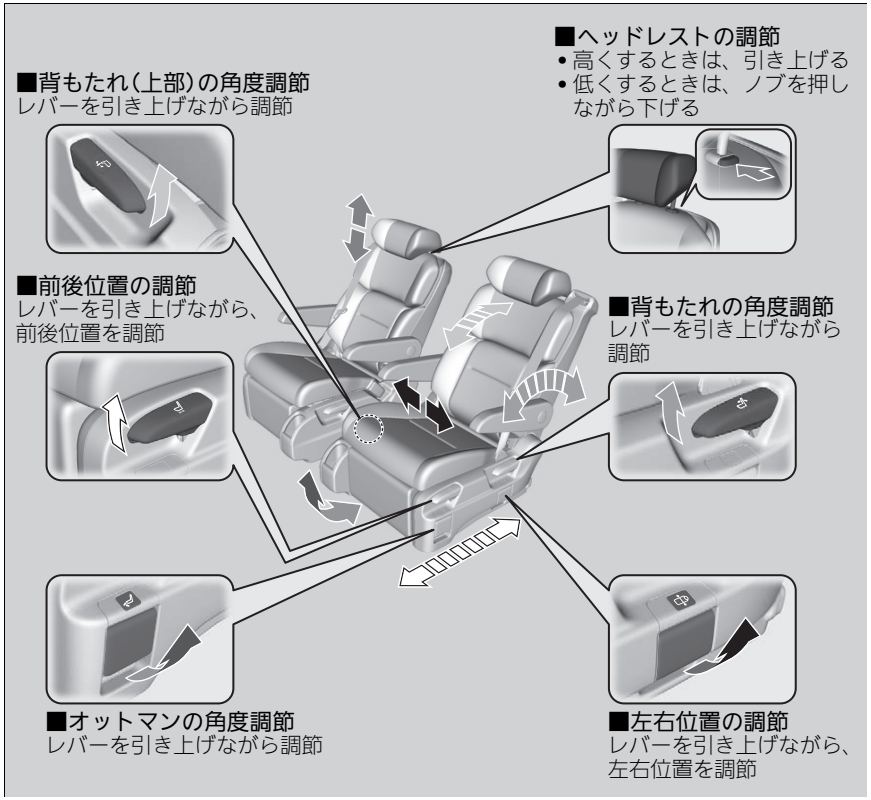


▶▶サードシートへの乗り降り

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

セカンドプレミアムクレードルシート*

■シートの動かしかた



セカンドプレミアムクレードルシート*

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

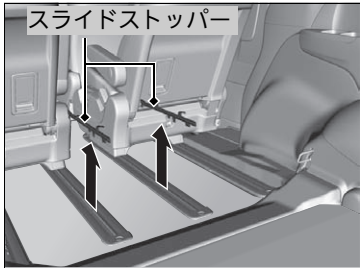
シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

セカンドシートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

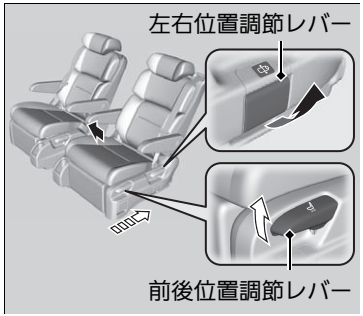
次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ロングスライド機能



1. スライドストッパーを取り外し、袋に収納する。
2. サードシートを収納する。
➡ **収納のしかた** P.191

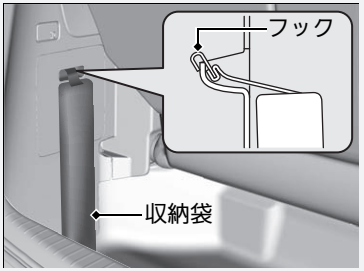


3. 左右位置の調節レバーを引き上げながら、シートを中央にスライドさせる。
4. 前後位置の調節レバーを引き上げながら、シートを後方にスライドさせる。

≫ロングスライド機能

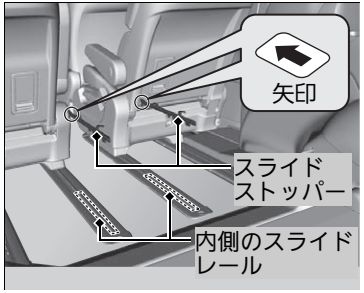
シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

スライドストッパーを使用しないときは、袋に収納しカーゴスペース左側の図の位置に収納袋のフックをかけておきます。

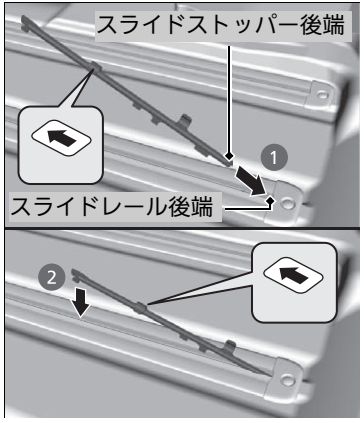


■スライドストッパーの装着

スライドストッパーとは、セカンドシートを後方へスライドさせるときにサードシートに着座している乗員の足を挟まないようにするためのものです。
サードシートに乗車するときは、図のように必ずスライドストッパーをスライドレールに取り付けておいてください。



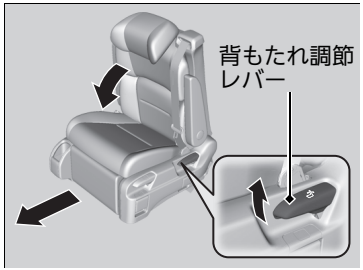
スライドストッパーの矢印を車両前方に向け、セカンドシートの内側のスライドレールに以下の手順で取り付けます。



1. スライドストッパーの後端をスライドレールの後端に差し込む。
2. スライドストッパーを下ろす。

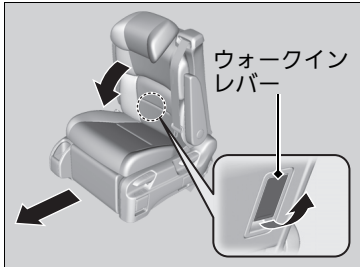
次ページに続く

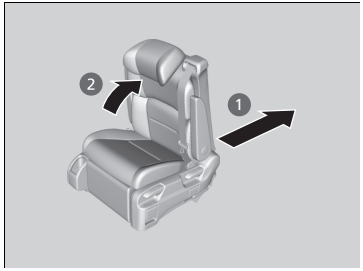
■サードシートへの乗り降り



■ウォークイン機構

1. 背もたれ調節レバーを引き上げると、背もたれが前に倒れる。
▶ ウォークインレバーを引き上げても、操作できます。
2. そのままシートを前方に押す。
走行する前にシートを元に戻し、前後位置を調節してください。





■シートを元に戻すとき

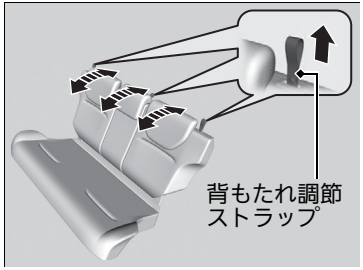
1. シートを後方へ押して、前後位置を調節する。
2. 背もたれを起こしてシートを固定する。

▶▶サードシートへの乗り降り

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

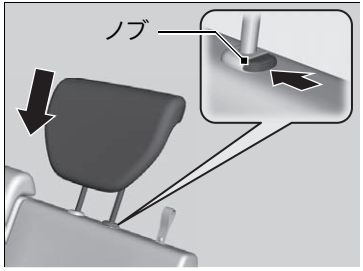
サードシート

■背もたれの調節



別々に調節することができます。
背もたれ調節ストラップを引きながら調節します。

■収納のしかた



1. 中央の三点式シートベルトを分離・収納する。
➡ **分離収納式シートベルト** P.37
2. ヘッドレストを下げる。

サードシート

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

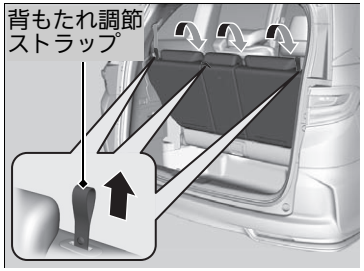
走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

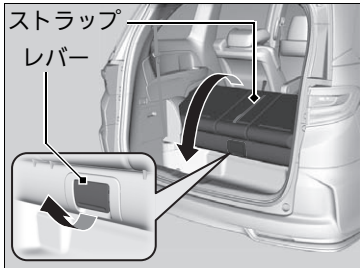
エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

シートの下にものを置かない。
ものがはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

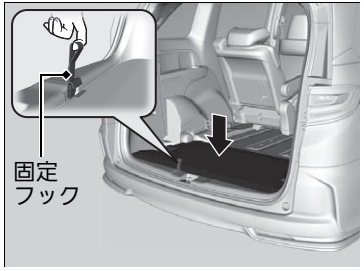
次ページに続く



3. 背もたれ調節ストラップを引き、前方に倒す。



4. 下部のレバーを引きながら、ストラップを使ってシート全体を後方に倒す。



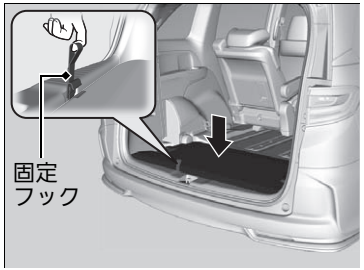
5. シートを上から押し下げながら、固定フックをかける。

収納のしかた

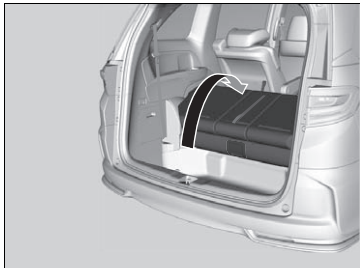
シートの固定フックを外すとシートが浮き上がります。

シートの上に乗ったり、ものを置いたりしたまま操作すると、それらのものが飛ぶ可能性があります。収納したサードシートの上に乗ったり、ものを置いたりしたままの状態で固定フックを外さないでください。

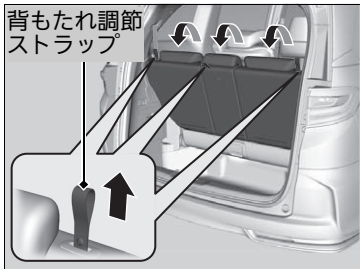
■戻しかた



1. シートを上から押し下げながら、固定フックを外す。
▶固定フックを外すとシートが浮き上がります。



2. シート全体を前方に起こし、座面を固定する。



3. 背もたれ調節ストラップを引きながら背もたれを起こして固定する。

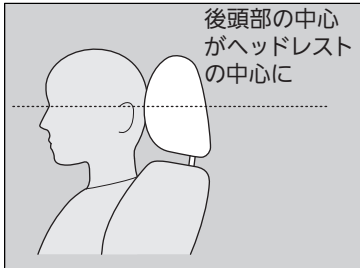
シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

戻しかた

シートの固定フックを外すとシートが浮き上がります。
シートの上に乗ったり、ものを置いたりしたまま操作すると、それらのものが飛ぶ可能性があります。収納したサードシートの上に乗ったり、ものを置いたりしたままの状態で固定フックを外さないでください。

ヘッドレスト

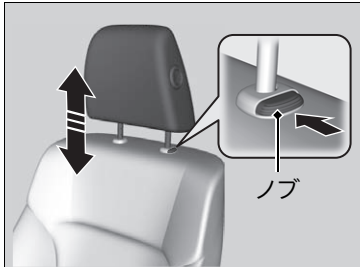
■フロントシート、セカンドベンチシート(左右)*、セカンドプレミアムクレードルシート* のヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

セカンドプレミアムクレードルシート装備車
乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。



▶ヘッドレスト

⚠警告

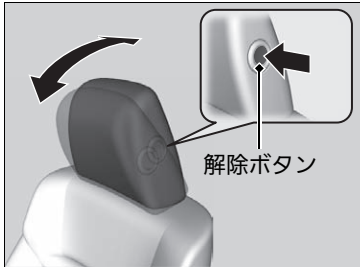
ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

セカンドプレミアムクレードルシート装備車
セカンドプレミアムクレードルシートのヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ヘッドレストの傾き調節

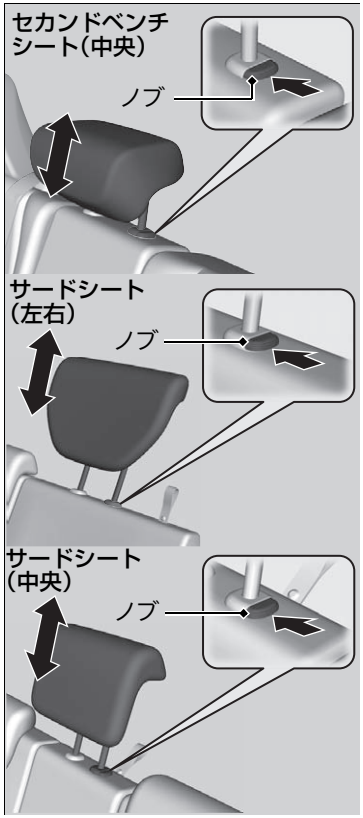


フロントシートのヘッドレストは、姿勢に合わせ傾きを調節してください。

前方へ調節するとき：ヘッドレストを後ろから前へ押します。
後方へ調節するとき：ヘッドレストの後ろを手で支えながら解除ボタンを押します。

次ページに続く

■セカンドベンチシート(中央)*、サードシートヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

▶▶セカンドベンチシート(中央)*、サードシートヘッドレストの位置変更

⚠警告

セカンドベンチシート(中央)、サードシートのヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

■フロントシートアームレストの操作

大型アームレスト非装備車



大型アームレスト装備車



前に倒して使います。

背もたれの角度に合わせてアームレストの角度を調節できます。

高くする： アームレストを引き上げる

低くする： アームレストをいったん上まで引き上げてから下げる

»アームレスト

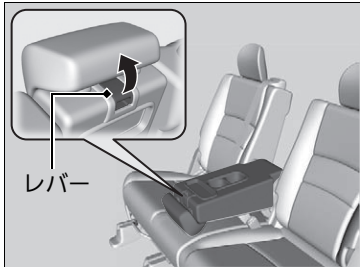
⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

■セカンドシートアームレストの操作



■セカンドベンチシート✤

前に倒して使います。

1. レバーを引いてロックを解除する。

2. アームレストを前に倒す。



■セカンドプレミアムクレードルシート✤

前に倒して使います。

背もたれの角度に合わせてアームレストの角度を調節できます。

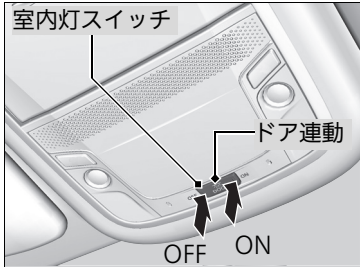
高くする： アームレストを引き上げる

低くする： アームレストをいったん上まで引き上げてから下げる

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内灯

■室内灯スイッチ



■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

≫室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。
以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

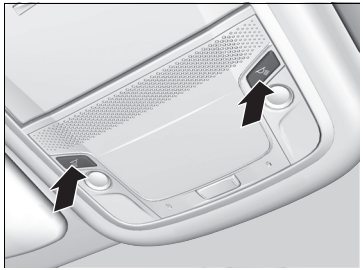
室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。
➡ **カスタマイズ機能** P.120

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

12V バッテリーがあがるおそれがあるため、パワーシステムが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

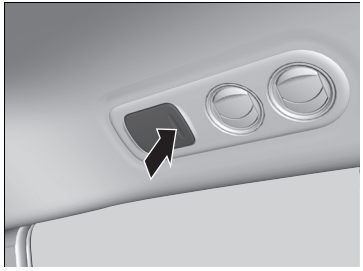
■マップランプ



■フロントシート用マップランプ

夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



■セカンド / サードシート用マップランプ

室内灯スイッチがドア連動のときに操作できます。

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

マップランプ

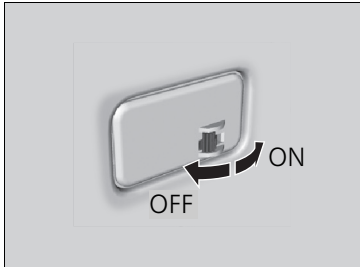
セカンド / サードシート用マップランプ

以下のときマップランプのレンズを押しても消灯できません。

- 室内灯スイッチが ON のとき
- 室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

次ページに続く

■カーゴスペース照明灯、テールゲート照明灯



■ON

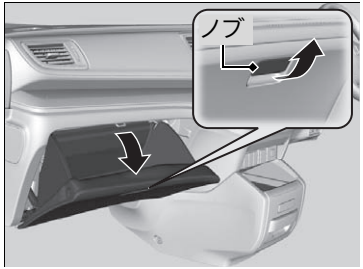
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

■OFF

テールゲートの開閉に関係なく消灯。

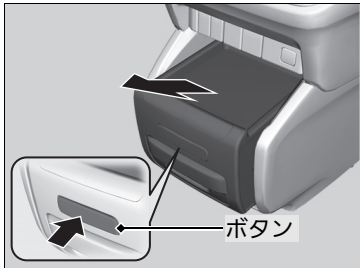
室内装備品

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

■リフトアップトレイ



■引き上げるとき

1. ボタンを押してロックを解除する。
2. 固定されるまでトレイ本体を引き上げる。

■元に戻すとき

1. ボタンを押してロックを解除する。
2. 固定されるまでトレイを押し下げる。

グローブボックス

⚠警告

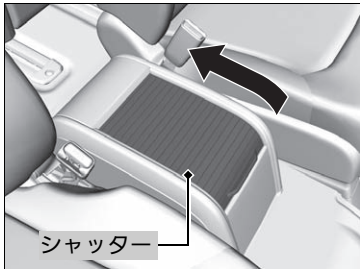
走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

リフトアップトレイ

トレイが固定されていない状態で使用しないでください。

次ページに続く

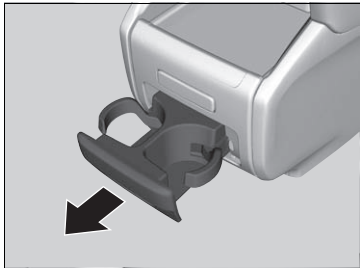
■スライドシャッター付コンソールボックス*



シャッターを開けて使います。

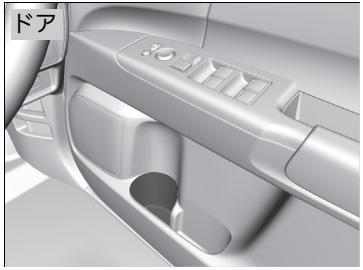
*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

手前に引き出して使います。



運転席側と助手席側にあります。



■セカンドシート用ドリンクホルダー

運転席側と助手席側にあります。

次ページに続く

ドリンクホルダー

⚠注意

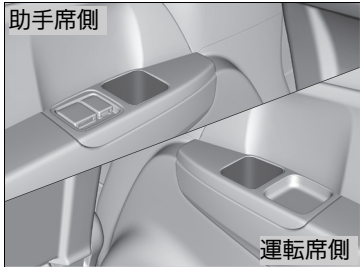
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



■セカンドベンチシート用ドリンクホルダー✤

セカンドベンチシート中央席の背もたれを前に倒して使います。



■サードシート用ドリンクホルダー

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■セカンドプレミアムクレードルシート用ボトルホルダー✤



セカンドプレミアムクレードルシートの足元にあります。

⊠セカンドプレミアムクレードルシート用ボトルホルダー✤

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

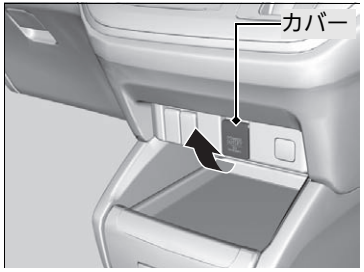
500mL を超えるペットボトルやボトルホルダーからはみ出す形状のペットボトル、タンブラー、水筒、カップなどをボトルホルダーに入れないでください。
シートのスライド操作の妨げになったり、破損するおそれがあります。シートをスライドさせるときは、周囲にものがないことを確認してから行ってください。

フタが外れやすいカップなどのホルダーからはみ出すものを入れていると、きちんと保持されずにフタが外れるおそれがあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

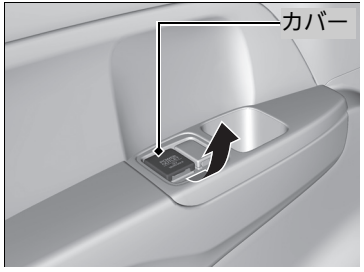
■アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモードまたはON モードのときに使用できます。

■インストルメントパネルのアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。



■サードシート助手席側のアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。

アクセサリーソケット

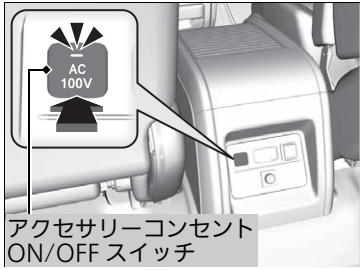
シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

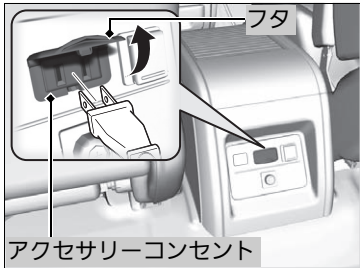
消費電力180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

■アクセサリーコンセント✤

スライドシャッター付コンソールボックスにあります。
電気機器へ電源を供給することができます。





1. パワーシステムを起動する。
▶マルチインフォメーションディスプレイに「READY TO DRIVE」が表示されます。
➡ **パワーシステムの起動** P.247

2. アクセサリーコンセント ON/OFF スイッチを押す。
▶インジケーターが点灯します。

3. アクセサリーコンセントのフタを開けて、使用する電気機器のコンセントを接続する。
▶コンセントを接続する前に電気機器のスイッチが切れていることを確認してください。

4. 電気機器のスイッチを入れる。

アクセサリーコンセント✤

消費電力 1500W(15A)以下のアクセサリーに、交流 100V の電源を供給します。

医療用電気機器などの精密機器は使用しないでください。

消費電力が1500W以下であっても、起動時の消費電流が高い電気製品は正常に起動しないことがあります。

走行中は固定できない機器や調理器具などの熱を発する機器の使用は避けてください。

以下の状態では使用できません。
- 燃料残量警告灯が点灯しているとき
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されているとき
- パワーシステム警告灯が点灯しているとき
- マルチインフォメーションディスプレイに「トランスミッション点検」が表示されているとき
- マルチインフォメーションディスプレイに「冷却システム点検」が表示されているとき
- 車内が高温、または低温のとき

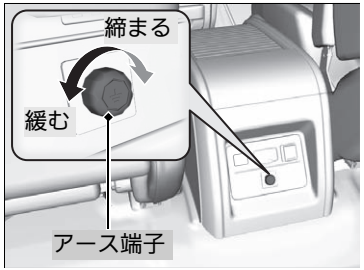
使用する電気機器によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■アースの接続

アース線のある電気機器を使用するときは、必ずアース端子に接続してください。



左に回す：緩む
右に回す：締まる

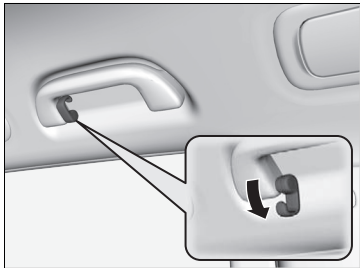
アクセサリーコンセント✤

一部の自治体では、アイドリングストップに関する条例に抵触するおそれがあります。関係する自治体に確認したうえで、適切に使用してください。

工場出荷時、電源周波数は50Hzに設定されています。使用する電気機器側で50Hz/60Hzの切り換えができる場合は、車両側に設定を合わせてください。車両側の電源周波数を切り換えたい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■コートフック



セカンドシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

コートフック

⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

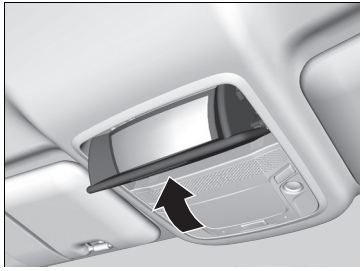
次ページに続く

■サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。



■室内確認用ミラー

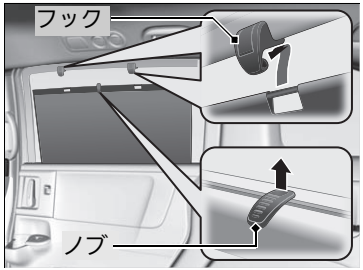
サングラスボックスに鏡が付いています。
使用するときは図の位置まで戻します。
セカンド、サードシートを確認するのに便利です。

サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れを起すことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■スライドドアウィンドウサンシェード



使用するときはノブを持って引き上げます。
サンシェードをフックにかけます。

スライドドアウィンドウサンシェード

⚠注意

フックにはサンシェード以外のものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。
また、走行中は窓を閉めてください。風にあおられてサンシェードがフックから外れるおそれがあります。

サンシェードを戻すときは、ノブを持ってゆっくり収納してください。

サンシェードは上方向以外に引っ張らないでください。

次ページに続く

■シートヒーター✤



パワーモードがONモードのとき使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。
スイッチを HI 側か LO 側に押します。
シートを早く暖めたいときは HI 側を押します。暖まったら LO 側にしてください。
作動中、押している側の表示灯が点灯します。スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

シートヒーター✤

⚠注意

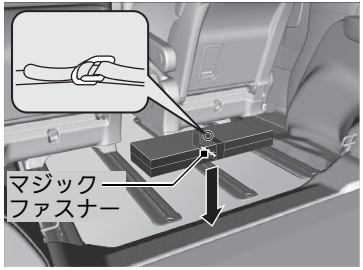
低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

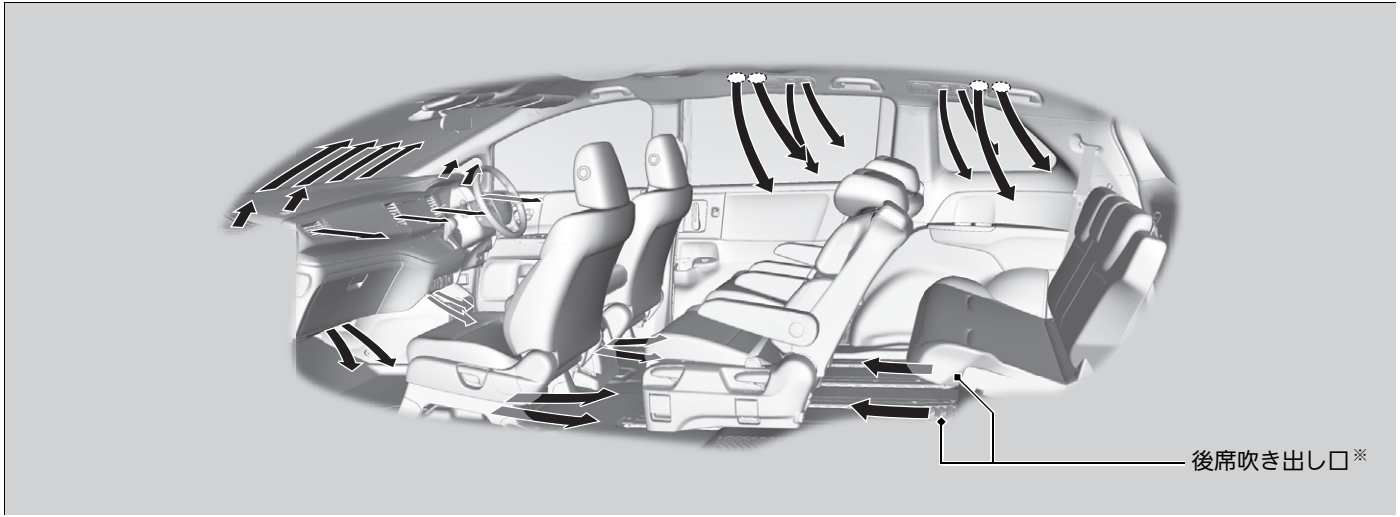
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■停止表示板固定ベルト



停止表示板(別売)にベルトを取り付けます。
ベルトのマジックファスナーの面を下にしてフロアカーペットへ乗せて停止表示板を固定します。

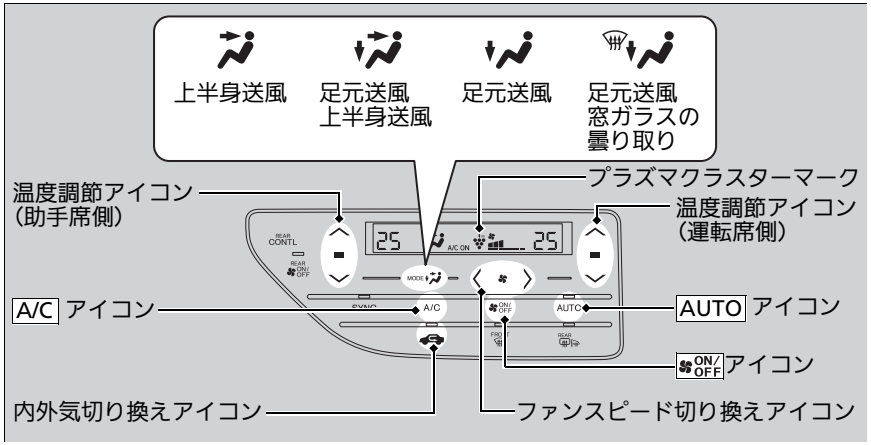
エアコンの吹き出し口



※：後席用オートエアコン装備車

オートエアコンの使いかた

後席用オートエアコン装備車



パワーシステムを起動してから使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節アイコン(∧/∨)で温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFFを押す。

≫エアコン

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

音声操作の詳細は、別冊のメーカーオプションの「ナビゲーションシステム」取扱説明書をご覧ください。

≫オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中いずれかのアイコンを押すと、押したアイコンの機能が優先されます。

このとき AUTO の表示灯は消灯しますが、選択したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

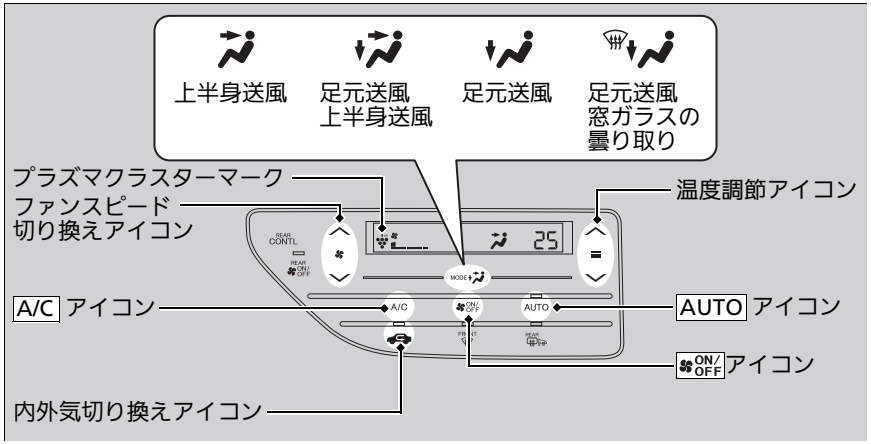
炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

高電圧バッテリーの残量が少ないときエアコンの効きが弱くなることがあります。

次ページに続く

後席用クーラー装備車



パワーシステムを起動してから使用します。

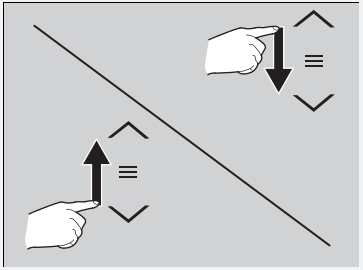
1. AUTO を押す。

2. 温度調節アイコン(∧/∨)で温度を調節する。

3. ON/OFFを押す。

オートエアコンの使いかた

温度調節アイコンやファンスピード切り換えアイコン部分を指でスライドさせると、設定値を変更できます。



■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて  を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯):換気を行う場合

■除湿暖房

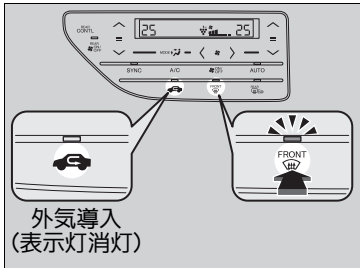
暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

オートエアコンの使いかた

ON/OFFを押すたびに ON や OFF に切り換わります。ONするとOFFする前の状態に戻ります。

次ページに続く

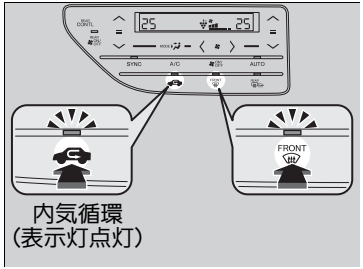
■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



外気導入
(表示灯消灯)

FRONTを押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONTをもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



内気循環
(表示灯点灯)

■急速に霜を取りたいとき

1. FRONTを押す。
2. を押す。

前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

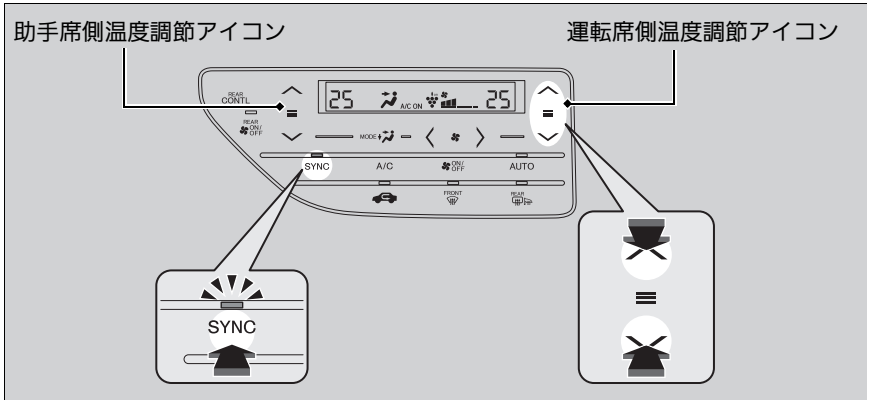
設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

急速に霜を取りたいとき

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■連動作動(シンクロ)モード✤



エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切り換えます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. SYNC を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。
2. 運転席の温度調節アイコンで室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、 SYNC または助手席側の温度調節アイコンを押します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

▩連動作動(シンクロ)モード✤

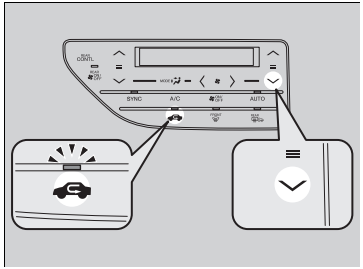
FRONTを押すと、連動作動モードに切り換わります。

独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

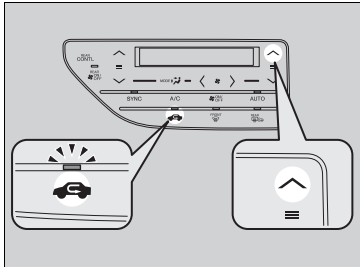
■タッチパネル操作音の ON と OFF

エアコンのタッチパネルを操作すると、確認のため音が鳴ります。この音を OFF にしたい場合は、下記の手順で設定してください。



1. パワーモードを ON モードにする。
2. を押したまま、温度下方調節アイコン(﹀)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「- -」が 5 回点滅した後、「OF」が表示されたことを確認してから を離す。

OFF から ON に戻す場合は、下記の手順で設定してください。



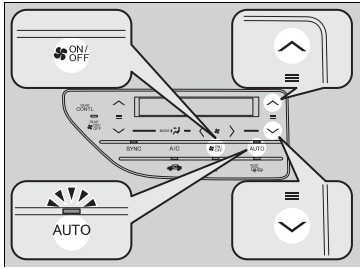
1. パワーモードを ON モードにする。
2. を押したまま、温度上方調節アイコン(﹀)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「OF」が 5 回点滅した後、「- -」が表示されたことを確認してから を離す。

タッチパネル操作音の ON と OFF

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。
設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

■タッチパネル感度の設定

エアコンのタッチパネルの感度を、高め、普通、低めに設定することができます。



1. パワーモードを ON モードにする。

2. AUTO アイコンを押したまま、変更したい設定のアイコンを 5 回連続で押す。

- 温度上方調節アイコン(∧):高め※にしたいとき

▶表示部分が点滅し、設定が変更されると「Hi」が表示されます。

- ON/OFF:普通にしたいとき

▶表示部分が点滅し、設定が変更されると「- -」が表示されます。

- 温度下方調節アイコン(∨):低めにしたいとき

▶表示部分が点滅し、設定が変更されると「Lo」が表示されます。

3. AUTO アイコンを離す。

※:工場出荷値の設定

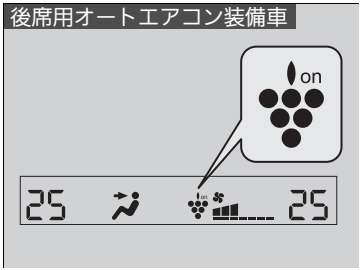
タッチパネル感度の設定

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。
設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

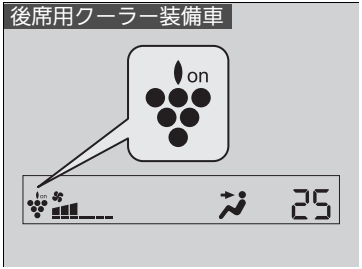
次ページに続く

■プラズマクラスター

後席用オートエアコン装備車



後席用クーラー装備車



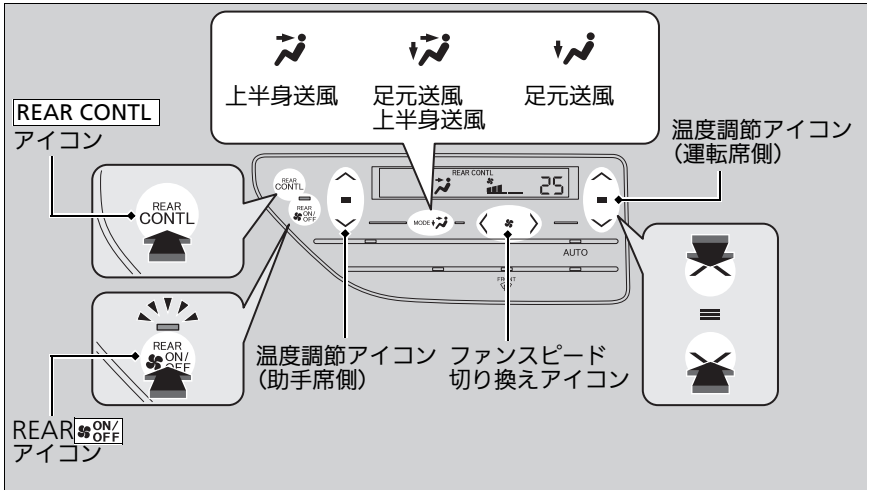
エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

プラズマクラスター

プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

後席用オートエアコン*

■前席で操作するとき



パワーシステムを起動してから使用します。

1. REAR CONTL を押す。
▶ REAR ON/OFF を押しても操作できます。

2. 温度調節アイコンで温度を調節する。

3. 停止するときは、REAR ON/OFF を押す。

▨後席用オートエアコン*

炎天下に駐車したときは、窓を開けて熱気を追い出しながら冷房を開始してください。

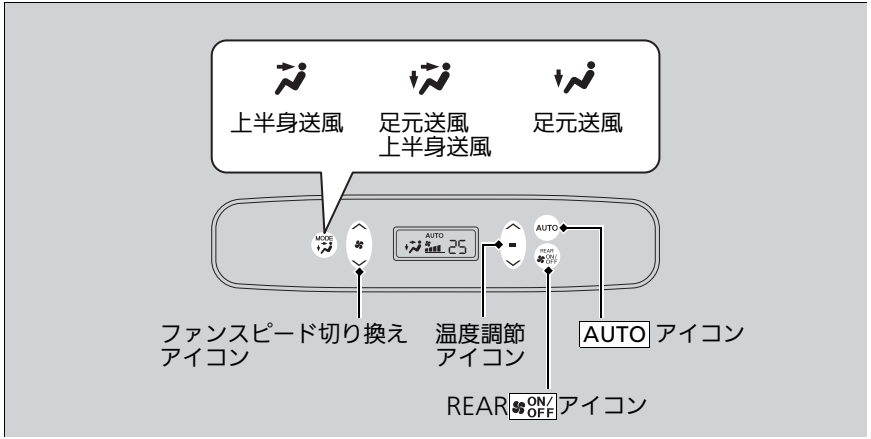
前席エアコンが OFF または後席独立作動モードのときは、後席用オートエアコンはヒーター機能のみ自動となります。

後席用オートエアコン設定画面は、REAR CONTL を押すか、数秒間操作しないと自動的に元の画面に戻ります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■後席で操作するとき



パワーシステムを起動してから使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節アイコンで温度を調節する。

3. 停止するときは、REAR ON/OFF を押す。

▨後席用オートエアコン*

オート(AUTO)で使用中いずれかのアイコンを押すと、押したアイコンの機能が優先されます。

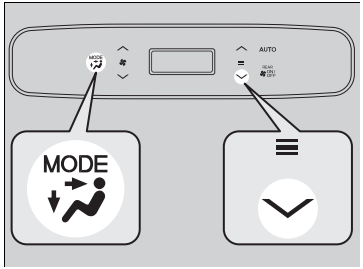
このとき AUTO の表示は消えますが、押したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

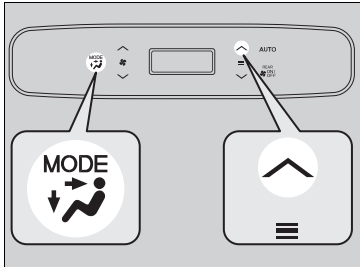
■タッチパネル操作音の ON と OFF

エアコンのタッチパネルを操作すると、確認のため音が鳴ります。この音を OFF にしたい場合は、下記の手順で設定してください。



1. パワーモードを ON モードにする。
2. モード切り換えアイコンを押したまま、温度下方調節アイコン(﹀)部分を5回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「- -」が5回点滅した後、「OF」が表示されたことを確認してからモード切り換えアイコンを離す。

OFF から ON に戻す場合は、下記の手順で設定してください。



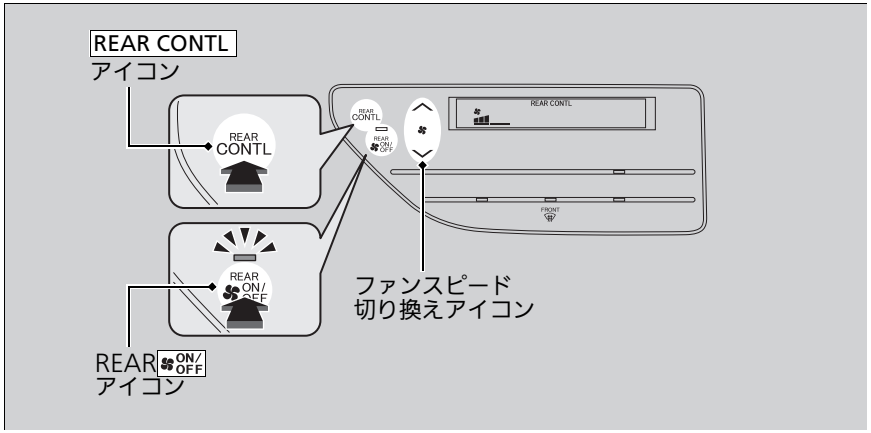
1. パワーモードを ON モードにする。
2. モード切り換えアイコンを押したまま、温度上方調節アイコン(﹈)部分を5回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「OF」が5回点滅した後、「- -」が表示されたことを確認してからモード切り換えアイコンを離す。

タッチパネル操作音の ON と OFF

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

後席用クーラー*

■前席で操作するとき



パワーシステムを起動してから使用します。

1. REAR CONTL を押す。
▶ REAR ON/OFF を押しても操作できます。

2. ファンスピード切り換えアイコンで風量を調節する。

3. 停止するときは、REAR ON/OFF を押す。

▨後席用クーラー*

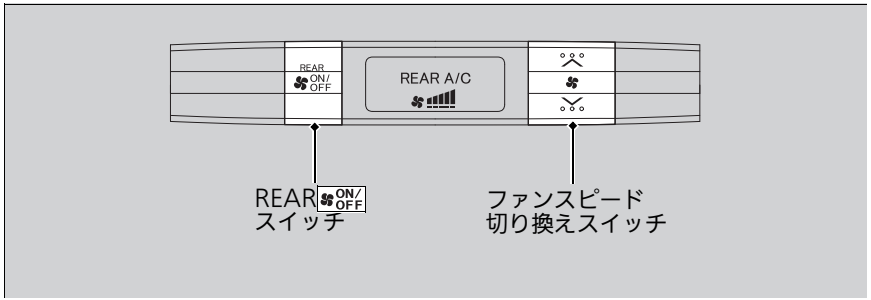
炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

前席エアコンが OFF のときは、後席用は送風のみとなります。

後席用クーラー設定画面は、REAR CONTL を押すか、数秒間操作しないと自動的に元の画面に戻ります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■後席で操作するとき



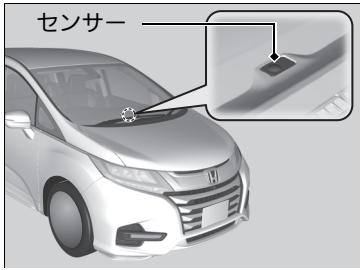
パワーシステムを起動してから使用します。

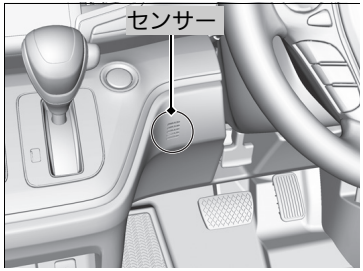
1. REAR ON/OFF を押す。

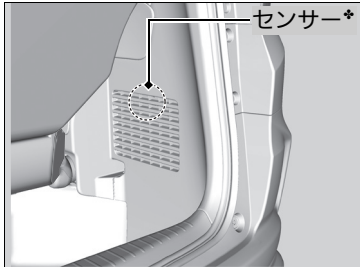
2. ファンスピード切り換えスイッチで風量を調節する。

3. 停止するときは、REAR ON/OFF を押す。

オートエアコンのセンサー

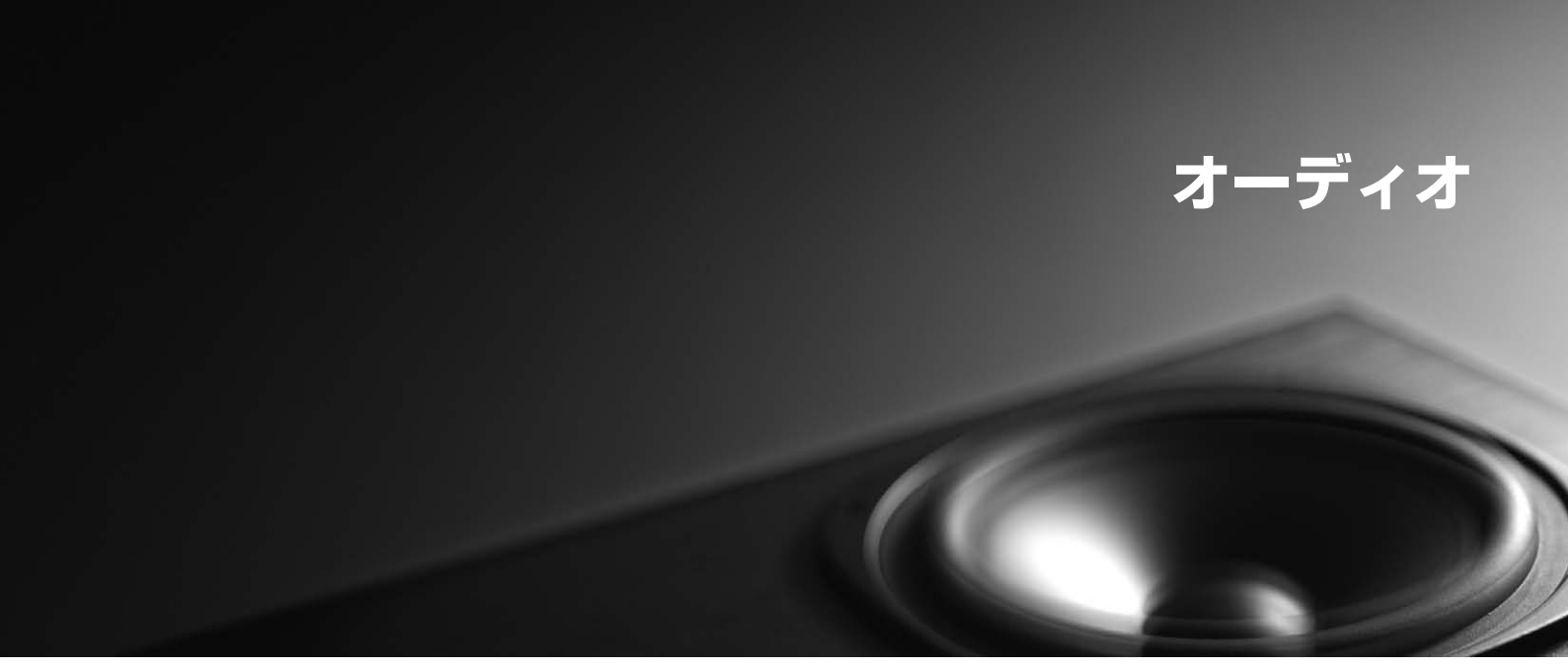






オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



オーディオ

オーディオ装置✤ 232
リアエンターテインメントシステム✤.... 233

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オーディオ装置✤

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊のメーカーオプション
の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

リアエンターテインメントシステム✤

リアエンターテインメントシステムは、ナビゲーションシステムと組み合わせることで、走行中でも後席モニターでテレビや DVD ビデオなどの映像を楽しむことができます。
リアエンターテインメントシステムの操作は、リモコンで行います。
➔ **リモコン** P.236

リアエンターテインメントシステム✤

⚠警告

テレビや DVD ビデオなどを見るために、車庫や屋内などの換気の悪いところでエンジンをかけたままにしない。
車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

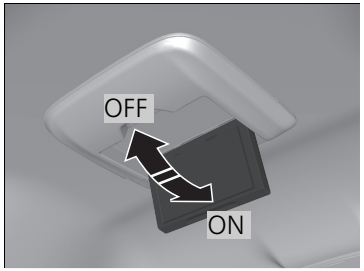
運転者は、走行中に操作しない。
前方不注意などにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パワーシステムが停止している状態で使用していると、12V バッテリーの充電状態によってはパワーシステムが起動できなくなることがあります。パワーシステムを起動してからお使いください。

何か問題が起きた場合は、エラーメッセージが表示されます。
➔ **エラーメッセージについて** P.243

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

電源の ON/OFF



パワーモードをアクセサリーモードまたはON モードにし、後席モニターを開くと電源がONになります。モニターを閉じるとOFFになります。

▶後席モニターは、下に引くと開きます。

後席モニターが開いているときは、リモコンの⏻を押すたびに、後席モニターの電源を一時的に ON、OFF することができます。

リモコン P.236

電源の ON/OFF

後席モニターを開いた状態でパワーモードをON モードまたはアクセサリーモードにすると、自動的に電源が入ります。

後席モニターは、角度を 2 段階に調節できます。

後席モニターを前側に開き過ぎると電源がOFF になります。

HDMI® ジャック

HDMI® ジャックにビデオ機器やゲーム機器などを接続し、後席モニターに映すことができます。

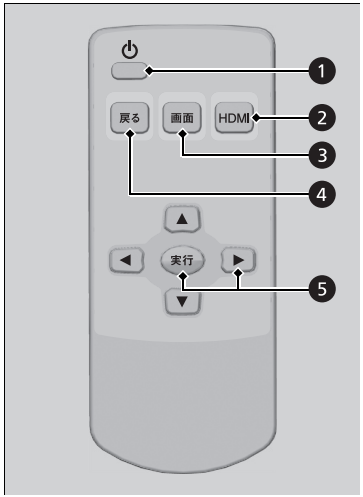


1. HDMI® ジャックのカバーを開ける。
2. 使用する機器をHDMI® ジャックに接続する。
3. リアエンターテインメントシステムの電源を入れる。
   ➡ **電源の ON/OFF** P.234
4. リモコンの **HDMI** ボタンを押し、**REAR HDMI** モードに切り換える。
5. 接続した機器を操作する。

HDMI® ジャック

HDMI® ジャックに接続した機器の音声を車両のスピーカーで流すためには、あらかじめ前席で REAR HDMI ソースを選択しておいてください。
前席で別のソースを選択していると、HDMI® ジャックに接続した機器の音声は車両のスピーカーから流れません。

リモコン



❶ ⏻(電源)ボタン
後席モニターが開いた状態のとき、電源のON/OFF ができます。

❷ HDMI ボタン
REAR HDMI モードと **VIDEO** モードが切り換わります。

❸ 画面ボタン
画面設定メニューを表示します。

❹ 戻るボタン
ひとつ前の画面に戻ります。

❺ 実行ボタン / ▲ ▼ ◀ ▶(方向)ボタン
▲ ▼ ◀ ▶で選択した項目を実行します。

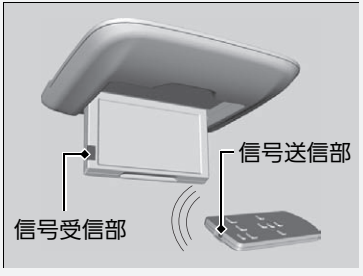
≫リモコン

アドバイス

リモコンは精密機器です。リモコンの故障を防ぐため、下記のことをお守りください。

- 高温になるところに置かない
- 衝撃を与えない
- 水に濡らさない
- 分解しない

リモコンの操作をするときは、リモコンの信号送信部を後席モニターの信号受信部に向けてください。



リモコンの作動が不安定になったときは、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

➔ **リアエンターテインメントシステム用リモコン✤** P.416

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

DVD ビデオを観る

1. リアエンターテインメントシステムの電源を入れる。
➡ **電源の ON/OFF** P.234

2. **HDMI** ボタンを押し、**VIDEO** モードに切り換える。

DVD ビデオを観る

VIDEO モード時の後席モニターには、前席で選択している DVD、テレビソースの映像が表示されます。あらかじめ前席で DVD を選択しておいてください。前席で別のソースを選択していると、DVD の映像は表示されません。

DVD 操作や再生できるディスクの詳細については、メーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

テレビを観る

1. リアエンターテインメントシステムの電源を入れる。
➡ **電源の ON/OFF** P.234

2. **HDMI** ボタンを押し、**VIDEO** モードに切り換える。

テレビを観る

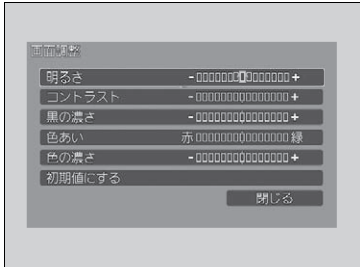
VIDEO モード時の後席モニターには、前席で選択している DVD、テレビソースの映像が表示されます。あらかじめ前席でテレビを選択しておいてください。前席で別のソースを選択していると、テレビの映像は表示されません。

テレビ操作の詳細については、メーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

画面の設定

■画質の設定

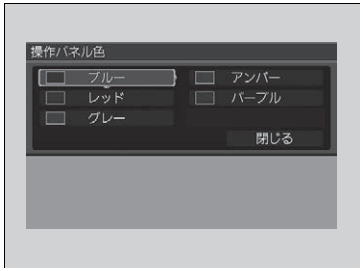
後席モニターの明るさ、コントラスト、黒の濃さ、色合い、色の濃さを調整します。



1. **画面**ボタンを押す。
2. **画面調整**を選択し、**実行**ボタンを押す。
3. ▲ ▼ボタンで目的の項目を選択する。
4. ◀ ▶ボタンでレベルを調整する。
5. ▼ボタンで**閉じる**を選択し、**実行**ボタンを押す。

■操作パネル色の設定

操作パネルの色をお好みに応じて変更することができます。



1. **画面**ボタンを押す。
2. **操作パネル色**を選択し、**実行**ボタンを押す。
3. ▲ ▼ ◀ ▶ボタンで設定したい操作パネル色を選択し、**実行**ボタンを押す。
4. ▼ボタンで**閉じる**を選択し、**実行**ボタンを押す。

画質の設定

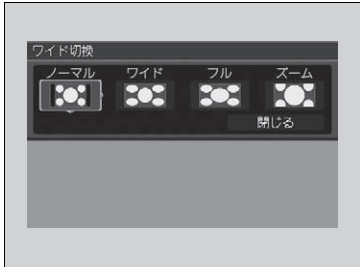
夜間は画面の明るさが自動的に減光します。
車幅灯を点灯しているとき、点灯していないときそれぞれに明るさの設定ができます。

VIDEO モードと REAR HDMI モードは、それぞれ画質の設定ができます。

次ページに続く

■ワイド切換

後席モニターの画面モード(表示サイズ)を変更することができます。



1. **画面**ボタンを押す。
2. **ワイド切換**を選択し、**実行**ボタンを押す。
3. ◀ ▶ボタンで設定したいモードを選択し、**実行**ボタンを押す。
4. ▼ボタンで**閉じる**を選択し、**実行**ボタンを押す。

ノーマル:
映像がよこ 4: たて 3 の比率で表示され、両端が黒く表示されます。

ワイド:
元映像がよこ 4: たて 3 の比率の場合、左右方向に引き伸ばした映像が表示されます。

フル:
16 : 9 の画像を表示するのに最適なモードで表示されます。

ズーム:
映像を上下左右方向均等に拡大した映像が表示されます。

ワイド切換

- ディスクに記録されている映像の形式により、画面の映りかたが異なります。
  下表を参考に画面モードを設定してください。

映像の形式	お勧めのモード
4 : 3	ノーマルモードまたはワイドモード
16 : 9	フルモード
レターボックス	フルモードまたはズームモード

- 設定画面を表示したとき、背景が明るくなっている項目が現在設定されているモードです。

補足情報

■後席モニターについて

- 後席モニターは、表示部に液晶パネルを採用しているために、極低温のときなど画面が明るくなるまで時間がかかることがあります。また、外気温が高いときなどに画面が暗くなることがありますが故障ではありません。
- 画面表示の中には小さな黒点・輝点がありますが、液晶特有の現象で故障ではありません。

■後席モニターに表示できる AUDIO ソースについて

後席モニターでは以下の AUDIO ソースが表示できます。

- DVD
- TV
- REAR HDMI(後席 HDMI® ジャック)

以下の AUDIO ソースは後席モニターでは表示できません。

- 前席で再生中の USB ビデオファイル
- HDMI(前席 HDMI® ジャック)

■テレビの受信状態について

- 電車の架線、高圧線、信号機、ネオンサインなどの近くでは、画像が乱れたり雑音が入ることがあります。
- ラジオ放送やアマチュア無線用の送信アンテナ、鉄塔の近くでは、画像が乱れたり雑音が入ることがあります。
- 直進性の強い電波のため、建物や山などの障害物があると受信状態が悪くなることがあります。
- 放送局から遠いところでは、電波が弱くなり受信状態が悪くなります。

後席モニターについて

- 後席モニターの表示部は汚れやすいので、手で直接触らないでください。
- 後席モニターの表示部は、キズが付きやすいので、手で強く押したり、かたい布などでこすらないでください。
- お手入れの際は、柔らかいプラスチックレンズ用メガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。

故障かなと思ったときは、まず対処のしかたを参考に確認してください。
処置を行っても直らないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■共通項目

症状	原因	対処のしかた	ページ
電源が入らない	パワーモードがアクセサリーモードまたはON モードになっていますか。	パワーモードをアクセサリーモードまたはON モードにしてください。	P.167
画像が出ない	リモコンで画面を OFF にしていませんか。	リモコンで画面を ON にしてください。	P.236
画面が暗い、または白っぽい	画質調整が正しくされていますか。	明るさ、コントラスト、黒の濃さを調整してください。	P.239
色が薄い、色あいが悪い	色あい、色の濃さが正しく調整されていますか。	色あい、色の濃さを調整してください。	P.239
REAR HDMI モードの音声が流れない	AUDIO ソースを REAR HDMI 以外にしていませんか。	前席の AUDIO ソースを REAR HDMI にしてください。	
リモコンがきかない	電池が消耗しています。	電池を交換してください。	P.416
	電池の極性を間違えて入れていませんか。	電池を入れ直してください。	P.416
	リモコンを信号受信部に向けて操作していますか。	リモコンを信号受信部に向けて操作してください。	P.236
	リモコンと後席モニターの間に障害物がありませんか。	障害物を避けて、本機の信号受信部にあたるよう操作してください。	P.236
画面に色の付いた縞模様が出たり、色が消える	ラジオ放送、アマチュア無線局の送信アンテナの近くを走行しているとき。 車内で携帯電話や無線機を使用しているとき。		

■TV の映像について

症状	原因
画面が乱れたり音が途切れる	電車の架線、高圧線、信号機、ネオンサイン、ラジオ放送局、アマチュア無線用の送信アンテナ、鉄塔などの近くを走行しているとき。
受信状態が急に悪くなる	山かげ、ビルのかげ、トンネルなどに入ったとき。
放送が映らない	放送局から遠いところを走行しているときや、放送を停止しているとき。

■エラーメッセージについて

メッセージ	原因	対処のしかた
接続したHDMI機器を確認してください	対応していない映像フォーマットを再生しています。	10s映像フォーマットもしくは、5s映像フォーマットに対応した映像フォーマットで再生してください。
	対応していない音声フォーマットを再生しています。	LPCM 方式で、サンプリング周波数が32kHz、44.1kHz、48kHz のいずれかで作成された音声フォーマットで再生してください。

■その他のメッセージについて

メッセージ	原因	対処のしかた
後席のHDMI音声を出力するには前席のナビシステムを操作し、AUDIO ソースを REAR HDMI に切替えてください	AUDIO ソースが REAR HDMI 以外になっています。	AUDIO ソースをREAR HDMIに切り換えてください。
後席の HDMI 機器が未接続です	HDMI 機器が接続されていません。	使用する機器を HDMI® ジャックに接続してください。



運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に..... 245
運転操作
パワーシステムの起動..... 247
走行時の注意点..... 250
トランスミッションについて 253
シフト操作..... 254
ECON スイッチ..... 256
メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車
信号情報活用運転支援システム..... 257
車両接近通報装置 261
VSA(ビークルスタビリティアシスト)..262
ブラインドスポットインフォメーション✤..... 264
高電圧バッテリーの特性 267
ホンダセンシング..... 268
衝突軽減ブレーキ(CMBS)..... 269
誤発進抑制機能..... 277
歩行者事故低減ステアリング 279
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール) 285
LKAS(車線維持支援システム)..... 299
路外逸脱抑制機能 310
先行車発進お知らせ機能 317
標識認識機能 321
フロントセンサーカメラ 328
レーダーセンサー 330
ブレーキ操作
ブレーキシステム 331
ABS(アンチロックブレーキシステム) ...336
電子制御ブレーキアシスト 337
エマージェンシーストップシグナル ..338
駐停車操作..... 339
パーキングセンサーシステム✤..... 341
後退出庫サポート✤..... 345
マルチビューカメラシステム✤..... 350
Honda スマートパーキングアシストシステム✤..... 365
給油 386

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  タイヤの点検と整備 P.409
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

次ページに続く

車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。 運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

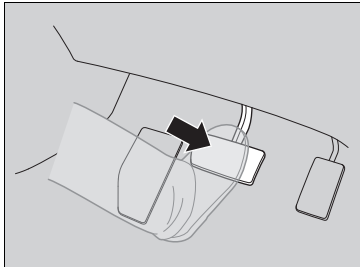
車に合ったフロアマットをお使いください。

- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.182
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.179
  ➔ **ハンドルの調節** P.178
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.35
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.147
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.72

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に押す。
▶パーキングブレーキがかかっていると、ブレーキ警告灯(レッド)が約 15 秒間点灯します。



2. シフトポジションが P であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
▶ N でも起動できますが、安全のため駆動輪が固定される P で行ってください。

パワーシステムの起動

⚠警告

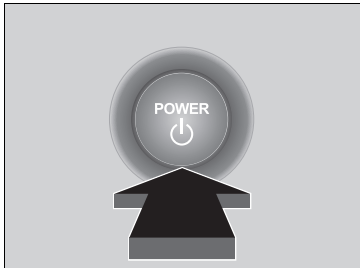
12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのパワーシステムの起動は、12Vバッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

次ページに続く



3. ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、 POWER を押す。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。
- ▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ▶ パワーシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。
- ▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.91

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. シフトポジションを P にする。

2. POWER を押す。

パワーシステムの起動

パワーシステムが起動しない場合は、30秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードをON モードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動とエンジンの始動ができません。

イモビライザーシステム P.161

POWER はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

走行可能な状態でも、エンジンが始動しないことがあります。
READY 表示灯が点灯していれば走行可能です。
READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで POWER を押すとパワーモードが OFF になり、走行できなくなります。

READY 表示灯 P.90

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、セレクトレバーを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。

2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。
電子制御パーキングブレーキ P.331

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

パワーシステムの起動

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。
Honda スマートキーの電池が切れたとき P.445

発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ハイブリッド車は走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がでないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。
READY 表示灯が点灯しているかどうかを確認し、発進操作をしてください。

ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを N にしないでください。
回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

次ページに続く

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

その他の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。

- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂からの平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車

トランスミッションについて

■クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、セレクトレバーが P N 以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■キックダウン

セレクトレバーが D S で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、オートマチック車のキックダウンのように、力強い加速を得ることができます。

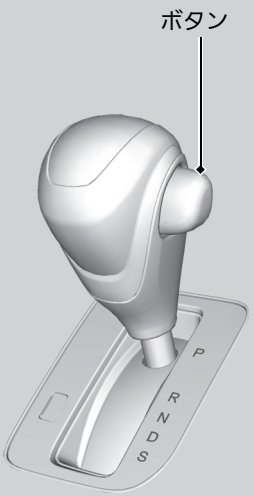
キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、エンジン回転数が上がり、モーターの出力が大きくなることで速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはパワーシステムの起動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
通常走行

S ドライブ(S)
- アクセル操作に対して応答性のよい走りをしたいとき
- 上り坂や下り坂を走行するとき

▶シフト操作

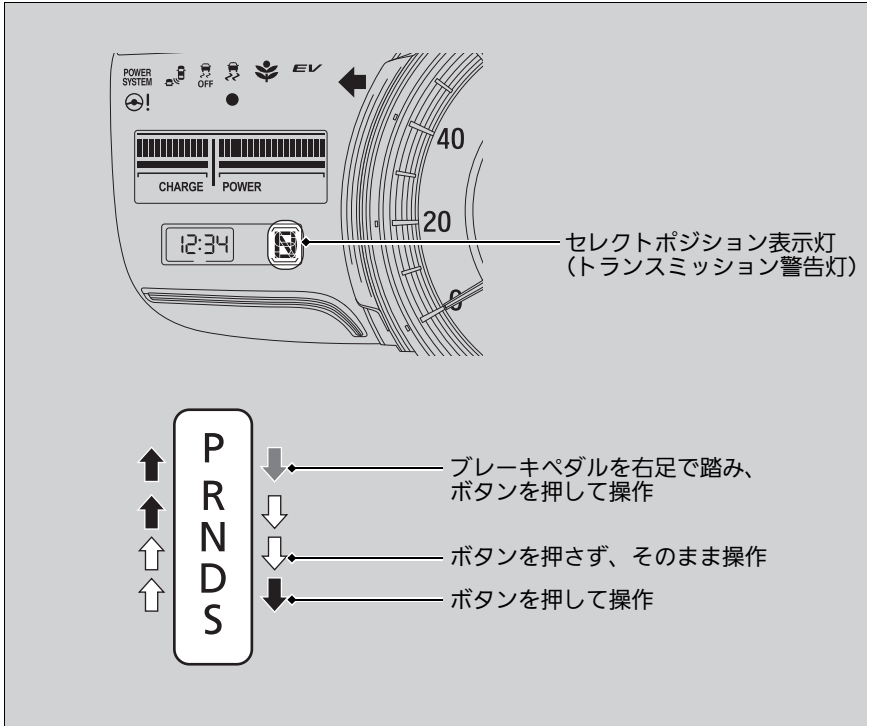
高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。

セレクトレバーが P 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。

■セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



⩙セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

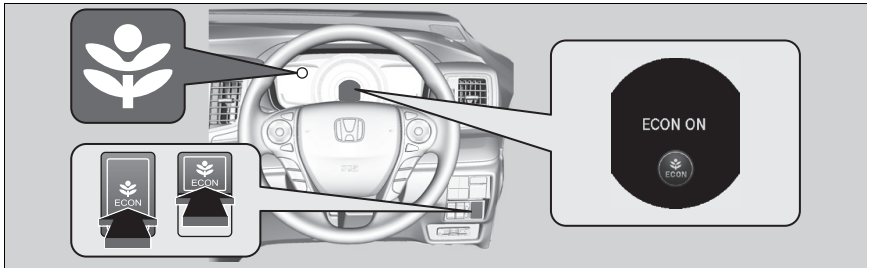
急加速を避け、Honda販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、セレクトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずセレクトポジションを確認してください。

ECON スイッチ



スイッチを押すとエンジン、モーター、オートエアコン、クルーズコントロールの作動を制御して、省エネ運転をしやすくするように制御します。

パワーモードが ON モードのときに ECON スイッチを押して、ECON モードの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ECONモードがONの時は、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

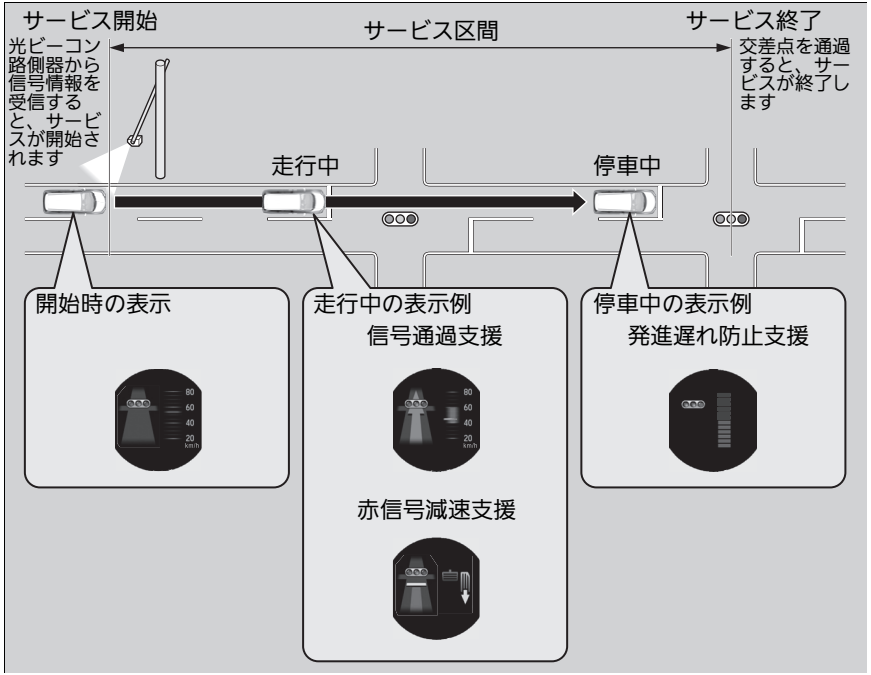
▶▶ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

信号情報活用運転支援システム

信号情報活用運転支援システムは走行時に受信した複数の交差点の信号予定情報を基に、信号通過支援、赤信号減速支援、発進遅れ防止支援をマルチインフォメーションディスプレイ内に表示し、運転者にお知らせする機能です。



信号情報活用運転支援システム

⚠警告

信号情報活用運転支援システムは補助機能として使用する。

信号情報活用運転支援システムは、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者に情報提供するための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

別売の VICS 光ビーコンユニット装着時のみ表示されます。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

サービス区間を走行することにより、車側からも光ビーコン路側器へ送信される情報があります。その情報は各都道府県の交通管制センターにて管理されますが、個人や車を特定できるものではありません。その情報は渋滞状況の把握や信号制御の改善等に使われます。

マルチインフォメーションディスプレイを使って信号情報活用運転支援 / 走行情報送信機能の ON/OFF 設定、割込表示や音のありなしの設定ができます。
➲ **カスタマイズ機能** P.120

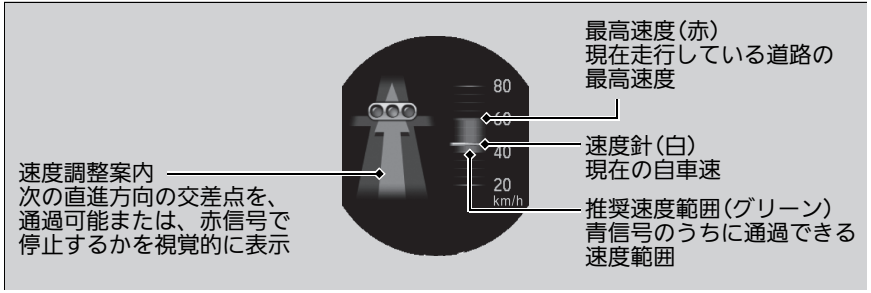
発進遅れ防止支援時にはポーンという音が鳴ります。

サービス区間では、受信した最高速度情報を標識認識機能で使用します。

次ページに続く

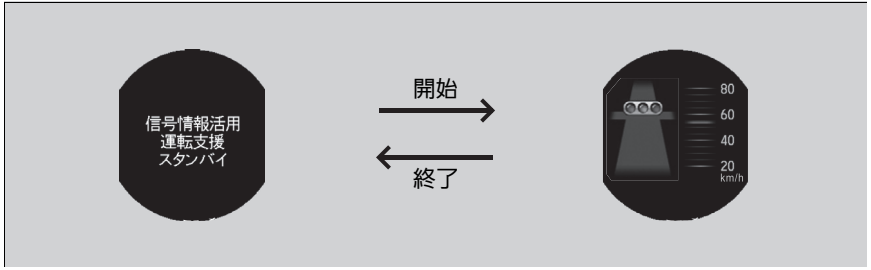
■システムの作動

表示名称と機能は以下のとおりです。



■サービス開始と終了

光ビーコンの下を通過し、信号制御情報を受信したときにサービスを開始します。



サービスを終了すると、スタンバイ状態になります。

サービス開始と終了

運転中に以下の表示が出た場合、システムの異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。



カスタマイズ機能で “割り込み表示有り” にしておくと、自動で支援画面が表示されます。サービスが終了すると元の表示画面に戻ります。

サービス途中で右左折した場合スタンバイ状態になります。

自車の前方が渋滞時は作動タイミングが合わないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイの表示

各支援表示に合わせ周囲の状況を確認しながら適切に走行することで省燃費運転を手助けします。

• 信号通過支援表示 / 赤信号減速支援表示(走行中)



❶ 普段通り運転してください



❷ 青信号で通過可



❸ 今の速度では赤信号で停止します
速度調整をする



❹ 赤信号で停止します



❺ 目の前の信号で停止します
アクセルペダルから足を離す



❻ 2 つ目の信号で停止します
アクセルペダルから足を離す

• 発進遅れ防止支援表示(赤信号で停止中)



❼ 赤信号の残時間を表示



❽ まもなく青信号に変わります

マルチインフォメーションディスプレイの表示

通過支援表示が交差点直前では ❶ の表示になります。

配信される信号情報には有効時間があります。
▶渋滞などで有効時間を過ぎると ❶ の表示になります。

❺❻ 表示は走行中の道路環境(勾配など)によっては遅く感じたりすることがあります。

前方の信号が感応式信号機などの場合は発進遅れ防止支援や通過支援に対し、表示(推奨速度範囲も含む)が遅れたり早くなることがあります。

右折や左折の矢印表示がある信号機で右折待ちや左折待ちの場合、支援表示はあくまでも自車が直進する想定で表示します。

次ページに続く

■信号情報活用運転支援システムの条件と制限

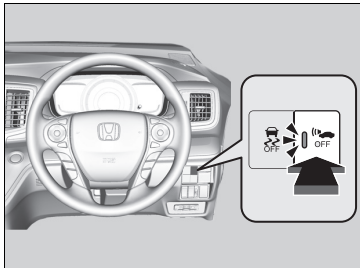
以下の条件によりサービスが制限されます。

- （通信機器の整備状況により）全ての路線でサービスされるわけではありません
- サービス路線であってもサービスされない区間があります
- 同じ交差点を通っても支援が出る場合と出ない場合があります
- サービス区間であっても工事や管制センターメンテナンス等でサービスしていない時間帯があります
- 押しボタン式交差点等、サービス対象外の交差点があります

車両接近通報装置

約 20km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

■車両接近通報装置の ON と OFF



車両接近通報を停止(OFF)状態にするには、OFFを押してください。
車両接近通報が停止状態になります。

再度使用 (ON)するには、OFFを押します。

車両接近通報装置

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.336

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

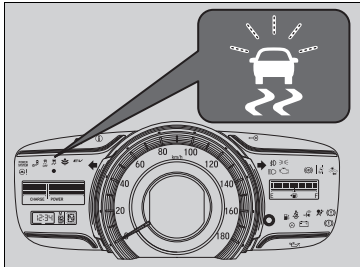
■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

電子制御ブレーキアシスト P.337

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSAが正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSAが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

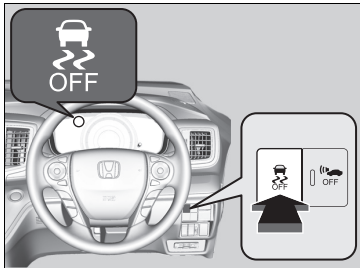
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、VSA OFF でVSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。

VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。
再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ブラインドスポットインフォメーション*

隣接する車線後方の検知エリアに他の車両がいることを知らせ、運転者の車線変更等の操作の際の負担を軽減するシステムです。

ブラインドスポットインフォメーション*

⚠警告

車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。

状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

他の運転支援システムと同様に、ブラインドスポットインフォメーションには制限があります。システムを過信すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

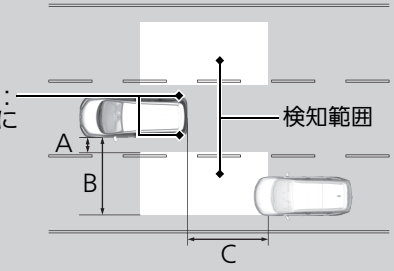
下記のような場合、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯しないことがあります。

- 他の車両が 2 秒以上検知範囲にいなかったとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- 自車が隣接する車線を走行する車両を約 10km/h 以上の速度差で追い越したとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムの作動条件

自車の車速が 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲にいる車両を検知
検知範囲
A: 約 0.5m
B: 約 3m
C: 約 3m



ブラインドスポットインフォメーション*

他の車両が検知範囲内にある場合でも、以下のように作動することがあります。

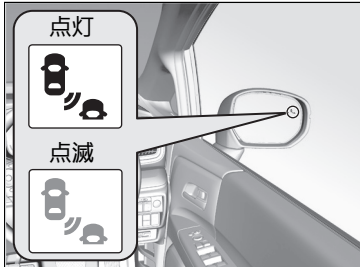
- 水しぶきなどにより、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットシステム点検」と表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットシステム点検」と表示されていても、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する

セレクトレバーが R のときは、システムは作動しません。

次ページに続く

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■システムが車両を検知したとき



ブラインドスポットインフォメーション警告灯：両側のドアミラー鏡面にあります。

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する条件：

- 他の車両が、自車より車速約 50km/h 以下の車速差で追い越しのために後方から検知範囲に入ったとき
- 約 20km/h 以下の車速差で他の車両を追い越したとき

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件：検知範囲に他の車両があるときに、検知された車両がある方向に方向指示器スイッチを操作すると、警報音が 3 回鳴ります。

ブラインドスポットインフォメーション*

警報音、警報表示の設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能 P.120

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を検知したとき
- 自動二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候(雨、雪、霧など)のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- リヤバンパーの側面部は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの側面部にシールなどを貼り付けない

リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったときや修理を行う際は、Honda 販売店にご相談ください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3ヶ月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。
長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーが放電しすぎないように注意をしてください。
充電量が0の状態で長期間放置されるとエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

ホンダセンシング

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる2種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

- 衝突軽減ブレーキ(CMBS) ➔P.269
- 誤発進抑制機能 ➔P.277
- 歩行者事故低減ステアリング ➔P.279
- 渋滞追従機能付きアダプティブクルーズコントロール ➔P.285
- LKAS(車線維持支援システム) ➔P.299
- 路外逸脱抑制機能 ➔P.310
- 先行車発進お知らせ機能 ➔P.317
- 標識認識機能 ➔P.321

▩ホンダセンシング

⚠警告

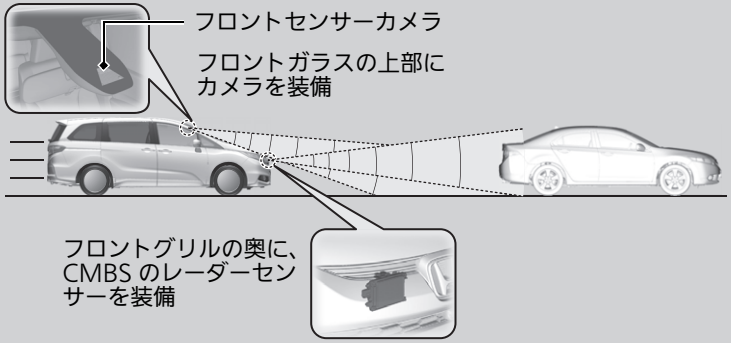
ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、約 30 ～ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が作動する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

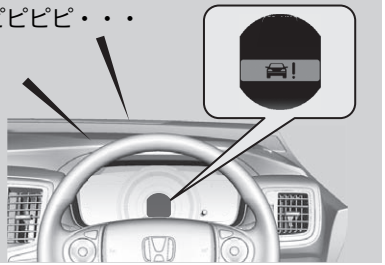
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.330

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.328

次ページに続く

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーに加え、ステアリング振動による警告が発生します



CMBS の警報距離を Far・Normal・Near の 3 段階から選択することができます。
カスタマイズ機能 P.120

Far は Normal に対して遠くで警告します。Near は Normal に対して近くで警告します。

■ステアリング振動による警告について

対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

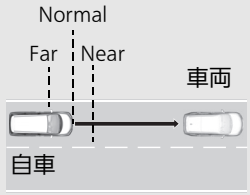
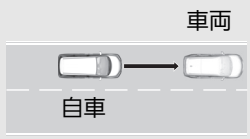
▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。
警告灯 P.72

■ CMBS 作動の流れ

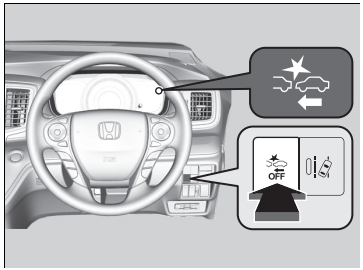
CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が 2 回点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➡ **カスタマイズ機能** P.120	対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動が発生	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	—	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況			強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

次ページに続く

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーシステムを停止した場合でも、再度パワーシステムを起動すると自動的に ON になります。

≫衝突軽減ブレーキ（CMBS）

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■その他、作動できない事例

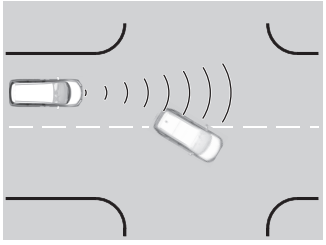
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

次ページに続く

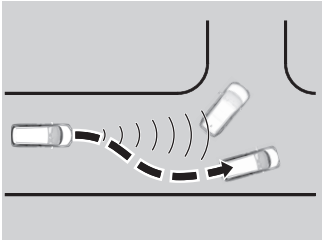
■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

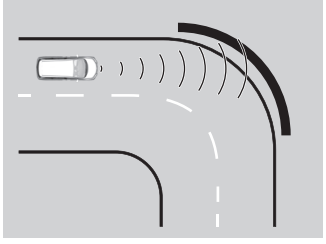
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき



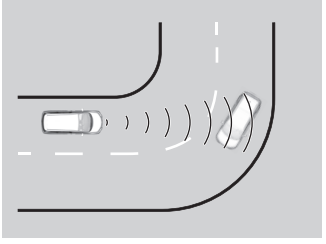
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合



- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

誤発進抑制機能

フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示等で知らせる運転支援機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが P 、 R 、 N のときは、作動しません。

誤発進抑制機能

⚠警告

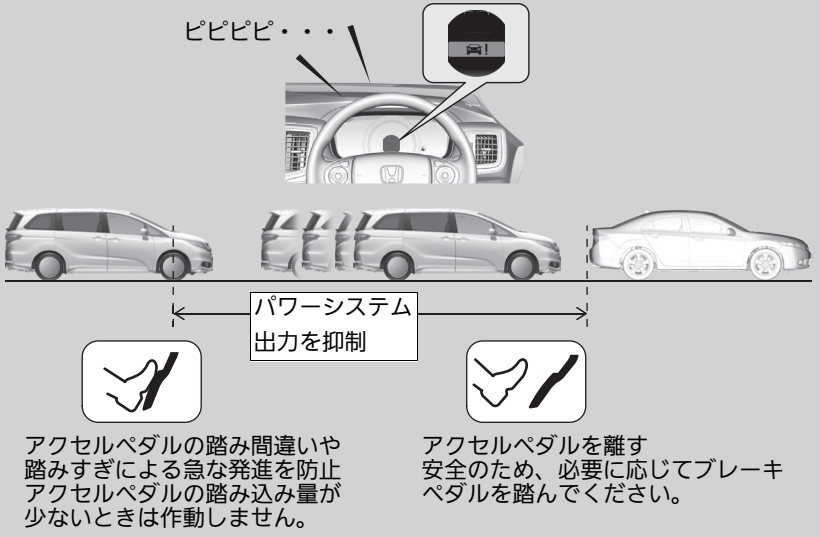
誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がセレクトレバーやペダルの位置および常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

次ページに続く

作動状態

機能作動中はブザー(ピピピ)が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅します。



■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

≫誤発進抑制機能

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.330

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.328

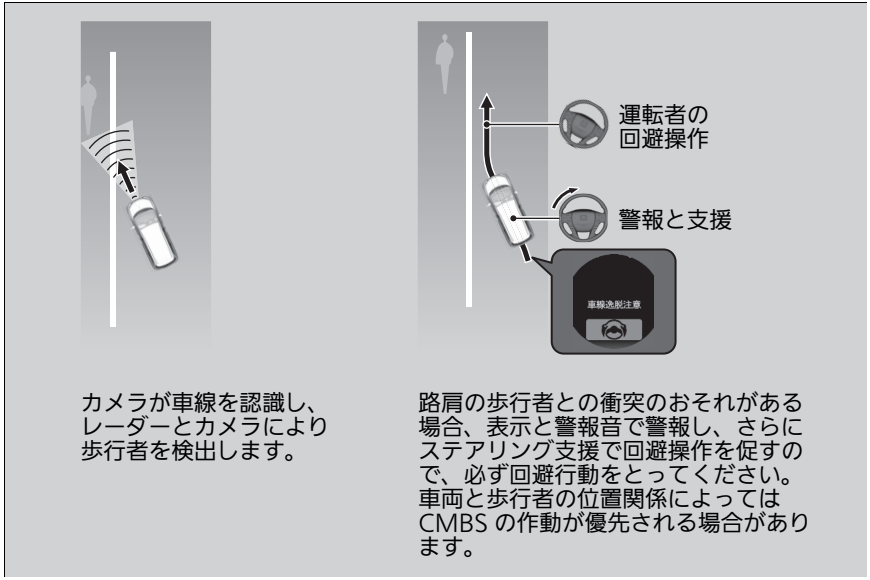
踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。その時は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。

歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



カメラが車線を認識し、レーダーとカメラにより歩行者を検出します。

路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。車両と歩行者の位置関係によってはCMBS の作動が優先される場合があります。

歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.330

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.328

次ページに続く

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

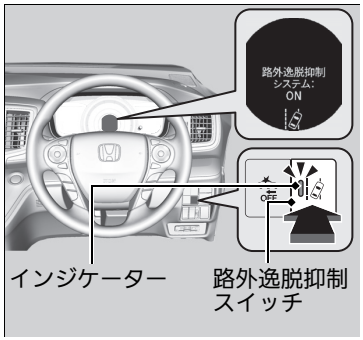
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

システムの作動条件

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

カスタマイズ機能 P.120

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)や歩行者が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

次ページに続く

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには：

渋滞追従機能付ACCシステムは、シフトポジションが D 、 S のときに使用することができます。

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

次ページに続く

■使用できるシフトポジション
D 、 S のとき



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

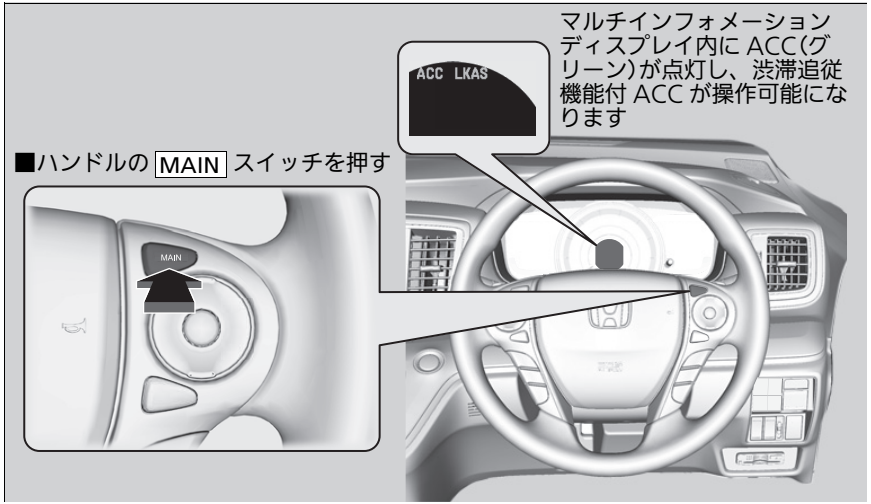
取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

■システムを作動させるには



渋滞追従機能付 ACC(アダプティブクルーズコントロール)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.328

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

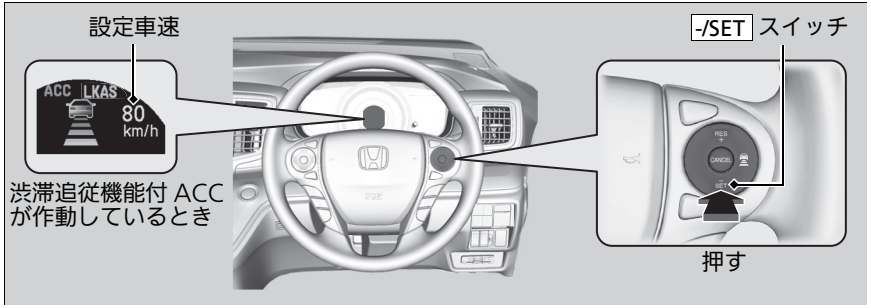
➔ **レーダーセンサー** P.330

使用上の注意：

渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

次ページに続く

■車速をセットするには



ブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき：

先行車を検知している場合のみ作動することができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約 30km/h に設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

≫車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、渋滞追従機能付 ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

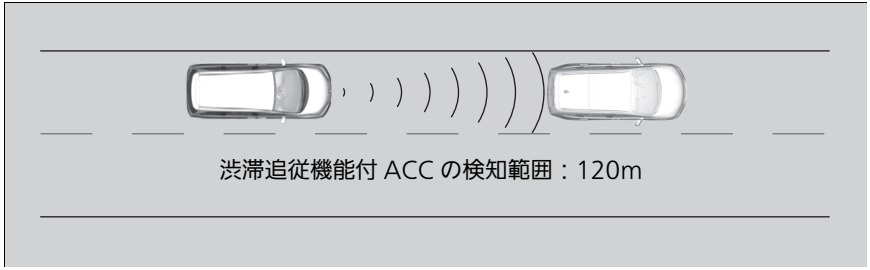
下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

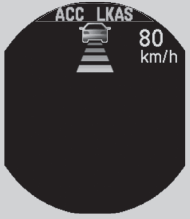
■渋滞追従機能付 ACC の作動

■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m



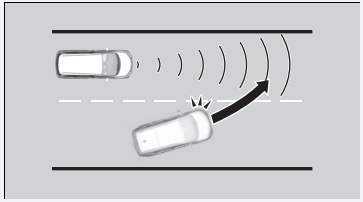
マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

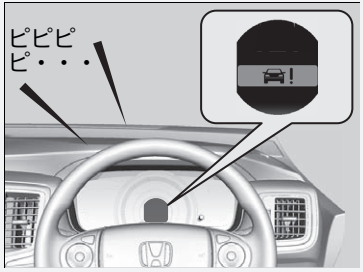
次ページに続く

渋滞追従機能付 ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



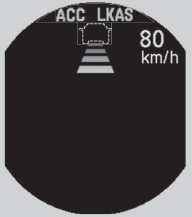
ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

マルチインフォメーションディスプレイを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。
➔ **カスタマイズ機能** P.120

■先行車がいないとき



マルチインフォメーション
ディスプレイに点線の車の
アイコンが表示されます

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速したあと定速走行します。

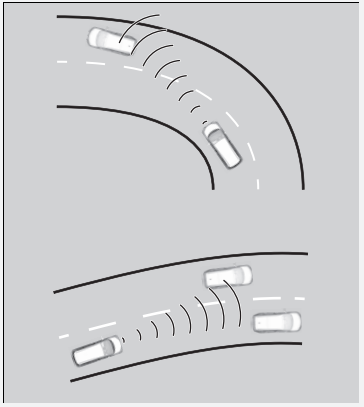
■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付 ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

渋滞追従機能付 ACC の作動

制限：
安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。
➔ **渋滞追従機能付 ACC の条件と制限** P.291
➔ **車間距離を設定するには** P.295

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■先行車が減速して停車するとき



先行車が停車すると、自車も自動で停車します。マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
先行車が動き始めると、マルチインフォメーションディスプレイのアイコンが点滅します。 RES/+ スイッチまたは -/SET スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

■渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➔ フロントセンサーカメラ P.328

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースや、セカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

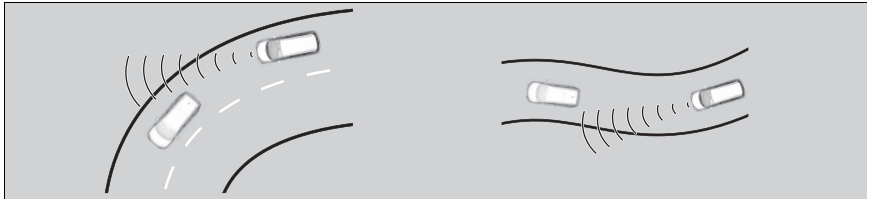
■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき

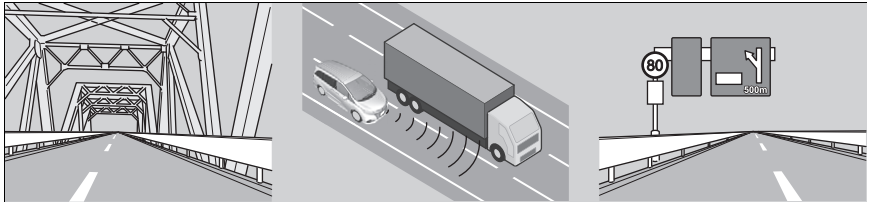
次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

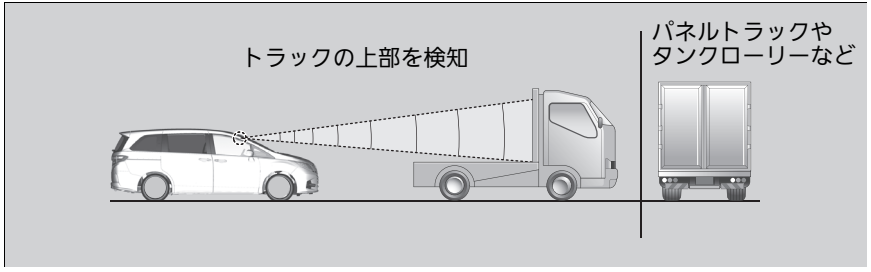


■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

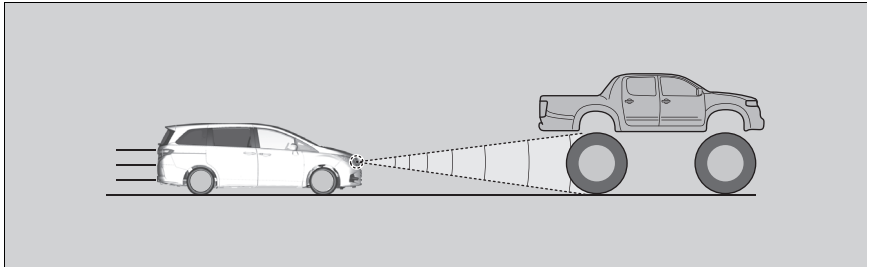
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき



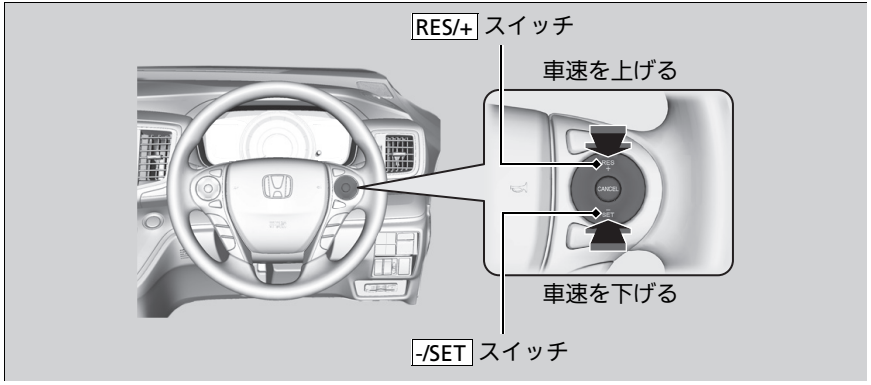
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



次ページに続く

■設定車速を調整するには

手元の RES/+ スイッチと -/SET スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

»設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

■車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

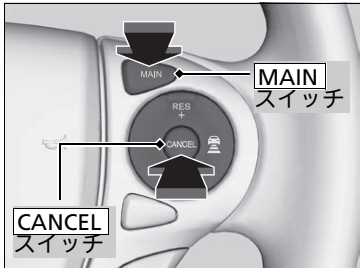
次ページに続く

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ 停車している場合、ブレーキペダルを踏んでも渋滞追従機能付 ACC は解除しません。

▨解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、停車状態でも RES/+ スイッチを押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- MAIN スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき

設定速度の設定や復帰は、MAIN スイッチがオフの状態ではできません。

次ページに続く

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

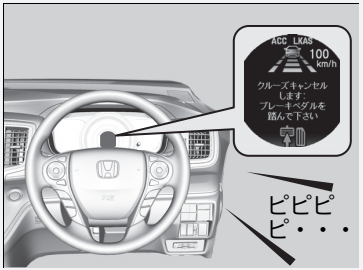
次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
- フロントグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき

▶解除するには

停車中の解除：

渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

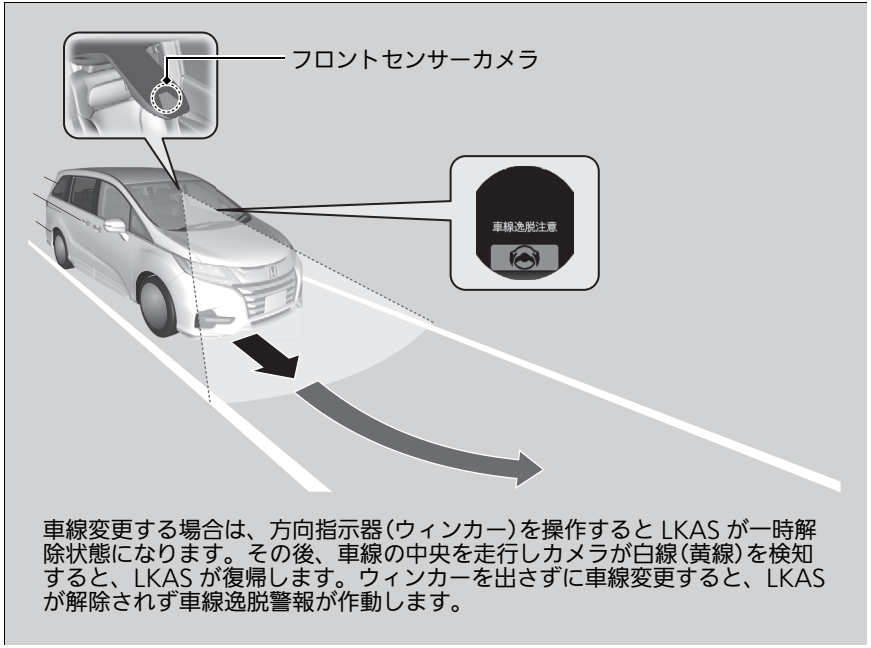


すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。ウィンカーを出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

LKAS(車線維持支援システム)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

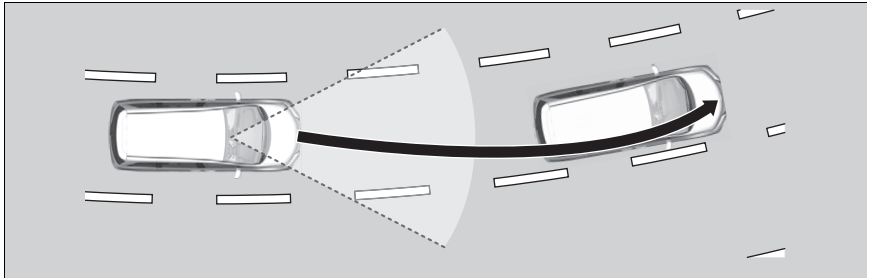
LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

次ページに続く

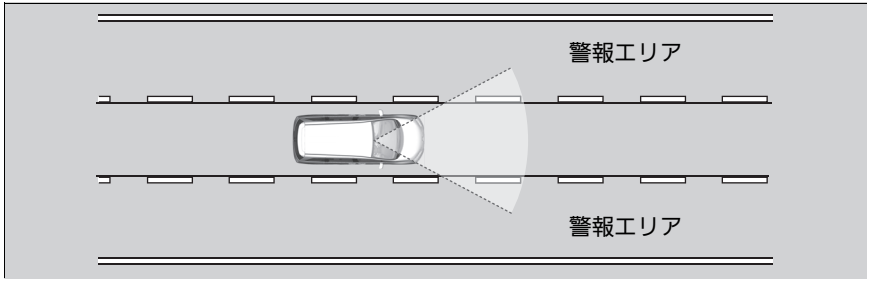
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動とディスプレイ表示で行います。



LKAS(車線維持支援システム)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントセンサーカメラ** P.328

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

➡ **LKAS の条件と制限** P.306

車線の検知に失敗すると一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

LKAS を作動させるには

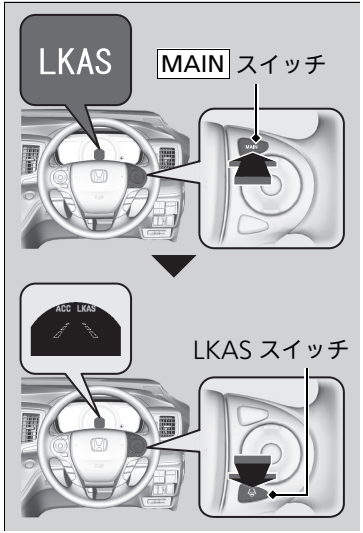
システムが作動しているときに、左右の白線（黄色線）に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.306

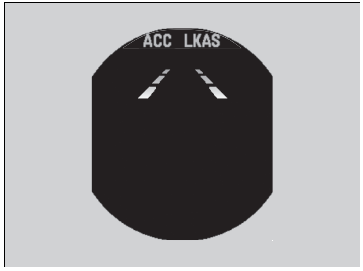
次ページに続く

■システムの作動方法



1. MAIN スイッチを押す
▶ LKAS システムが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイ内に LKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す
▶ LKAS システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。



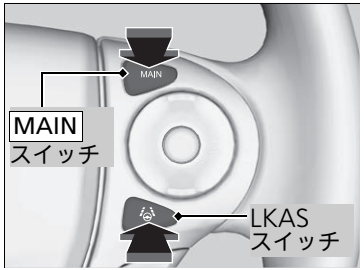
3. 車線の中央付近を走行する
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKAS が制御を開始します。

LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

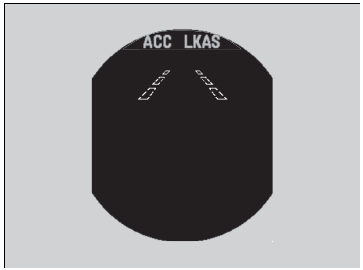
- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、パワーモードを OFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に渋滞追従機能付 ACC も解除されます。

次ページに続く



■LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ ワイパーをOFFにすると、LKASは復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むとLKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知するとLKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が60km/h以下になると、LKASは自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

LKAS の一時解除

マルチインフォメーションディスプレイを使って自動解除ブザーの有り / 無しを設定できます。

カスタマイズ機能 P.120

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

次ページに続く

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき



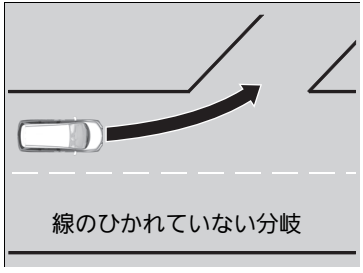
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

次ページに続く

- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



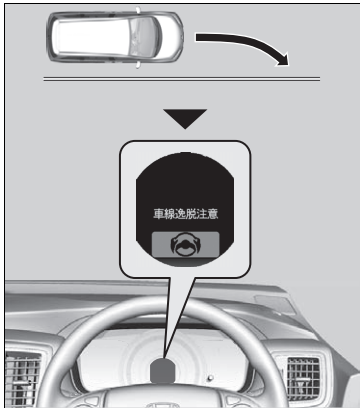
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄色線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

▩路外逸脱抑制機能

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.328



システムの支援中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
支援中に運転者が操作しなかった場合は図の警告を表示します。

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。
➲ 路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.314

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

繰り返し左記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り支援を中断します。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS（車線維持支援システム）を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。
➲ カスタマイズ機能 P.120



次ページに続く

■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

システムの作動条件

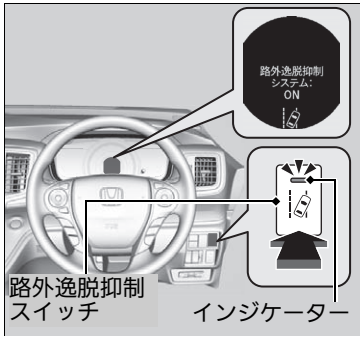
路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

警告灯 P.72

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

⊠システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。

➔ **カスタマイズのしかた** P.122

次ページに続く

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

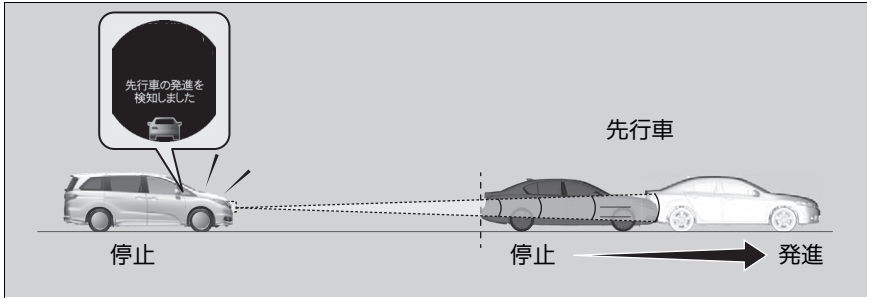
次ページに続く

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- カメラ温度が高温のとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■セレクトポジションが D 、 S の場合

ブレーキペダルを踏んでいる または オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している

次ページに続く

先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.330

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.328

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

■セレクトポジションが N の場合

ブレーキペダルを踏んでいる または パーキングブレーキが作動している または オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

➔ カスタマイズ機能 P.120

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

»先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。

➔ カスタマイズ機能 P.120

渋滞追従機能付 ACC 警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➔ 渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール） P.285

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

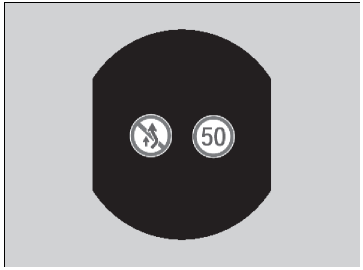
標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の４つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



▨標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.328

信号情報活用運転支援システム装備車
信号情報活用運転支援システムサービス区間では、信号情報活用運転支援システムの最高速度情報が優先されます。
➔ **信号情報活用運転支援システム** P.257

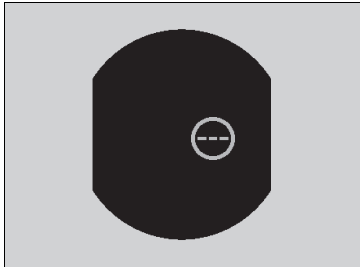
次ページに続く

標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離（数百〜千数百 m）を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器（ウィンカー）を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



標識認識機能

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。窓ガラスが曇った場合、必要に応じて、デフロスターを使用してください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。
安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

▶標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。



■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜などで覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

次ページに続く

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

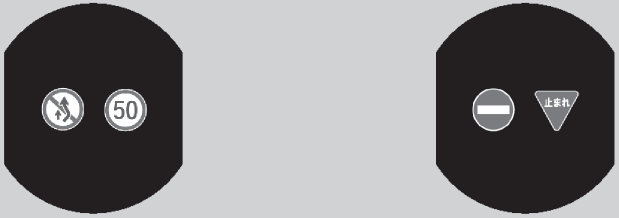
以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終りなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

■マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。選択表示モードのときは、ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。常駐表示モードのときは、上側には最高速度または一時停止標識、下側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

常駐表示モードのときの表示例



上側は一時停止、下側は車両進入禁止を優先表示します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

マルチインフォメーションディスプレイの表示

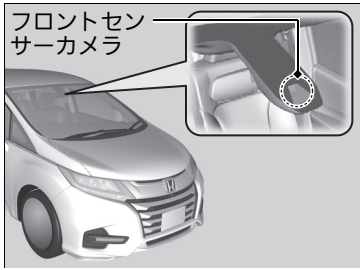
車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

マルチインフォメーションディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.120

常駐表示モードの道路標識表示

常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。ただし、ナビゲーションシステム✤ による交差点案内表示などが発生したときは縮小サイズの道路標識のアイコンが表示されないことがあります。
➔ **カスタマイズ機能** P.120

フロントセンサーカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

フロントセンサーカメラ

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
➡ **車内の清掃** P.419

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラおよび周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターを使用してください。

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

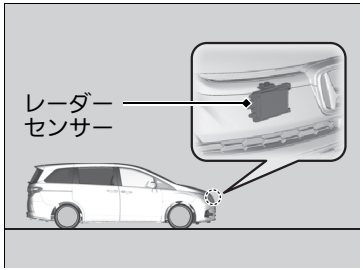
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントグリル内に設置されています。

レーダーセンサー

フロントグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルを塗装したりステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントグリル周辺の修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ブレーキシステム

■電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

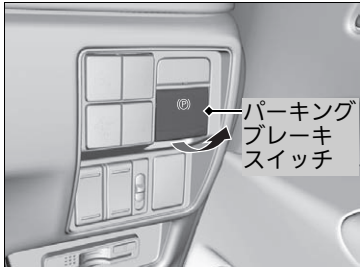
急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。



■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に押してください。

▶パーキングブレーキが作動すると、ブレーキ警告灯(レッド)が点灯します。



■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを引く。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

次ページに続く

»ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、モータールームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

»電子制御パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり、解除するとブレーキペダルが動くことがあります。
これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

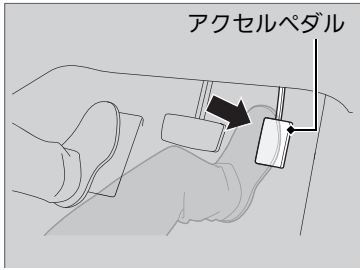
12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。
➔ ジャンプスタート P.447

走行中にパーキングブレーキスイッチを押し続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

10 分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車していると、自動でパーキングブレーキがかかります。

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。

▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションがP 、N以外のとき

▶▶電子制御パーキングブレーキ

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシートベルトを外したとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーモードを OFF モードにしたとき、自動でパーキングブレーキがかかります。

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

電子制御ブレーキアシスト P.337

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

ABS(アンチロックブレーキシステム) P.336

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、セレクトレバーを S にすると、回生ブレーキが強くなります。

次ページに続く

■オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには

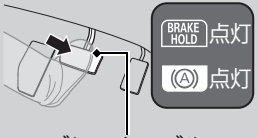


オートマチックブレーキホールドスイッチ

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

- オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

■ブレーキを保持させるには

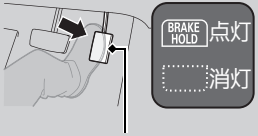


ブレーキペダル

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
- オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



アクセルペダル

シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

- オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

▶オートマチックブレーキホールド

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

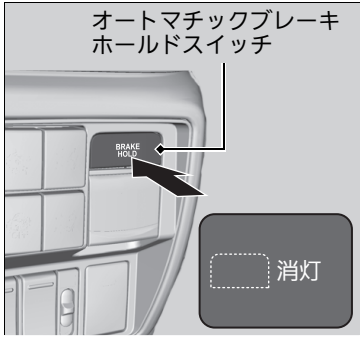
■ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを押したとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



機能が ON のときにオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯中にOFFにしたいときは、ブレーキペダルを踏みながらオートマチックブレーキホールドスイッチを押します。

オートマチックブレーキホールド

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。

➔ 駐停車操作 P.339

パワーシステムを停止すると、システムは自動的に OFF になります。

機能を OFF させるには

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これはABSの正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)ではABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

▶ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABSが正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABSは、制動距離を短くするためのものではありません。

ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABSの装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

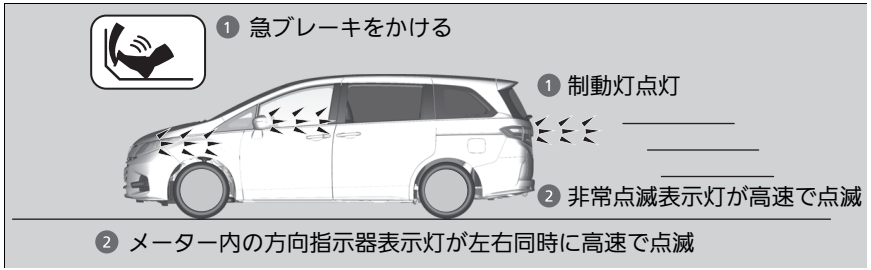
■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に押す。
3. シフトポジションを P にする。
4. パワーシステムを停止する。
▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で P N 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

次ページに続く

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車する

⚠注意

駐車時はパワーシステムをオフにする。
万一、セレクトレバーが P N 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに P に入れないでください。
トランスミッション故障の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

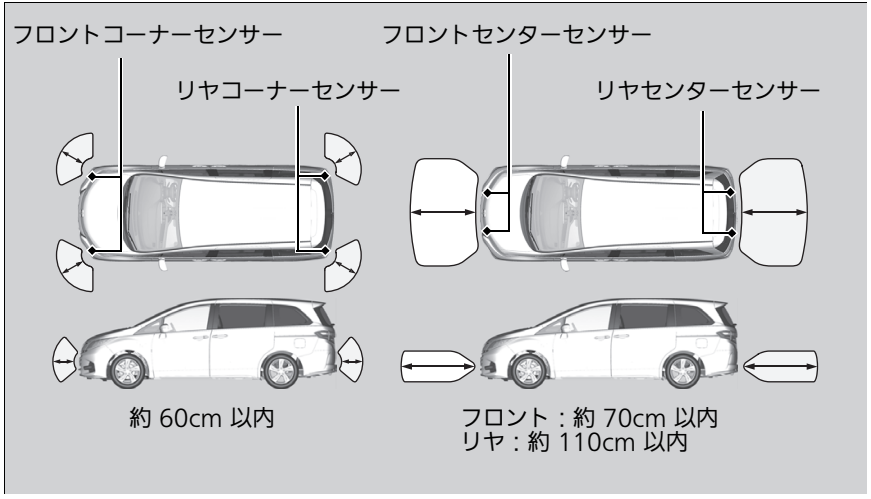
車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム*

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離をブザーとオーディオインフォメーション画面で知らせます。

■パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



パーキングセンサーシステム*

駐車する前に車両の廻りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。
- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 近くに超音波を発する電子機器があるとき
- 悪天候のとき

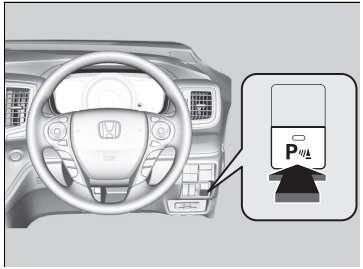
次のようなときは、システムが検知できないことがあります。
- 障害物が薄いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次ページに続く

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■パーキングセンサーの ON と OFF



パワーモードがONモードのときに、パーキングセンサーシステムスイッチを押して、システムの ON と OFF を切り換えます。
パーキングセンサーシステムをONにしたとき、スイッチのインジケーターが点灯します。

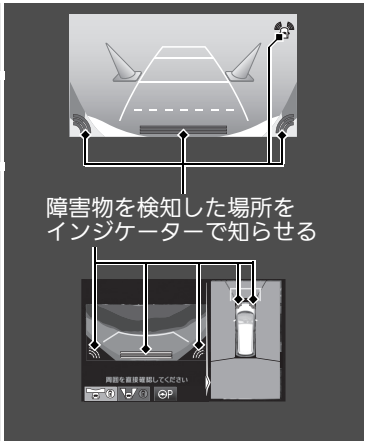
リヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが P 以外で、車速が8km/h以下のとき障害物を検知します。

パーキングセンサーの ON と OFF

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

■障害物を検知したときの作動状態

ブザー音の間隔	障害物との距離		インジケーター	オーディオ インフォメーション画面
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	フロント：約 70-60 cm リヤ：約 110-60 cm	点滅(イエロー)※	
短い	約 60-45 cm	約 60-45 cm	点滅(オレンジ)	
非常に短い	約 45-35 cm	約 45-35 cm		
連続	約 35 cm 以下	約 35 cm 以下	点滅(レッド)	

※：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

次ページに続く

■リヤセンサーの OFF

1. パーキングセンサーシステムが OFF になっていることを確認する。パワーモードを OFF モードにする。
2. パーキングセンサーシステムスイッチを押しながら、パワーモードを ON モードにする。
3. パーキングセンサーシステムスイッチを 10 秒間押し続け、スイッチのインジケーターが点滅したら手を離す。
4. 再度パーキングセンサーシステムスイッチを押すと、スイッチのインジケーターが消える。
▶ ブザーが 2 回鳴り、リヤセンサーが OFF になります。

リヤセンサーを再度ONにするときは、上記の手順を行ってください。センサーが ON になると、ブザーが 3 回鳴ります。

リヤセンサーの OFF

シフトポジションが R のとき、パーキングセンサーシステムスイッチのインジケーターが点滅し、リヤセンサーが OFF になっていることを知らせます。

後退出庫サポート✤

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー左右にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

後退出庫サポート✤

⚠警告

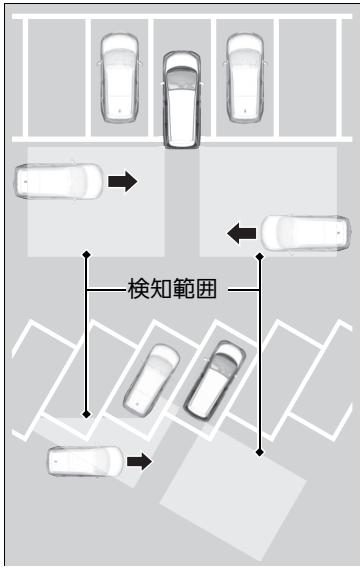
このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。
状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■作動条件と作動タイミング



パワーモードが ON モードでセレクトポジションが R のときにシステムを ON にしていると、自車の車速が約 5km/h 以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面の表示でお知らせします。

自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でブザーと画面の表示を停止します。
また、接近する歩行者、自転車、二輪車などに対して検知する場合があります。

▨後退出庫サポート*

以下のような状況では、接近する車両を検知できなかったり、検知が遅くなったり接近する車両がいないのに検知したりする場合があります。

- 自車の車速が約 5km/h を越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10 ～ 25km/h 以外のとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはカーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 隣に他の車両などがあり、接近する車両をシステムが認識できないとき
- リヤカメラのレンズに汚れや水滴、雪などが付着しているとき
- 夜間にヘッドライトを点灯していない車両が接近しているとき
- 夜間にヘッドライトがハイビームになっている車両が接近しているとき
- 屋内車庫の出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- リヤカメラに荷重がかかるなどして正しい位置から傾いてしまったとき
- テールゲートが開いているとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

後退出庫サポート✤

- 歩行者、自転車やバイクが接近してきたとき
- 自車両が旋回しながら後退するなどして、後方の車両や建物などがカメラ画面中央に近づくように見えるとき
- 旗やのぼりなど不規則な動きをするものが、後方にあるとき
- 石畳やフェンスなど、規則的な模様が連続するものが、後方にあるとき
- 段差などにより車が大きくゆれたとき

作動条件と作動タイミング

Honda スマートパーキングアシストシステムが作動しているときは、このシステムは作動しません。

次ページに続く

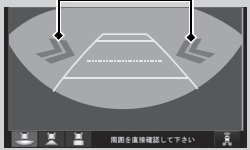
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■画面表示について

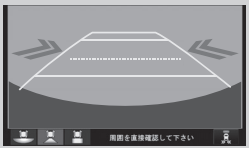
接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印が表示されます。

リヤワイドカメラシステム装備車

接近方向矢印



ワイドビュー



ノーマルビュー



トップダウンビュー

マルチビューカメラシステム装備車

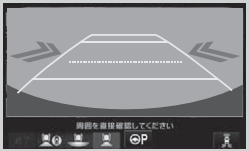
接近方向矢印



リヤノーマルビュー＋
グラウンドビュー



リヤワイドビュー



リヤノーマルビュー

≫後退出庫サポート*

リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。レーダーの電波がさえぎられるため、他の車両を正しく検知できません。

システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしておいてください。

≫画面表示について



画面右下のアイコンが上記の表示に変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーを R にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。Honda 販売店で点検を受けてください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■後退出庫サポートの ON と OFF

リヤワイドカメラシステム装備車



後退出庫サポートスイッチ

マルチビューカメラシステム装備車



後退出庫サポートスイッチ

後退出庫サポートスイッチを押して、システムの ON/OFF を切り換えます。
ON にすると、スイッチの表示灯(グリーン)が点灯します。
また、カスタマイズ機能を使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➲ **別冊のメーカーオプションのHondaインターナビシステム取扱説明書**

マルチビューカメラシステム*

マルチビューカメラシステムは、運転席から死角となる部分を、ナビゲーション画面に映る画像で確認するシステムです。このシステムを補助的に使用することで、次のような場合に運転者の負担を軽減します。

- 見通しの悪い交差点で左右を確認する
  ➡ **見通しの悪い交差点で左右を確認するには** P.358
- 狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ、車庫入れなどで前方の障害物を確認する
  ➡ **前方と前方側面の障害物を確認するには** P.357
- 後方の障害物を確認する
  ➡ **後方の障害物を確認するには** P.356
- 区画線のある駐車場にバックで駐車または縦列駐車する
  ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365
  ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370
- 区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫する
  ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374

▶マルチビューカメラシステム*

⚠警告

周囲の安全は、マルチビューカメラシステムの画像だけに頼らず、目視やミラーなどで直接確かめてください。

このシステムは運転者の操作をサポートするためのものであり、事故や衝突を防止するためのシステムではありません。

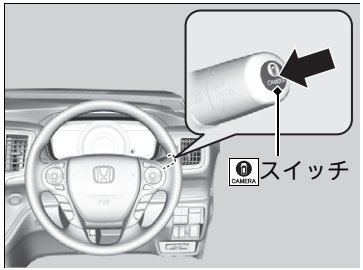
運転操作時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、表示できない可能性があるため、画面の表示のみを頼って操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

事故防止のため、周囲の安全を確かめてご使用ください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■マルチビューカメラの画像を表示させるには





前方表示：

停車中または速度が 20km/h 以下のときに、CAMERAを押します。

▶画面は、CAMERAを押して切り換えます。

▶画面のスイッチにタッチして切り換えることもできます。

後方表示：

停車中にセレクトレバーを R にします。

▶画面は、CAMERAを押して切り換えます。

▶画面のスイッチにタッチして切り換えることもできます。

▶表示設定はカスタマイズできます。

マルチビューカメラシステムのカスタマイズ
P.359

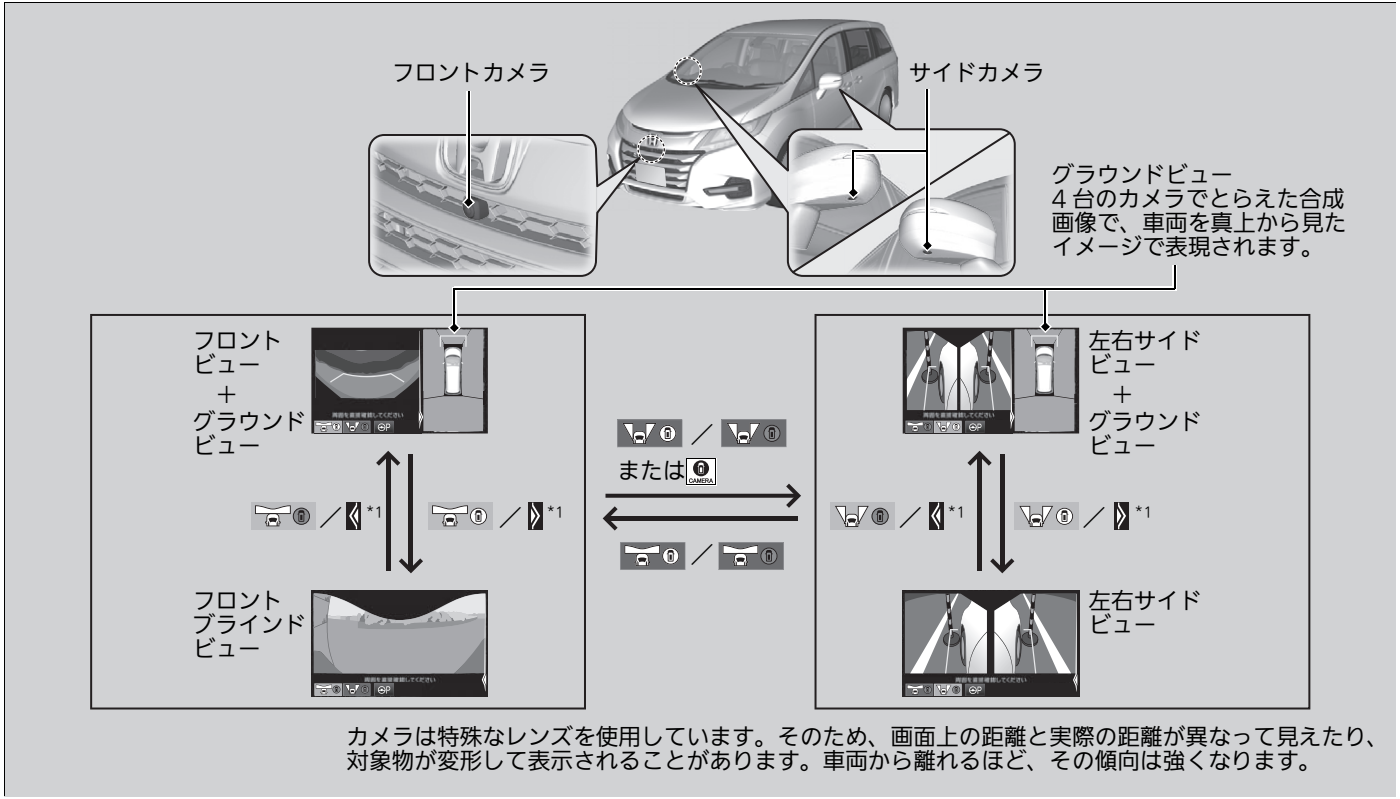
マルチビューカメラの画像を表示させるには

シフトポジションが R のときはナビゲーションシステムを操作できません。

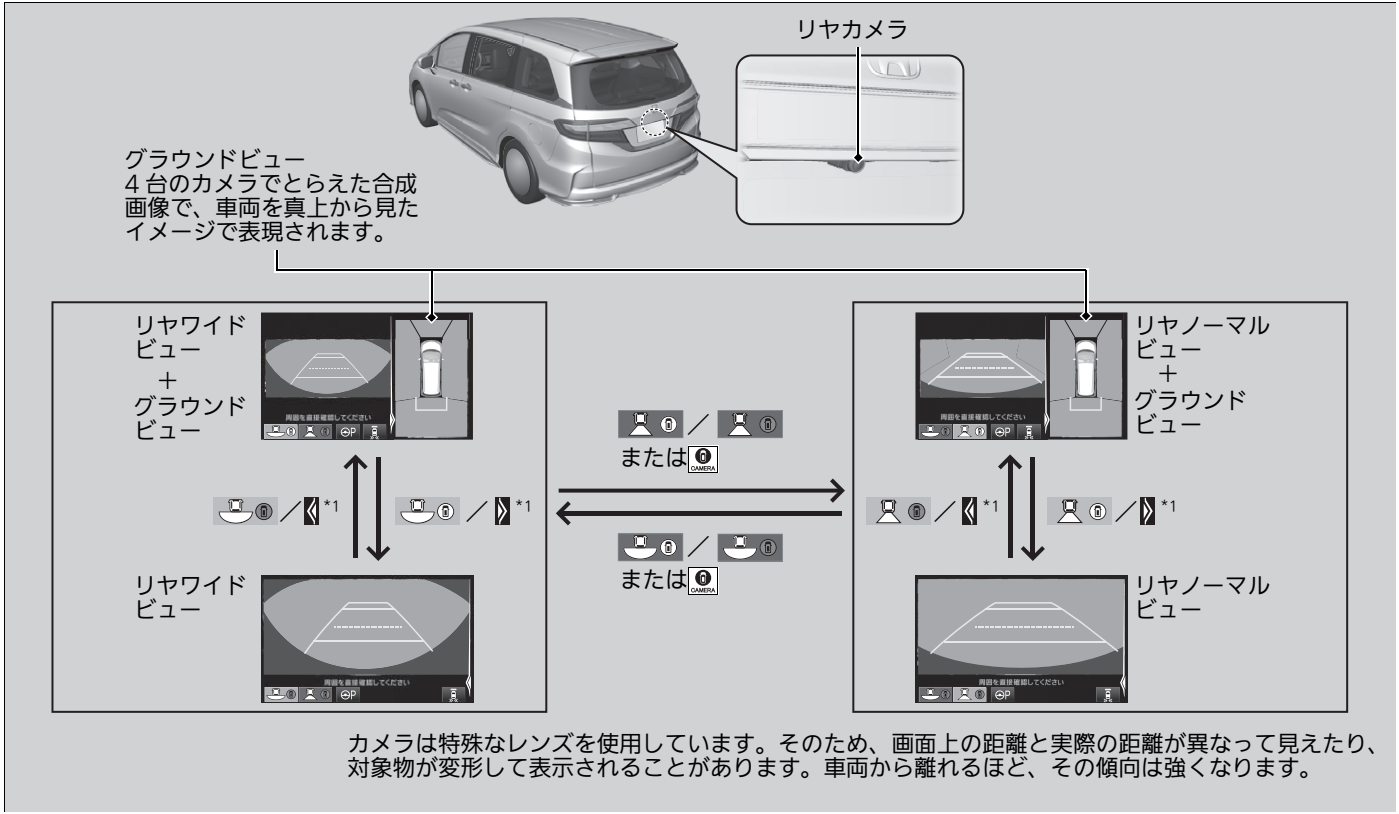
次ページに続く

■カメラの設置場所と画像について

車両には４台のカメラが取り付けられています。それぞれのカメラの画像と、４台のカメラの画像を合成したグラウンドビューがあります。



*1: ビュー部分をタッチしても画面を切り替えることができます。



*1: ビュー部分をタッチしても画面を切り替えることができます。

次ページに続く

■目安ガイド線と予測ガイド線表示

マルチビューカメラシステムが起動している状態のときに以下のガイド線を表示できます。

目安ガイド線：車両からの距離を表示することができます。この距離は、実際の距離とは異なる場合があります。

予測ガイド線：ハンドル操作に応じて、車両の動く方向を表示することができます。

マルチビューカメラの画像を表示させるには

速度が25km/h以上のときにCAMERAを押すと、待機画面が表示されます。
速度が 20km/h 以下になると自動的にマルチビューカメラシステム画面に戻ります。

ガイド線の示す位置とカメラ映像の表示は、車高の変化や路面の状態の影響で、実際の距離と異なることがあります。あくまでも目安としてお使いください。

目安ガイド線および予測ガイド線は、カスタマイズにより表示 / 非表示を切り換えることができます。

カスタマイズ項目 P.361

■Honda スマートパーキングアシストシステム

画面中の[P]をタッチするとパーキングアシストシステムが起動します。このシステムは以下の場合に使用できます。

- 駐車場にバック駐車する
  区画線のある駐車場にバック駐車するには P.365
- 駐車場に縦列駐車する
  区画線のある駐車場に縦列駐車するには P.370
- 縦列駐車から出庫する
  区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには P.374

Honda スマートパーキングアシストシステム使用時



バック駐車モードタブ
左または右へバック駐車するときにタッチします。

出庫モードタブ
左または右から出庫するときにタッチします。

中止スイッチ
パーキングアシストシステムの作動を中止します。

縦列駐車モードタブ
左または右へ縦列駐車するときにタッチします。

目標駐車枠
駐車する場所の区画線を構成して画面上に表示します。

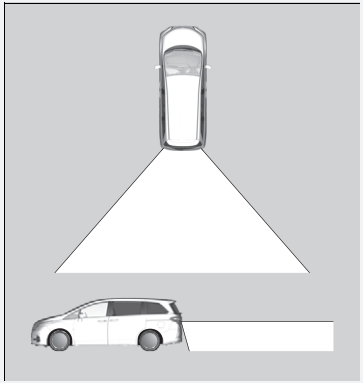
目標駐車枠自動認識 OFF スイッチ
目標駐車枠自動認識システムのON/OFF を切り換えます。

Honda スマートパーキングアシストシステム

システムを作動させると、画面表示やブザー音でアシストします。また、画面内の表示灯の点灯で、システムの状態を示します。
設定により音声でもガイドを行います。
カスタマイズ項目 P.361

目標駐車枠や青枠の示す位置とカメラ映像の表示は、画面では平行に見えても、実際には平行ではないことがあります。
実際の状況と異なることがあります、あくまでも目安としてお使いください。

後方画面表示は下記の範囲となります。
画面表示されない範囲の確認は、直接行なってください。

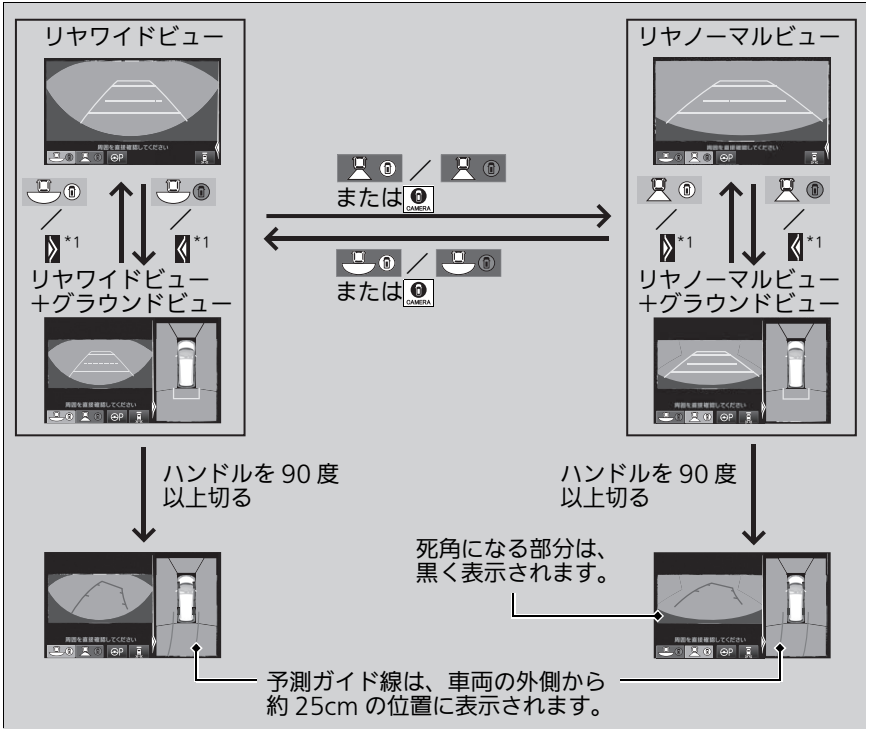


次ページに続く

■マルチビューカメラの使いかた

■後方の障害物を確認するには

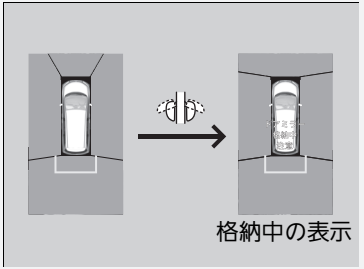
セレクトレバーを R にすると、自動的に後方画面表示に切り換わります。



*1: ビュー部分をタッチしても画面を切り替えることができます。

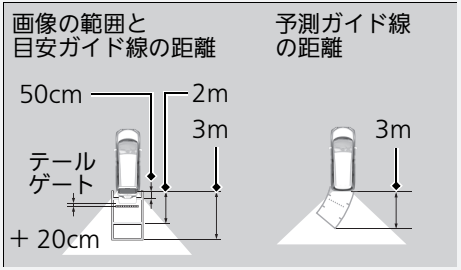
マルチビューカメラの使いかた

ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されます。ただし、ドアミラー格納中は表示エリアおよび死角が異なりますので注意してください。



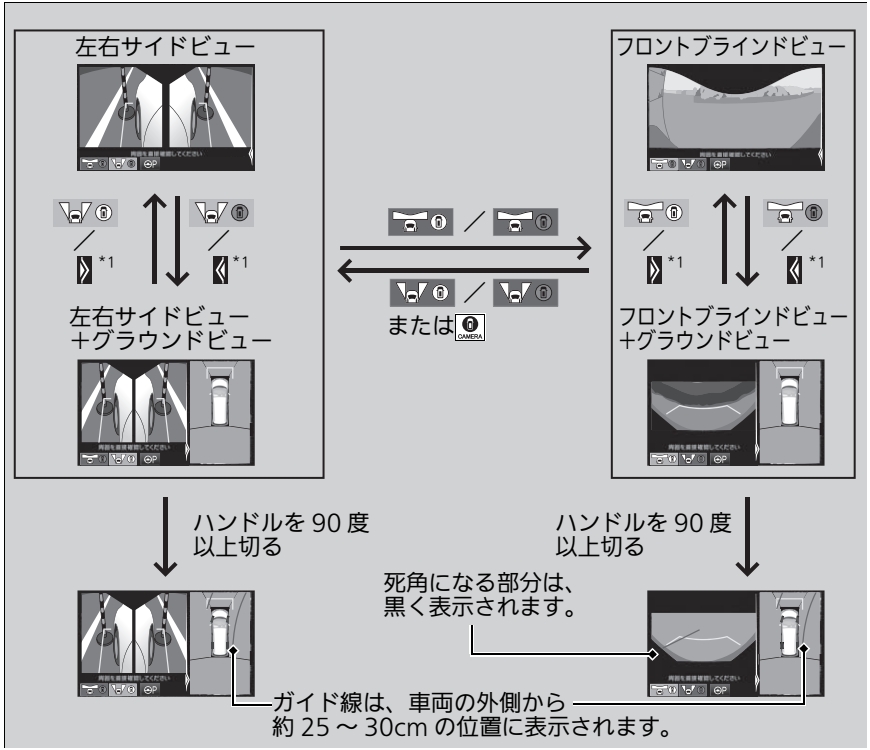
後方の障害物を確認するには

セレクトレバーを R に切り換えたときに、後方画面表示が遅れて切り換わることがあります。



■前方と前方側面の障害物を確認するには

CAMERAを押すと前方画面表示が表示できます。車速が 20km/h 以下のときに画面上のスイッチを押すと、画像が以下のように切り換わります。

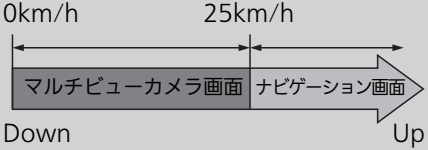


*1: ビュー部分をタッチしても画面を切り替えることができます。

次ページに続く

前方と前方側面の障害物を確認するには

車速が 25km/h を超過するとフロントビューまたはサイドビュー画面は自動的にナビゲーション画面に切り換わります。





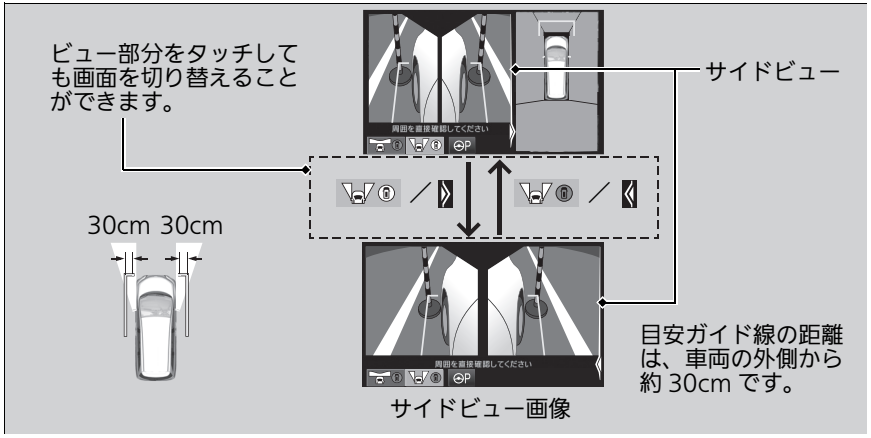
■見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は見通しの悪い交差点などで左右を確認する際に使用すると便利です。



■前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビュー画面は路肩や料金所に幅寄せしたり、狭い道でのすれ違いの際に使用すると便利です。



»見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は広い範囲を写すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また障害物との距離が実際より近くまたは遠くに見えることがあります。

»前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビューは、ドアミラーを格納しているときは表示されません。

■マルチビューカメラシステムのカスタマイズ

■ガイド線の表示 / 非表示

画面に目安ガイド線と予測ガイド線の表示 / 非表示を設定する操作です。

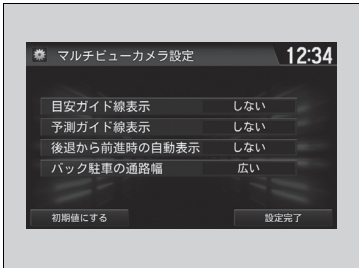


1. 停車中に HOME を押して、「設定」にタッチする。
2. 画面の「カメラ設定」にタッチする。

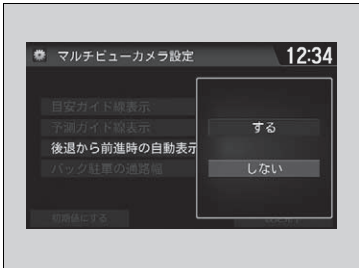


3. カメラ設定画面で、「マルチビューカメラ」にタッチする。

次ページに続く



4. 変更する項目にタッチする。



5.「する」、「しない」のいずれかにタッチする。
▶「設定完了」にタッチして、設定を終了します。

■カスタマイズ項目

マルチビューカメラシステムの、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能	機能の内容	選択できる設定内容
後退から前進時の自動表示	CAMERAスイッチを押さずに、セレクトレバーを R から D にしたときに、自動的にマルチビューカメラシステム画面を表示	しない※1、する
バック駐車の通路幅	バック駐車時の通路幅設定	狭い※1、広い

※1 ：工場出荷時の設定

次ページに続く

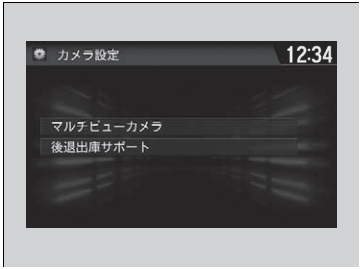
■カスタマイズ設定の例

例えば「後退から前進時の自動表示」を「する」にする場合、下記の手順で設定します。「後退から前進時の自動表示」は工場出荷時の設定では「しない」になっています。

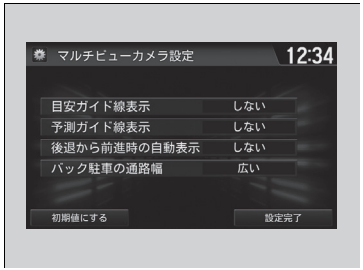


1. 停車中に HOME を押して、「設定」にタッチする。

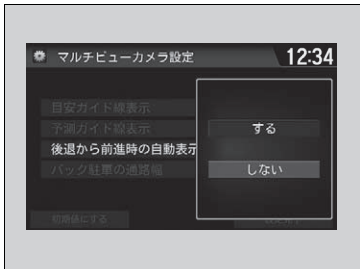
2. 画面の「カメラ設定」にタッチする。



3. カメラ設定画面で、「マルチビューカメラ」にタッチする。



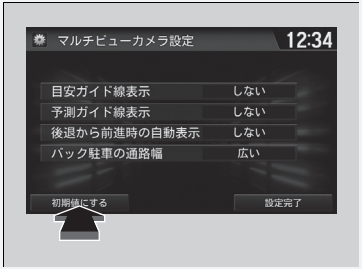
4. マルチビューカメラ設定画面で、「後退から前進時の自動表示」にタッチする。



5. 「する」にタッチする。
▶「設定完了」にタッチして、設定を終了します。

カスタマイズ設定の例

手順4で「初期値にする」にタッチすると、カスタマイズした機能を初期値(工場出荷値)に戻すことができます。



次ページに続く

■マルチビューカメラシステム /Honda スマートパーキングアシストシステムの制限

次の状態では、システムは適切に働きません。

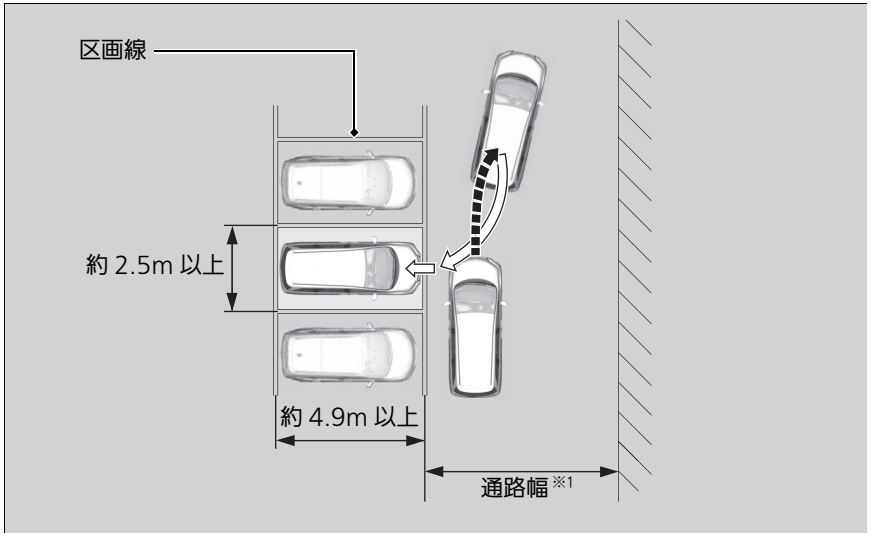
状態		対処のしかた
カメラの画像が不鮮明	次の場合は、画像が見えにくいことがあります。 • 夜間や雨の日、および暗い場所 • カメラのレンズに傷がついた場合 • カメラが高温になった場合 • 太陽の光など強い光がカメラに直接差し込んだ場合	• 気象条件などでカメラの画像が見えにくいときは、目視やミラーで直接周囲を確認してください。
	• 画面が指紋などで汚れている場合	• ナビモニターの汚れを柔らかい布で拭き取ってください。
	• カメラのレンズが汚れている場合 • 水滴や虫などがついた場合	• レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどで汚れを拭き取ってください。なお、このときベンジンやシンナー、クレンザーなどの磨き粉類は絶対に使わないでください。レンズが損傷する原因となります。
カメラの位置がずれた	カメラもしくは、その周囲に強い衝撃が加わったことが考えられます。	マルチビューカメラシステム、Honda スマートパーキングアシストシステムの使用をやめて、Honda 販売店にご相談ください。
マルチビューカメラシステムを使用中に画面にエラーメッセージが表示された		
20km/h 以下で走行中に、画面に映像が表示されない		
Honda スマートパーキングアシストシステムが故障した	• 画面に映像が表示されない • モードアイコンが点滅しない • ブザー音が鳴らない	Honda スマートパーキングアシストシステムの使用をやめて、Honda 販売店にご相談ください。

Honda スマートパーキングアシストシステム*

■ Honda スマートパーキングアシストシステムの使いかた

■区画線のある駐車場にバック駐車するには

Honda スマートパーキングアシストシステムは、駐車スペースに下図のような区画線や、それに代わる目安となるものがある平坦な場所で使用してください。



※1 ：目標駐車枠からの距離になります。以下を目安にしてバック駐車の通路幅設定を選択してください。

➔ **カスタマイズ項目** P.361

- 通路幅が約 6m のとき：広い
- 通路幅が約 5m のとき：狭い

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

区画線のある駐車場にバック駐車するには

⚠注意

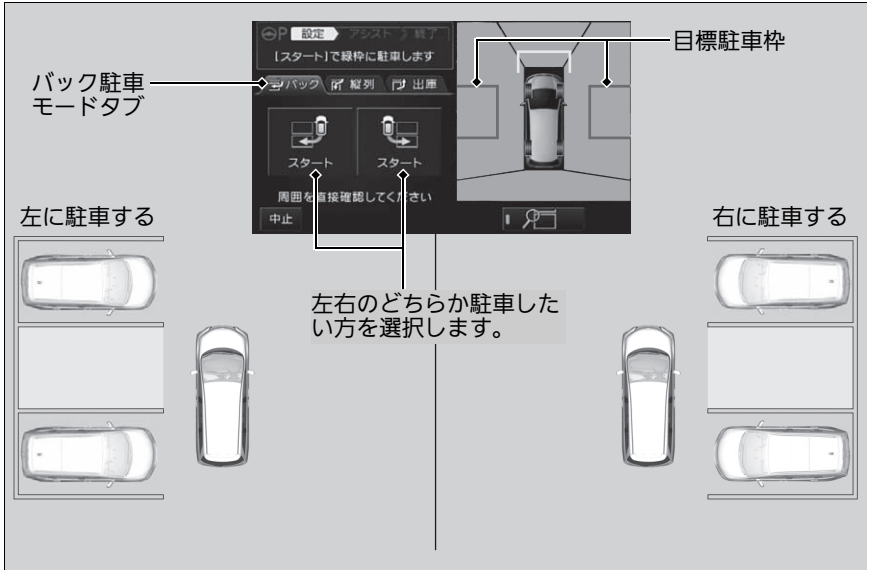
使用に適さない場所では使用しない。
傾斜がある場所や、駐車スペースの形状や状況など、Honda スマートパーキングアシストシステムの使用に適さない場所では使用しないでください。

➔ **システムの使用に適さない場所** P.368, 377

車両の前進、後退、ブレーキ操作は運転者が行う。
Honda スマートパーキングアシストシステムは、駐車時にハンドル操作を支援するものであり、自動駐車システムではありません。車両の前進、後退、ブレーキ操作は運転者が行ってください。また、ハンドル操作を支援している間でも、次のことに注意してください。

- システムを過信せず、通常の駐車時と同様に、必ず目視で周囲の安全を直接確認してください。周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- システムの作動中に障害物や人、他の車両等に接触しそうなときは、停車するなどして、運転者自身の操作で回避してください。

1. CAMERAを押し、画面中のPをタッチする。
▶ マルチビューカメラシステムを起動したあと、CAMERAを約 1.5 秒押し続けることでも起動します。



2. バック駐車モードタブを選択する。
3. 目標駐車枠を、目標駐車スペースの区画枠線に合わせて停車する。
▶ 区画枠線をシステムが認識すると、その位置に目標駐車枠が表示されます。
4. ブレーキペダルを踏み、またはをタッチする。

▶区画線のある駐車場にバック駐車するには

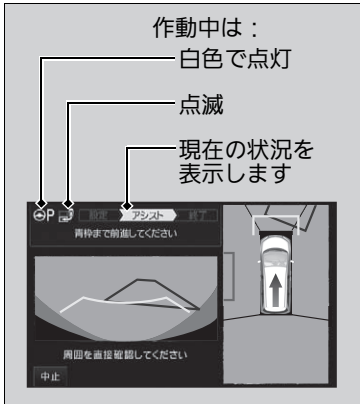
⚠注意

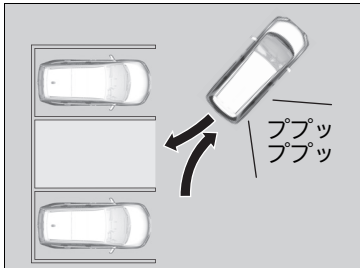
駐車枠自動認識システムやアシスト機能を使用するときは、直接周囲を確認してください。

Honda スマートパーキングアシストシステムは自動駐車システムではありません。システムはあくまでも補助としてお使いください。

アシスト中に Honda インターナビシステムの音量調節スイッチ(VOL ＋ / －)を押して、音声ガイドの音量を調節することができます。
Honda スマートパーキングアシストシステム使用中は、オーディオの音量調節はできません。

位置合わせで正しい位置に停車しないと、目標停車位置からずれることがあります。
運転席が駐車枠の真横よりやや手前になるように停車すると、システムが駐車枠を認識しやすくなります。





5. 自動ハンドル操作が開始する。
▶ハンドルに軽く手を添えてください。その後、画面表示や音声ガイドに従って前進してください。
▶ハンドルが動いている間、車両を動かしてはいけません。

6. ブザーが鳴っている間、ブレーキペダルで速度を調節しながら前進する。
▶ブザー音が「ピピピピピ・・・」と鳴ったら減速してください。
▶ブレーキを踏んで車が停止しても、システムは中止されません。

7. 「プー」というブザー音が鳴り、停車指示の画面表示または音声ガイドが流れたら、ブレーキを踏んで停車する。
▶ブザー音が停止し、セレクトレバーを R に入れることを促すメッセージが表示されます。
▶停車位置は画面上に青枠で表示されます。
青枠を通り過ぎるとシステムが中止されることがあります。中止されたときは手順 1 からやりなおしてください。

次ページに続く

区画線のある駐車場にバック駐車するには

⚠注意

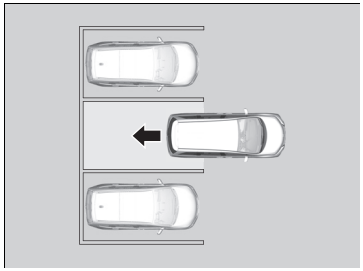
ハンドルに手などが巻き込まれないように注意する。
車両が動いているときは、ハンドルが自動で回ります。手などが巻き込まれないように注意してください。

システムが途中で停止したときは。
Honda スマートパーキングアシストシステムの作動が途中で停止したときは、最初から駐車操作をやり直すか、運転者自身の操作で駐車してください。

または をタッチしてから約 5 分経過すると、「ピー」とブザー音が鳴りシステムが終了します。
➡ **システムが途中で停止したときは** P.381

前進(後退)中に以下の状態になると、ブザー音が「ピー」と鳴り、システムの作動が停止します。
- 減速せずに車速が前進10km/h、後退7km/hを超えたとき
- 経路を大きく逸脱したとき
- ハンドルに一定以上の力を加えたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- VSA を OFF にしたとき
- 指示されていないシフトポジションにしたとき

➡ **システムが途中で停止したときは** P.381



8. セレクトレバーを R に入れ、画面表示または音声ガイドにしたがってバックする。

▶ ハンドルが自動で回転します。ブレーキペダルで速度を調節しながらバックしてください。

▶ カスタマイズの設定(広い、狭い)や車の位置に応じて切り返し駐車を行います。
システムの指示に従い前進とバックを行ってください。

▶ 駐車が完了すると、ブザー音が「プー」と鳴り続けます。パーキングブレーキをかけて、セレクトレバーを P にしてから、パワーシステムを停止します。

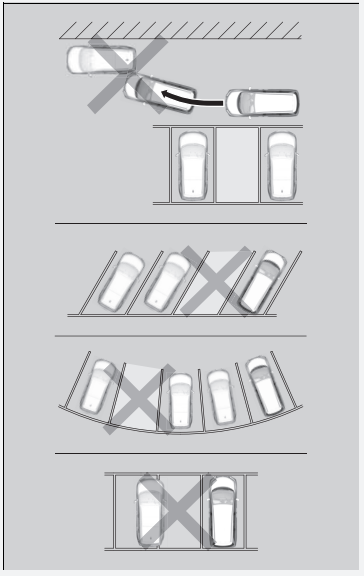
▶ 停車位置を知らせるブザーが鳴った後に、後退を続けると、システムを終了する表示が出て、ブザーが鳴ります。

区画線のある駐車場にバック駐車するには

目標駐車枠が駐車枠の中に入らない場合は、駐車スペース不足のため駐車できません。

下記のような駐車スペースはシステムの使用に適しません。状況を判断し、下記のような場所では、使用しないでください。

- 前進する方向に障害物がある
- 駐車スペースが斜めになっている
- 周囲の車両が駐車枠からはみ出している

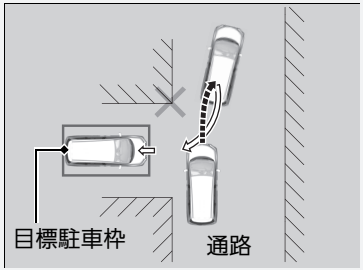


■駐車枠自動認識システムの ON/OFF

画面中の を押して、駐車枠自動認識システムの ON/OFF を切り換えることができます。

駐車枠線がない場合は、駐車枠自動認識システムを OFF にして緑色の目標駐車枠を駐車したい位置に合わせてください。

▩駐車枠自動認識システムの ON/OFF

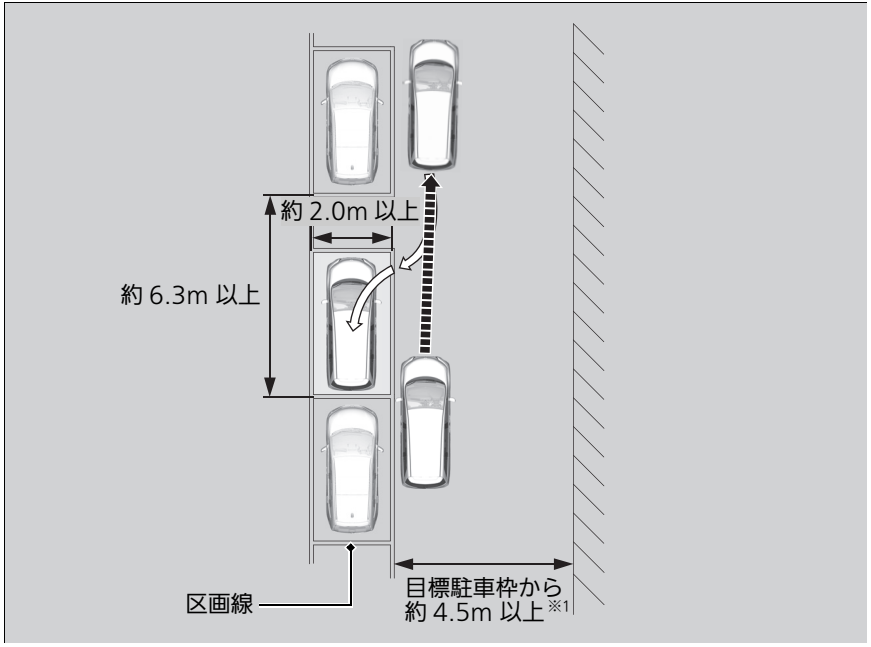


目標駐車枠を通路よりもあまり奥へ設定しないでください。
周囲の壁や障害物などに接触するおそれがあります。

次ページに続く

■区画線のある駐車場に縦列駐車するには

Honda スマートパーキングアシストシステムは、駐車スペースに下図のような区画線や、それに代わる目安となるものがある平坦な場所で使用してください。



※1 ：通路幅の目安

≫区画線のある駐車場に縦列駐車するには

⚠注意

使用に適さない場所では使用しない。

傾斜がある場所や、駐車スペースの形状や状況など、Honda スマートパーキングアシストシステムの使用に適さない場所では使用しないでください。

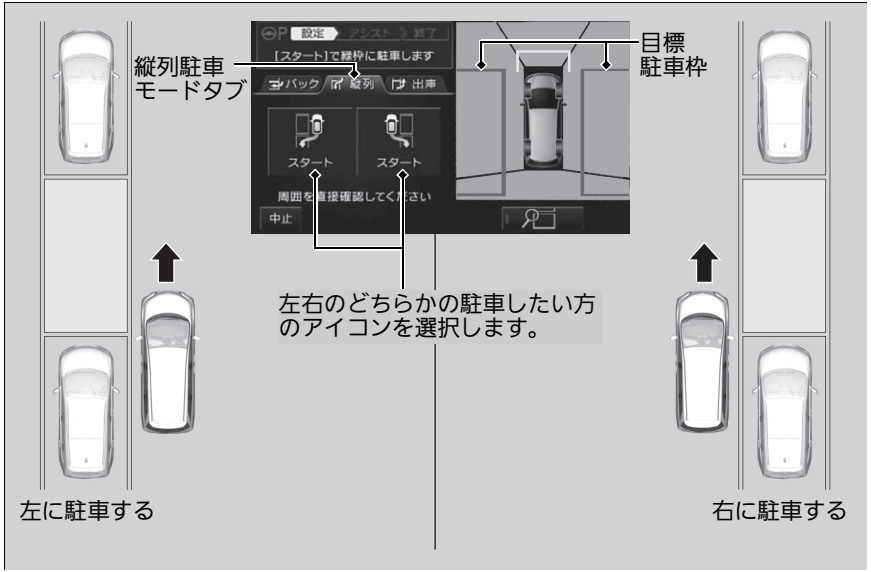
➲ **システムの使用に適さない場所** P.372, 377

車両の前進、後退、ブレーキ操作は運転者が行う。

Honda スマートパーキングアシストシステムは、駐車時にハンドル操作を支援するものであり、自動駐車システムではありません。車両の前進、後退、ブレーキ操作は運転者が行ってください。また、ハンドル操作を支援している間でも、次のことに注意してください。

- システムを過信せず、通常の駐車時と同様に、必ず目視で周囲の安全を直接確認してください。周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- システムの作動中に障害物や人、他の車両等に接触しそうなときは、停車するなどして、運転者自身の操作で回避してください。

1. CAMERAを押し、画面中のPをタッチする。
▶ マルチビューカメラシステムを起動したあと、CAMERAを約 1.5 秒押し続けることでも起動します。



2. 縦列駐車モードタブを選択する。
3. 目標駐車枠を、目標駐車スペースの区画枠線に合わせて停車する。
▶ 区画枠線をシステムが認識すると、その位置に目標駐車枠が表示されます。
4. ブレーキペダルを踏み、スタートまたはスタートをタッチする。

次ページに続く

≫区画線のある駐車場に縦列駐車するには

⚠注意

ハンドルに手などが巻き込まれないように注意する。
車両が動いているときは、ハンドルが自動で回ります。手などが巻き込まれないように注意してください。

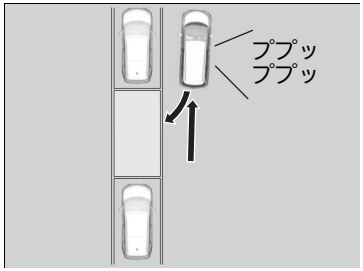
システムが途中で停止したときは。
Honda スマートパーキングアシストシステムの作動が途中で停止したときは、最初から駐車操作をやり直すか、運転者自身の操作で駐車してください。

スタートまたはスタートをタッチしてから約 5 分経過すると、「ピー」とブザー音が鳴りシステムが終了します。
➡ **システムが途中で停止したときは** P.381

前進(後退)中に以下の状態になると、ブザー音が「ピー」と鳴り、システムの作動が停止します。
- 減速せずに車速が前進10km/h、後退7km/hを超えたとき
- 経路を大きく逸脱したとき
- ハンドルに一定以上の力を加えたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- VSA を OFF にしたとき
- 指示されていないシフトポジションにしたとき

➡ **システムが途中で停止したときは** P.381





5. 自動ハンドル操作が開始する。
▶ ハンドルに軽く手を添えてください。その後、画面表示や音声ガイドに従って前進してください。
▶ ハンドルが動いている間、車両を動かしてはいけません。

6. ブザーが鳴っている間、ブレーキペダルで速度を調節しながら前進する。
▶ ブザー音が「ピピピピピ・・・」と鳴ったら減速してください。
▶ ブレーキを踏んで車が停止しても、システムは中止されません。

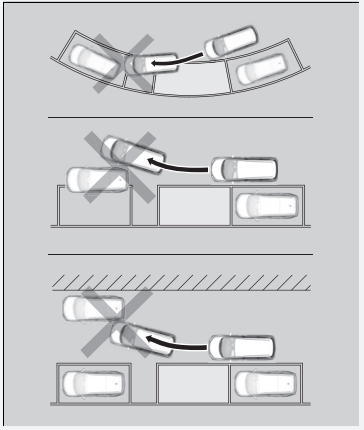
7. 「プー」というブザー音が鳴り、停車指示の画面表示または音声ガイドが流れたら、ブレーキを踏んで停車する。
▶ ブザー音が停止し、セレクトレバーを R に入れることを促すメッセージが表示されます。
▶ 停車位置は画面上に青枠で表示されます。青枠を通り過ぎるとシステムが中止されることがあります。中止されたときは手順 1 からやりなおしてください。

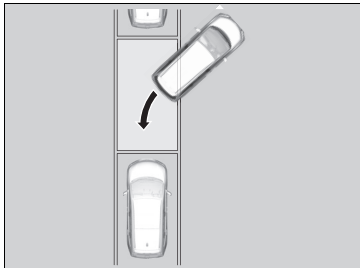
区画線のある駐車場に縦列駐車するには

目標駐車枠が駐車枠の中に入らない場合は、駐車スペース不足のため駐車できません。

下記のような駐車スペースはシステムの使用に適しません。状況を判断し、下記のような場所では、使用しないでください。

- 駐車スペースが斜めになっている
- 周囲の車両が駐車枠からはみ出している
- 前進する方向に障害物がある





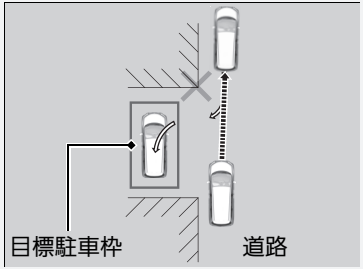
8. セレクトレバーを R に入れ、画面表示または音声ガイドにしたがってバックする。
   ▶ ハンドルが自動で回転します。ブレーキペダルで速度を調節しながらバックしてください。
9. システムに従い前進して停車する。
   ▶ 駐車が完了すると、ブザー音が「プー」と鳴り続けます。パーキングブレーキをかけて、セレクトレバーを P にしてから、パワーシステムを停止します。
   ▶ 停車位置を知らせるブザーが鳴った後に、後退を続けると、システムを終了する表示が出て、ブザーが鳴ります。

■駐車枠自動認識システムの ON/OFF

画面中の を押して、駐車枠自動認識システムの ON/OFF を切り換えることができます。

駐車枠線がない場合は、駐車枠自動認識システムを OFF にして緑色の目標駐車枠を駐車したい位置に合わせてください。

▩駐車枠自動認識システムの ON/OFF

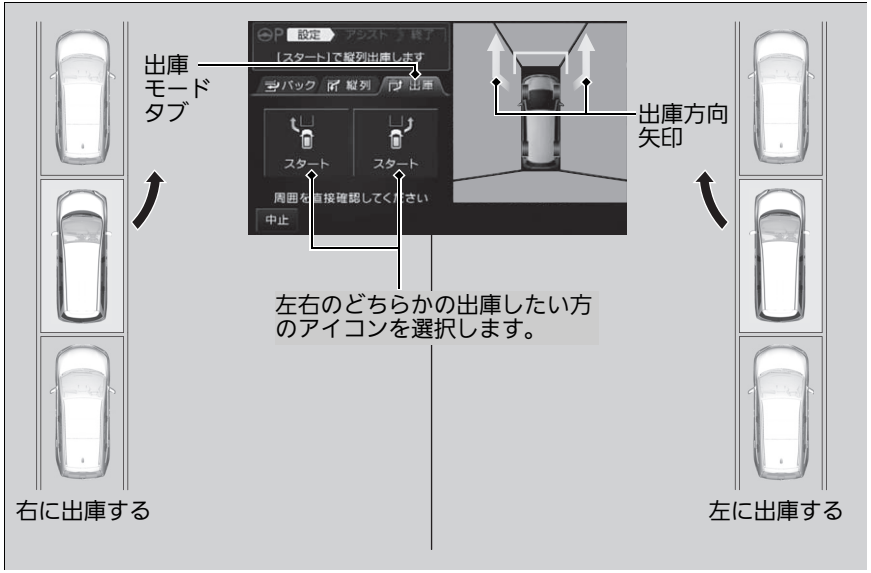


目標駐車枠を通路よりもあまり奥へ設定しないでください。
周囲の壁や障害物などに接触するおそれがあります。

次ページに続く

■区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには

1. CAMERAを押し、画面中のPをタッチする。
▶マルチビューカメラシステムを起動したあと、CAMERAを押しても起動します。



2. 縦列出庫モードタブを選択する。
3. ブレーキペダルを踏み、出庫する方向によってまたはをタッチする。
▶検知した距離により、前進または後退のアシストが開始されます。

»区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには

⚠注意

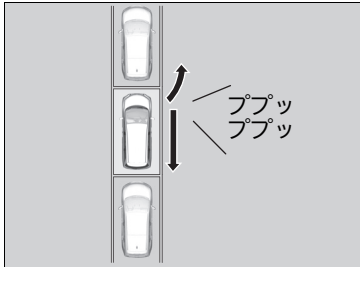
ハンドルに手などが巻き込まれないように注意する。
車両が動いているときは、ハンドルが自動で回ります。手などが巻き込まれないように注意してください。

システムが途中で停止したときは。
Honda スマートパーキングアシストシステムの作動が途中で停止したときは、最初から出庫操作をやり直すか、運転者自身の操作で出庫してください。

またはをタッチしてから約 5 分経過すると、「ピー」とブザー音が鳴りシステムが終了します。

➡ **システムが途中で停止したときは** P.381





4. ハンドルをまっすぐにしたまま、「停車してください」というメッセージが表示されるまで後退する。
▶前進のアシストが開始された場合は手順 5 の操作を行ってください。
5. シフトポジションを D に入れる。
6. 自動ハンドル操作が開始する。
▶ハンドルに軽く手を添えてください。その後、画面表示や音声ガイドに従って前進してください。
▶ハンドルが動いている間、車両を動かしてはいけません。
7. ブザーが鳴っている間、ブレーキペダルで速度を調節しながら前進する。
▶ブザー音が「ピピピピピ・・・」と鳴ったら減速してください。
▶ブレーキを踏んで車が停止しても、システムは中止されません。
8. 「プー」というブザー音が鳴り、停車指示の画面表示または音声ガイドが流れたら、ブレーキを踏んで停車する。
▶ブザー音が停止し、セレクトレバーを R に入れることを促すメッセージが表示されます。

区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには

前進(後退)中に以下の状態になると、ブザー音が「ピー」と鳴り、システムの作動が停止します。
- 減速せずに車速が前進10km/h、後退7km/hを超えたとき
- 経路を大きく逸脱したとき
- ハンドルに一定以上の力を加えたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- VSA を OFF にしたとき
- 指示されていないシフトポジションにしたとき
- パーキングセンサーシステム* が停止したとき
- 何度もシフトポジションを変更したとき

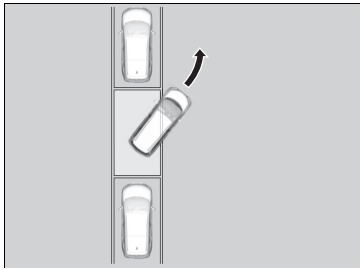
➡ システムが途中で停止したときは P.381

下記のような駐車スペースはシステムの使用に適しません。状況を判断し、下記のような場所では、使用しないでください。
- 駐車スペースが斜めになっている
- 周囲の車両が駐車枠からはみ出している
- 駐車スペースの周りに障害物がある

自車の前方に二重駐車されている場合は出庫機能は使用できません。

次ページに続く

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



9. セレクトレバーを R に入れ、画面表示または音声ガイドにしたがってバックする。
▶ ハンドルが自動で回転します。ブレーキペダルで速度を調節しながらバックしてください。

10. メッセージに従い、必要に応じて車両を前後に数回動かして出庫する。
▶ 出庫が完了すると、ブザー音が「ポン」と鳴ります。

区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには

自車と前後車両との距離が非常に短い場合や車両間に人がいたり障害物がある場合は、出庫機能開始アイコンがグレーで表示されて出庫機能は使用できません。

出庫機能の作動中にパーキングセンサーが人物や障害物を検知した場合でも、出庫機能は作動し続けます。

走行車両が後方から接近している場合は、ブレーキペダルを踏んで停止してください。

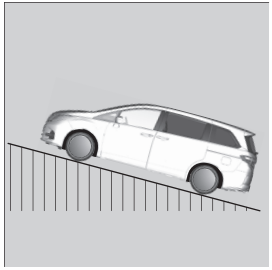
■システムの使用に適さない場所

Honda スマートパーキングアシストシステムは、下記のような場所は使用に適しません。

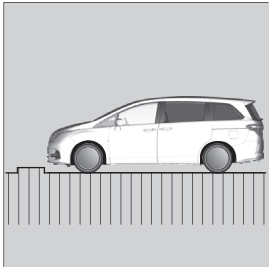
■一般的に適さない場所

下記のような場所では、クリープ現象や軽いアクセル操作で前進や後退ができなかったり、スリップしやすいため、Honda スマートパーキングアシストシステムの使用に適しません。状況を判断し、システムの利用を決めてください。

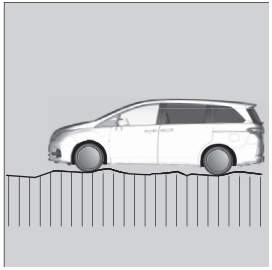
■傾斜している場所



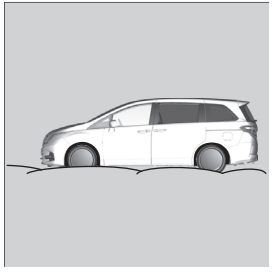
■段差のある場所



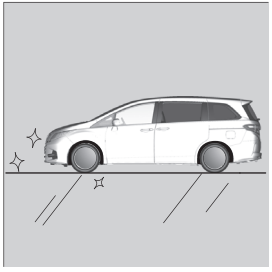
■舗装されていない場所



■雪が積もっている場所



■凍結している場所



» 一般的に適さない場所

急な上り(下り)坂で車両が後退(前進)するときは、車速が出すぎないよう注意しながらアクセル操作を行ってください。

次ページに続く

■Hondaスマートパーキングアシストシステムを正確に作動させるために

以下のような状況では、目標駐車枠がずれて認識されたり、認識機能が働かなかったりする場合があります。

- 駐車枠線がかすれていたり、汚れている場合
- 駐車枠線のない駐車場の場合(駐車枠線がロープやブロック、タイルなど)
- 駐車枠線と路面とのコントラストが低い場合
- 駐車枠線の幅が極端に細いまたは太い場合
- 駐車枠線が 1 本しか見えないなどの場合
- 駐車エリアに対し停車位置が近すぎる(遠すぎる)場合
- 駐車エリアに対し、自車が傾いて停車している場合
- 駐車エリアの路面の色や明るさが一様でなかったり、凹凸がある場合
- 駐車エリアが傾斜していたり、途中に段差がある場合
- 駐車エリアに駐車枠線に見えるような影やわずかな段差、ペイント、書き直しの枠線などがある場合
- 夜間や暗い屋内駐車場など、カメラ映像に駐車枠線が映っていない、または見にくい場合
- 駐車エリアの路面の一部や全体の塗装などにより、太陽光や照明などが反射し光っている場合
- 降雨時や降雨直後などで路面が光っている場合
- 朝日や夕日などの太陽光が直接または間接的にカメラに入る場合
- 駐車枠線が積雪や融雪剤などで見にくい場合
- 隣接する駐車車両や、その車両の影などが影響する場合
- カメラのレンズが汚れている、水滴が付着している、曇っているなどの場合

■エラーメッセージ

Ⓟがオレンジ色で表示された場合は、Honda スマートパーキングアシストシステムに問題があります。システムの使用をやめて Honda 販売店にご相談ください。Ⓟがオレンジ色ではなくなったら、画面に解決法が記載されたメッセージが表示されます。

■システムが起動しないときは

表示されるメッセージごとに下記の対処のしかたに従って、システムを再起動してください。

メッセージ	原因	対処のしかた
ドアを閉めてください	• ドアが開いている	• ドアを完全に閉めて、再度スイッチを押してください。
ドアミラーを広げてください	• ドアミラーが格納されている	• ドアミラー格納スイッチを押して、ドアミラーを開放の位置にしてから、再度スイッチを押してください。
VSAをONにしてください	• VSA が OFF になっている	• VSA を ON にして、再度スイッチを押してください。
シフトレバーを D にして使用してください	• セレクトレバーが D 以外の位置にある	• セレクトレバーを D にして、再度スイッチを押してください。
ハンドルから力を抜いてください	• ハンドルに一定以上の力が加っている	• ハンドルをまっすぐにして力を抜いてから、再度スイッチを押してください。
ハンドルをまっすぐにしてください	• ハンドルが直進状態になっていない	• ハンドルをまっすぐにして、再度スイッチを押してください。
パーキングブレーキを解除してください	• パーキングブレーキがかかっている	• パーキングブレーキを解除して、再度スイッチを押してください。

» エラーメッセージ

Ⓟがグレーで表示された場合、システムは起動する準備ができていません。しばらくしてからパワーシステムを再起動してもグレーの表示が解消されない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

メッセージ	原因	対処のしかた
ACC を OFF してください	• ACC が ON になっている	• ACC を OFF にして、再度スイッチを押してください。
パーキングセンサーシステムをONにしてください	• パーキングセンサーが OFF になっている	• パーキングセンサーを ON にして、再度スイッチを押してください。
リアパーキングセンサーが OFF になっています	• リアパーキングセンサーが OFF になっている	• リアパーキングセンサーを ON にして、再度スイッチを押してください。
スペースが足りないためアシストできません	• 駐車するためのスペースが不足している	• アシストに十分な駐車スペースがある場所を選んでください ➲ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➲ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370

■システムが途中で停止したときは

警告音とメッセージでお知らせします。表示されるメッセージごとに下記の対処のしかたに従って、システムを再起動してください。

メッセージ	原因	対処のしかた
アシストを中止します ハンドルが操作されました	• ハンドルに一定以上の力が加わった(システムが自動でハンドルを操作することができません。)	位置合わせからやり直してください。(ハンドルから力を抜いて、軽く手を添えた状態で使用してください。)または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374
アシストを中止します 速度が高すぎました	車速が前進10km/h、後退7km/h を超えた	位置合わせからやり直してください。(速度調節はブレーキペダルで行ってください。)または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374

次ページに続く

メッセージ	原因	対処のしかた
アシストを中止します シフトレバーが操作されました	前進の場合：セレクトレバーを D または S 以外に動かした 後退の場合：セレクトレバーを R 以外に動かした	位置合わせからやり直してください。または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374
アシストを中止します パーキングアシスト機能を使用できません	• パワーシステムが停止した	パワーシステムを再起動して、位置合わせからやり直してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374

メッセージ	原因	対処のしかた
アシストを中止します 正しく駐車できません	• 舗装されていない場所などでタイヤが空転(スリップ)しやすい、またはハンドルが制御できないとき	運転者自身の操作で駐車してください。
	前進の場合：セレクトレバーを D または S 以外に動かした 後退の場合：セレクトレバーを R 以外に動かした	位置合わせからやり直してください。または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370
	• VSA が作動した	
	• アシスト開始から 5 分以上経過した	
	• アシストによる経路を逸脱した	
	• EPS システムが高温になった	しばらく待って、位置合わせからやり直してください。または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370
	• 12V バッテリーが劣化している	12V バッテリーの充電や交換が必要です。Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

メッセージ	原因	対処のしかた
アシストを中止します 停車位置を通りすぎました	• 停車位置を通りすぎた	位置合わせからやり直してください。または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370
アシストを中止します 中止スイッチが操作されました	• CAMERAスイッチ、中止スイッチを操作した	位置合わせからやり直してください。または、運転者自身の操作で駐車または出庫してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374
アシストを中止します パーキングブレーキが操作されました	• パーキングブレーキを操作した	パーキングブレーキを解除して、位置合わせからやり直してください。または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374

メッセージ	原因	対処のしかた
アシストを中止します VSA が OFF になりました	• VSA OFF スイッチで VSA を OFF にした	VSA をON にして、位置合わせからやり直してください。または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374
パーキングアシスト機能が故障しました	• システムの異常	運転者自身の操作で駐車してください。お早めに Honda 販売店で点検を受けてください。
パーキングセンサーシステムが OFF になりました	• パーキングセンサーシステムが OFF になった	位置合わせからやり直してください。または、運転者自身の操作で駐車してください。 ➡ **区画線のある駐車場にバック駐車するには** P.365 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車するには** P.370 ➡ **区画線のある駐車場に縦列駐車した車両を出庫するには** P.374

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

55 リットル

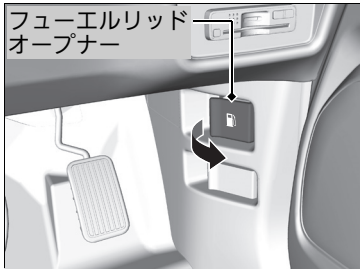
▶指定燃料について

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

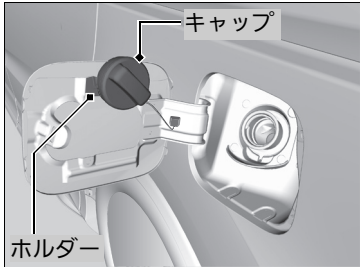
- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

次ページに続く



4. リッドを開けて、ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



5. キャップをホルダーにかける。

6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。

▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

▩給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

7. 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドの右端を「カチッ」という音がするまで押し、リッドを閉めます。

給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 391
- メンテナンスを安全に行うために 392
- メンテナンスに関する注意事項..... 393

エンジンルーム内のメンテナンス
- エンジンルーム内のメンテナンス項目...394
- ボンネットを開ける..... 395
- 推奨エンジンオイル..... 396
- ウィンドウォッシャー液の補給..... 397

電球の交換..... 398

ワイパーブレードラバーの点検と整備 .. 405

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 409
- タイヤとホイールの交換 411
- タイヤのローテーション 412
- 冬期のタイヤ 413

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換..... 414

リアエンターテインメントシステム用リモコン✤
- リアエンターテインメントシステム用リモコンの電池交換 416

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 417

清掃
- 車内の清掃 419
- 車外の清掃 421

アクセサリーと改造
- アクセサリー 425
- 改造や部品交換について 426

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

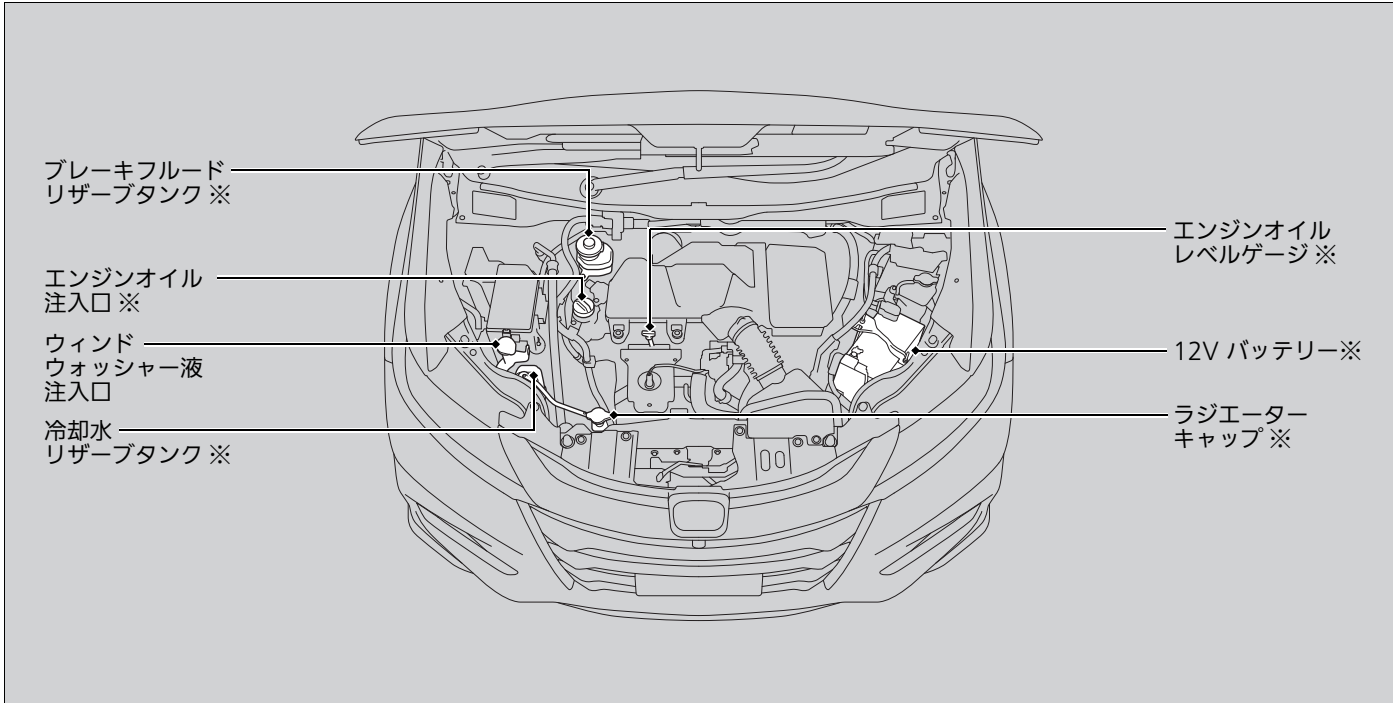
メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

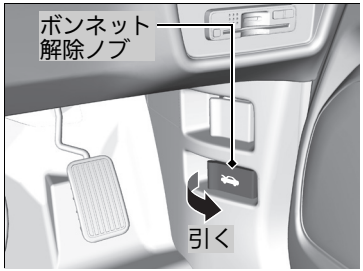
メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

エンジンルーム内のメンテナンス項目

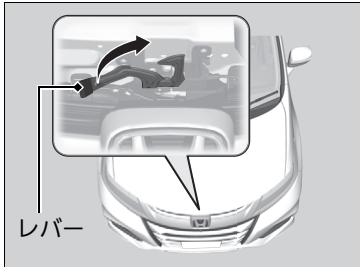


※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

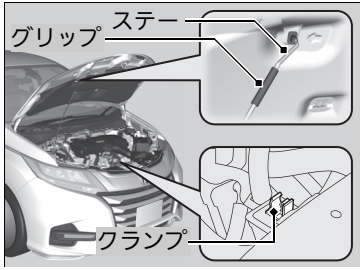
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを上げてロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cm の高さから手を離します。

ボンネットを開ける

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

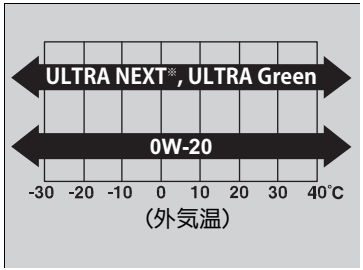
ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

推奨エンジンオイル

推奨エンジンオイル：
Honda 純正エンジンオイル
Honda 純正エンジンオイル P.472
API SMもしくはSN以上かオイル缶にAPI CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル



エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。



市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

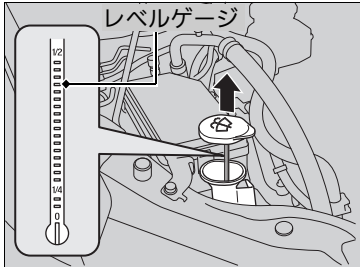
※：最も省燃費性に優れたHonda純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

▶推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

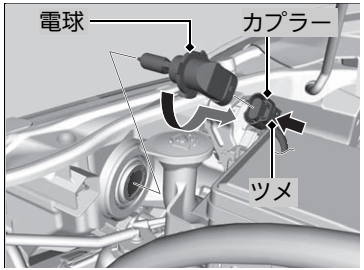
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ロービームヘッドライト	：LED
ハイビームヘッドライト	：12V−60W

■ロービームヘッドライト

ロービームヘッドライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

■ハイビームヘッドライト



1. カプラーを外す
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

»ハイビームヘッドライト

アドバイス

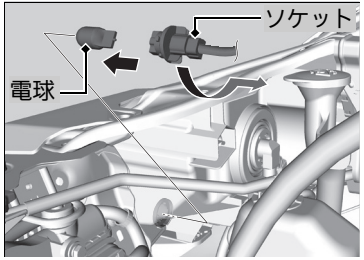
ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V−21W(橙色)



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

アクティブコーナリングライト電球*

アクティブコーナリングライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フォグライト電球

フォグライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

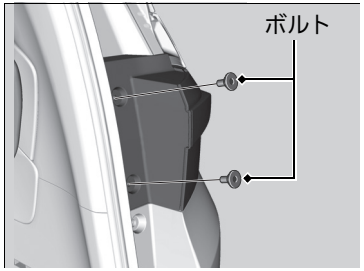
制動灯電球

制動灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

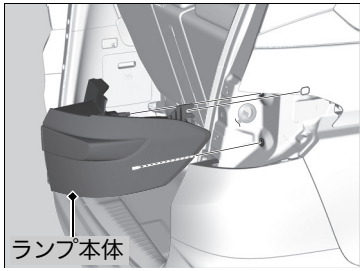
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯：12V−21W(橙色)

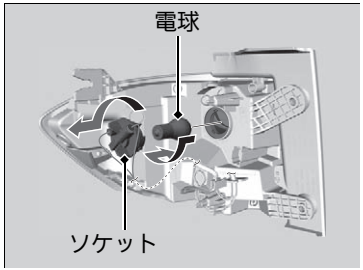


1. ボルトを外す。



2. ランプ本体を後方に引いて取り外す。

次ページに続く



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
▶電球を押しながら左へ回して抜き取ります。
4. 新しい電球を差し込む。

尾灯電球

尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

尾灯 / 後部側方灯電球

尾灯 / 後部側方灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

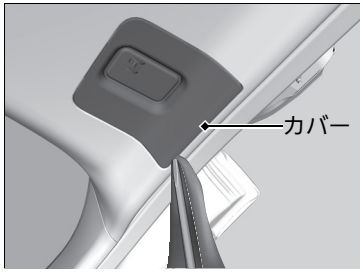
スライドドア・アウターカーテシーライト電球

スライドドア・アウターカーテシーライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

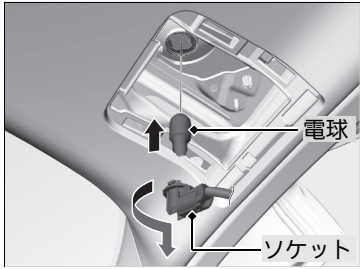
後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯：12V−16W



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



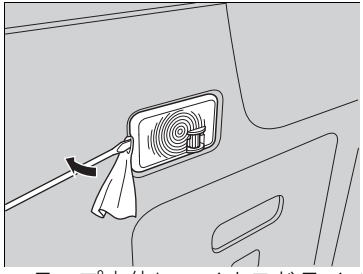
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

その他の電球

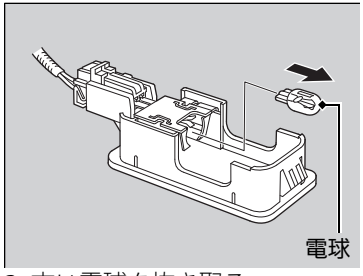
■カーゴスペース照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

カーゴスペース照明灯:12V−5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

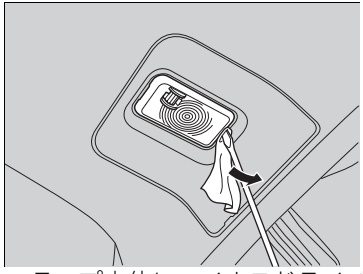


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

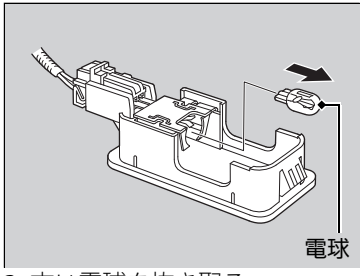
■テールゲート照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

テールゲート照明灯:12V−5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

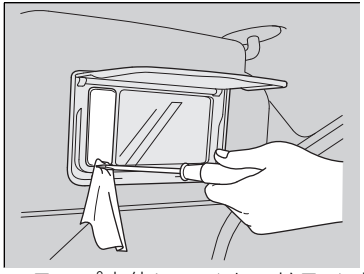


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

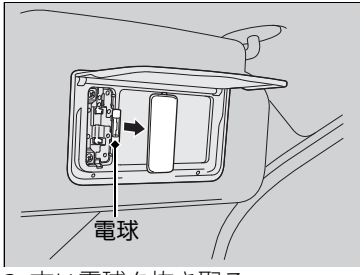
■バニティミラー照明灯電球*

下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯:12V−2W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



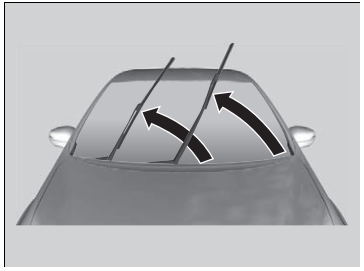
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

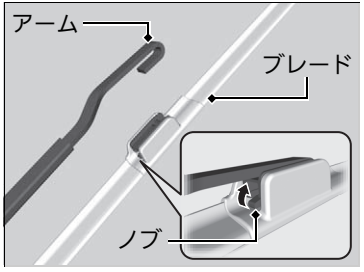
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

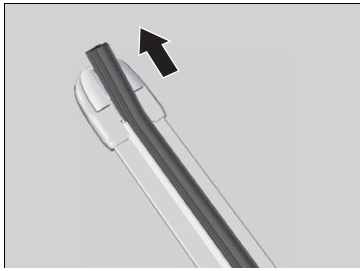
» フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

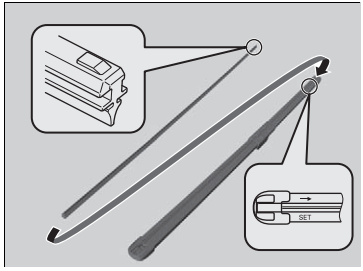
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

次ページに続く



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

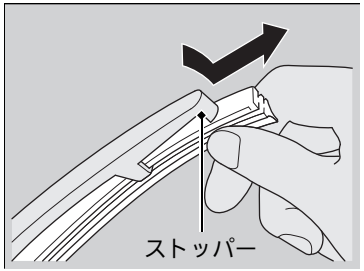


4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーの突起部がブレード先端のツメに挿入されるよう、確実に固定します。

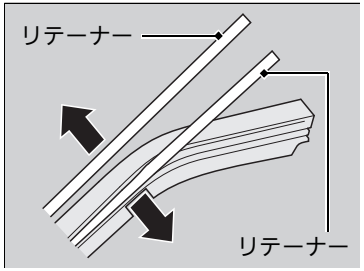
5. ブレードをアームに取り付ける。
▶ 正しく固定されているか確認してください。

6. 助手席側、運転席側の順にワイパーアームを戻す。

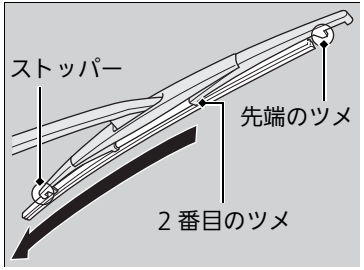
リヤワイパーブレードラバーの交換



1. ラバーの先端部をブレードのストッパーから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



2. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。



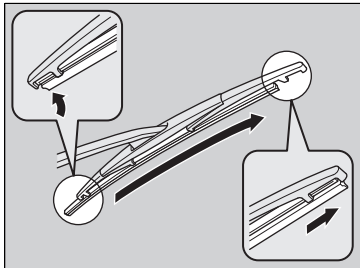
3. ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す。

リヤワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

次ページに続く



4. ブレードの先端のツメにラバーを通す。
5. ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

次ページに続く

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

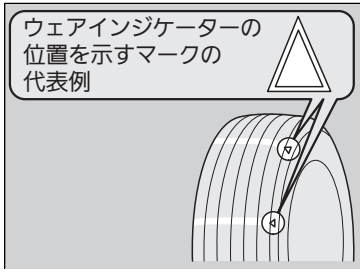
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➔ 仕様 P.472

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

▶▶タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

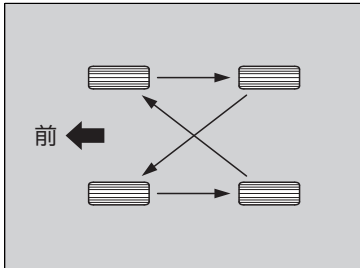
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

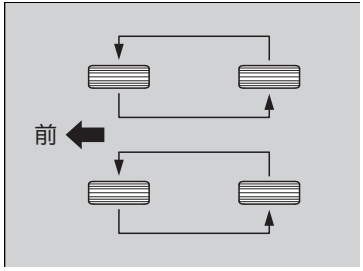
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

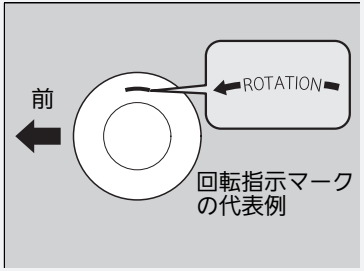
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

▶タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク
108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

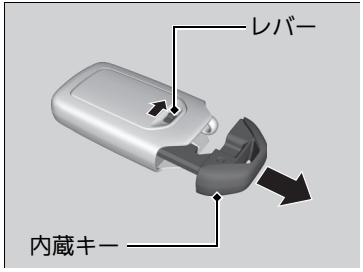
Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

≫取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda販売店へご連絡ください。

≫電池交換のしかた

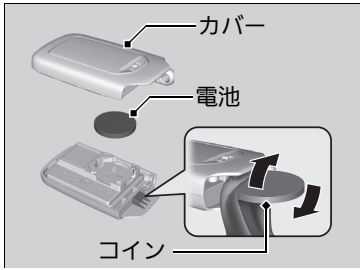
⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。



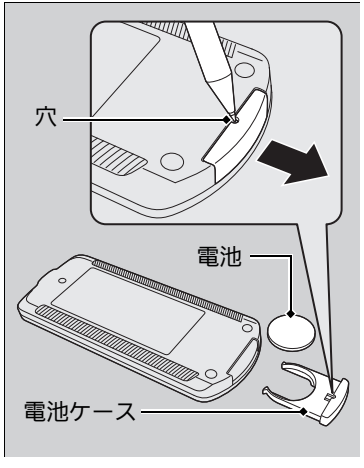
2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

リアエンターテインメントシステム用リモコンの電池交換

リモコンの作動が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

■リアエンターテインメントシステム用リモコン



ボタン電池 CR2025

1. リモコン裏側の電池ケースにある穴にボールペンなどの先端を差し込み、矢印の方向に引いて開ける。
2. 電池を外して、新しい電池を入れる。
   ▶ 電池を入れる際は、リモコンの ⊕ 表示にしたがって入れてください。
3. 電池ケースを元に戻す。

リアエンターテインメントシステム用リモコンの電池交換

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

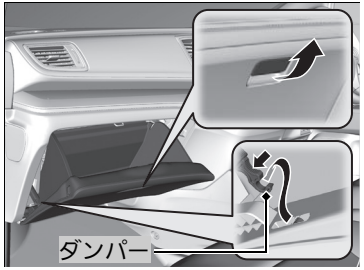
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアクリーンフィルター

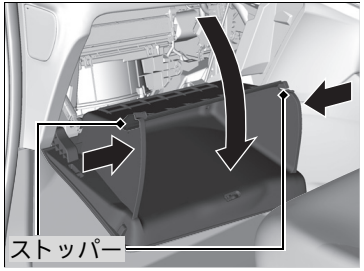
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。
2. ダンパーを外す。



3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

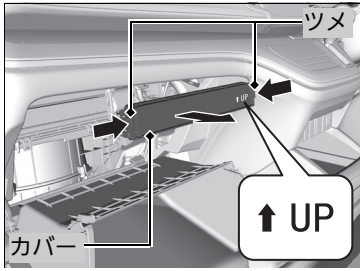
≫エアクリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

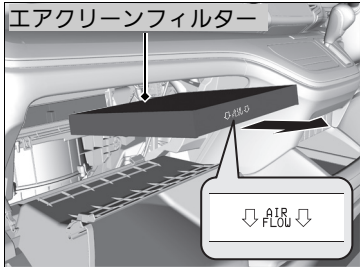
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

次ページに続く



4. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。



5. エアクリーンフィルターを引き出す。

6. 新品と交換する。

▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

»車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

次ページに続く

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUV カット /IR カットドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー（ドアガラス）の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

■本革のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

ガラスのお手入れ

リヤガラスやリヤクオーターガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

フロントセンサーカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

フロントセンサーカメラ P.328

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する

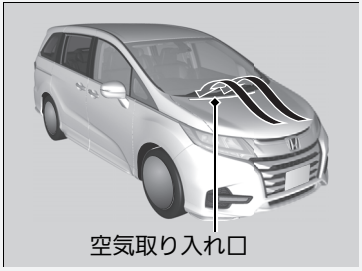
■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- エンジンルームには水をかけない

車外の清掃

故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。

故障の原因になります。



次ページに続く

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラスについて

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

≫ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

≫バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

≫ガラスのお手入れ

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合はHonda販売店で点検を受けてください。

アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

次ページに続く

■親水ミラーのお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5～9時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

≫親水ミラーのお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

»アクセサリーと改造

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

アクセサリーと改造

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。



お求め、装着に際しては、Honda販売店にご相談ください。

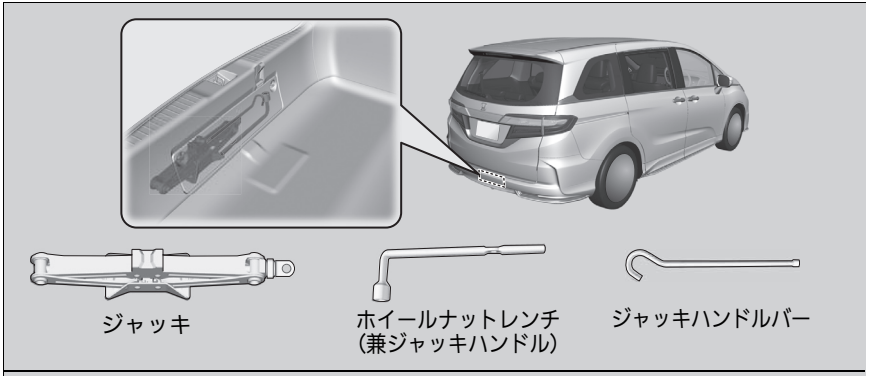


万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....428
パンクしたとき.....429
パンクしたタイヤの応急修理.....429
パワーシステムが起動しない
パワーシステムの確認.....443
Honda スマートキーの電池が切れたとき..445
緊急時のパワーシステム停止方法.....446
ジャンプスタート.....447
セレクトレバーが動かない.....449
オーバーヒート.....450
警告灯の点灯 / 点滅.....453
ヒューズ
ヒューズの設置場所 457
ヒューズの点検と交換..... 466
けん引..... 467
テールゲートが開かないとき..... 469

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

≫工具の種類

ジャッキ、ジャッキハンドル、ジャッキハンドルバーはカーゴスペース内に収納されています。
マイナスドライバーとグリップはグローブボックス内に収納されています。

≫発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

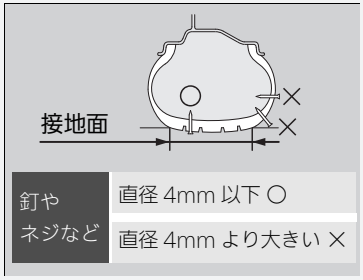
タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

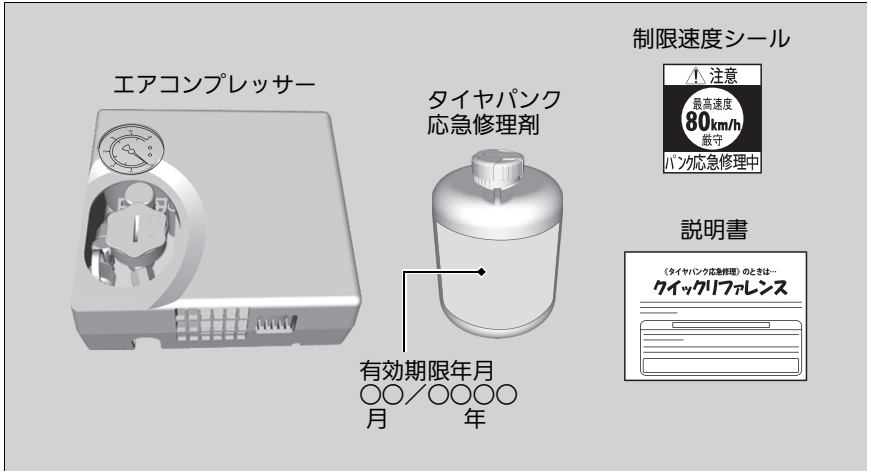


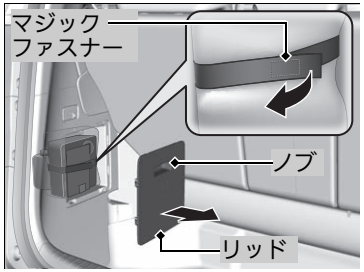
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

次ページに続く

■タイヤ応急修理の準備



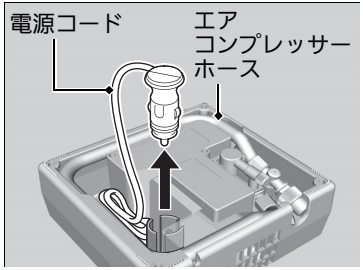


1. ノブを引いてカーゴスペース左側のリッドを開ける。
2. マジックファスナーを外し、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

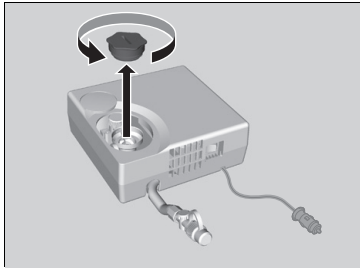
▶タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

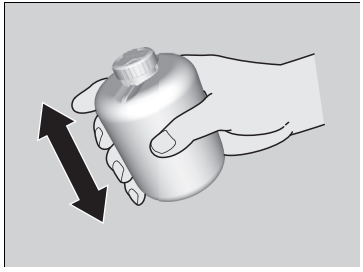
■応急修理剤とエアの注入



1. エアコンプレッサーからエアコンプレッサーホースと電源コードを取り出す。



2. エアコンプレッサーキャップを外す。



3. 応急修理剤のボトルをよく振る。

次ページに続く

▨応急修理剤とエアの注入

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、

- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

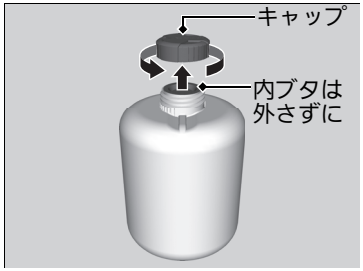
目に入ったり皮膚に付いた場合

- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

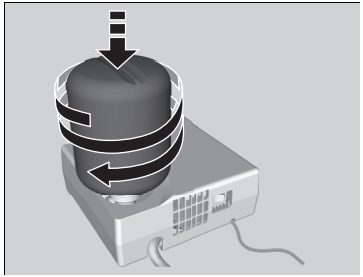
お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点下以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

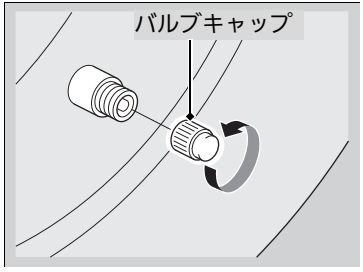
応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



4. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。



5. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルをエアコンプレッサーにねじ込む。
▶ ボトルがゆるまないようしっかりねじ込んでください。

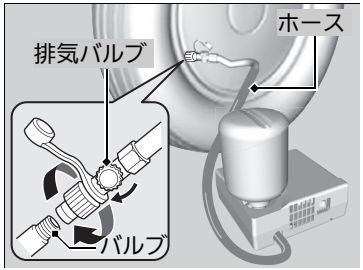


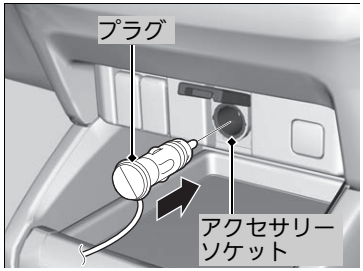
6. バルブからバルブキャップを取り外す。

▩応急修理剤とエアの注入

注入が終わった空ボトルはエアコンプレッサーから取り外さないでください。

ボトルは取り外さずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。





7. エアコンプレッサーホースをバルブにねじ込む。

▶ 排気バルブが閉まっていること、エアコンプレッサースイッチが OFF であることを確認してください。

8. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

➔ **アクセサリーソケット** P.208

9. パワーシステムを起動する。

▶ 応急修理剤 / エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

➔ **一酸化炭素について** P.70

応急修理剤とエアの注入

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

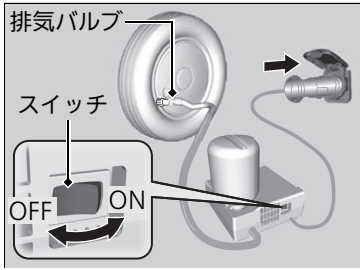
降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

次ページに続く



10. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。

応急修理剤とエアの注入

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーの電源 OFF してください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

11. エアコンプレッサーの電源をOFFにする。
▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
12. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
13. エアコンプレッサーホースを取り外し、ホースキャップを取り付ける。
▶ エアコンプレッサーホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。
ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。
14. タイヤパンク応急修理キットをカーゴスペースに格納する。
▶ ボトルはエアコンプレッサーから外さないでください。

応急修理剤とエアの注入

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

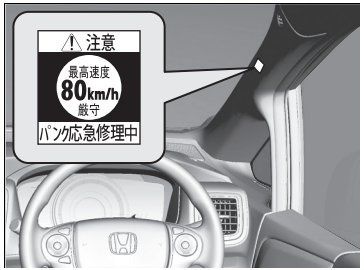
Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

次ページに続く

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5km走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにエアホースをきつく締め付ける。

≫点検走行

⚠警告

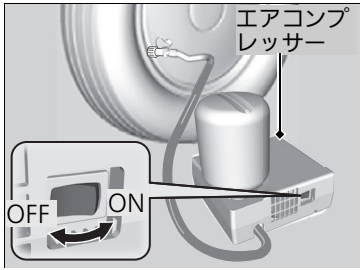
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



5. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。

▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。

- 空気圧が130kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：
  応急修理剤では修理できません。
  運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
  指定空気圧：
  前輪：230kPa(2.3kgf/cm²)
  後輪：240kPa(2.4kgf/cm²)
- 空気圧が 130kPa(1.3 kgf/cm²)以上、指定空気圧以下の場合：
  エアコンプレッサーを使って指定の空気圧まで高める。
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 4 までを繰り返す。

▶ 高速道路では 80km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

点検走行

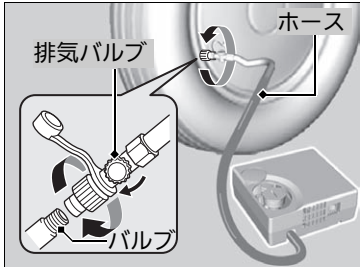
走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

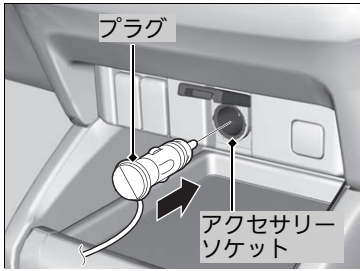
次ページに続く

6. タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
7. エアコンプレッサーなどをカーゴスペースに収納する。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。





1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。
▶ 排気バルブが閉まっていることを確認してください。
5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➔ **アクセサリーソケット** P.208
6. パワーシステムを起動する。
➔ **一酸化炭素について** P.70

タイヤ空気圧の補充

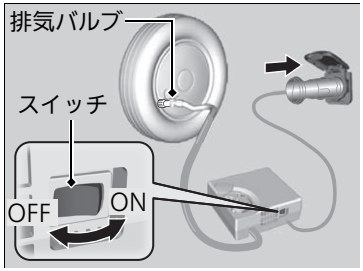
⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

次ページに続く



7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
8. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。
9. パワーシステムを停止し、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
10. エアコンプレッサーホースを外す。
11. エアコンプレッサーをカーゴスペースに収納する。

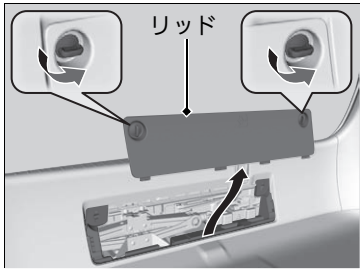
タイヤ空気圧の補充

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

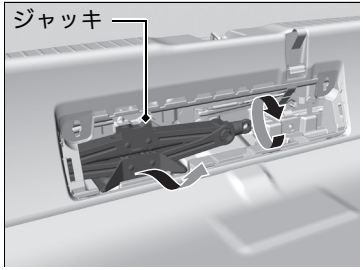
- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

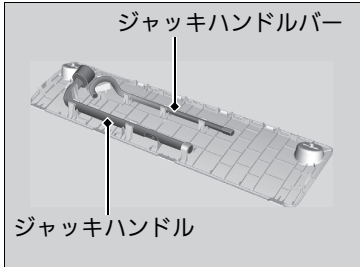
ジャッキのかけかた



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. リッドを開ける。



6. ジャッキをゆるめて外す。



7. リッドの裏側についているジャッキハンドル、ジャッキハンドルバーを外す。

ジャッキのかけかた

⚠警告

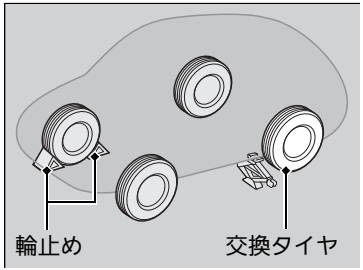
車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

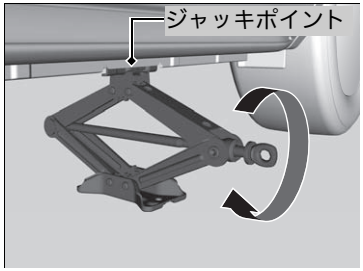
この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

次ページに続く



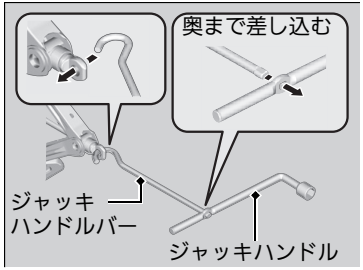
8. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。

9. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



10. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。

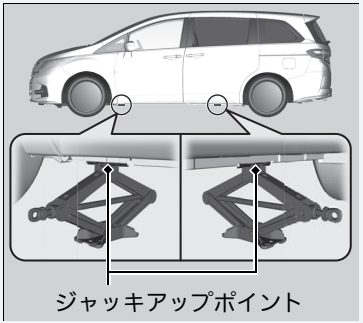
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



11. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、パワースライドドアのメインスイッチを OFF にする。

誤ってスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「READY TO DRIVE」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

ジャンプスタートの方法 P.447

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「キーが見つかりません」のメッセージが表示されているとき	エンジン始動の作動範囲を確認します。 **POWER スイッチ** P.167
	「キーでスイッチに触れてください」のメッセージが表示されているとき	ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.445
	「外気温が低いために起動できません」のメッセージが表示されているとき	**マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.91
	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 販売店で点検を受けてください。
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 販売店で 12V バッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 **ヒューズの点検と交換** P.466
セレクトレバーの位置を確認する	セレクトレバーが P または N 以外になっている	セレクトレバーを P にしてください。
パワーシステム起動の手順を実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。	**パワーシステムの起動** P.247

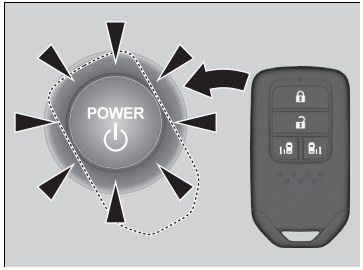
次ページに続く

項目	状況	対処のしかた
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	➡ **イモビライザーシステム** P.161 ➡ **イモビライザーシステム表示灯** P.87
ヒューズを点検する		全てのヒューズを確認してください。 ➡ **ヒューズの点検と交換** P.466

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

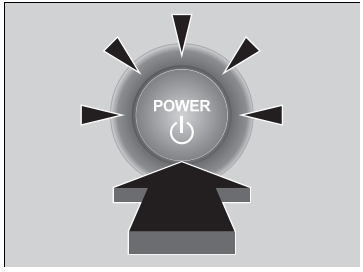
Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、 POWER が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。
以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. POWER を押す。
▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、 POWER が約30秒間点滅します。

2. POWER が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶「ピッ」とブザーが鳴り、 POWER が約 10 秒間点灯します。



3. POWER が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、 POWER を押す。
▶ READY 表示灯が点灯します。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER ボタンは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください：

- POWER を約 2 秒以上押す
- POWER を 3 回連続して押す

このとき、ハンドルはロックしません。
パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください：

1. セレクトレバーを P に入れる。
2. ブレーキペダルを踏まずに POWER を 2 回連続して押す。
▶ READY 表示灯と POWER のインジケーターの消灯を確認してください。

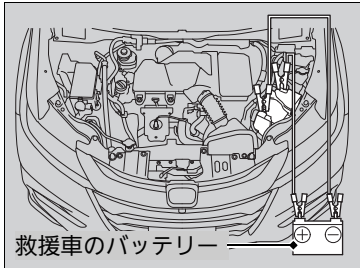
▶緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に POWER を押さないでください。

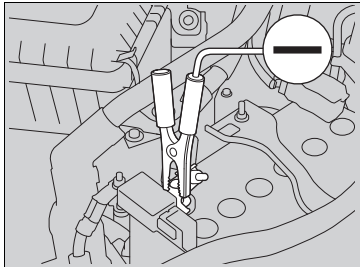
ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。



4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

次ページに続く

ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎を12Vバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結した12Vバッテリーでジャンプスタートすると、12Vバッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。
パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをバッテリーの ⊖ 端子以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のバッテリーの ⊖ 端子からケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車のバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

▶▶システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

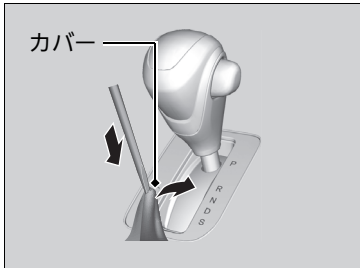
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

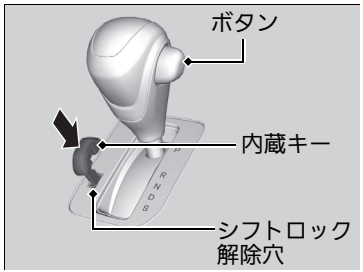
セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、 P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. 細いマイナスドライバーの先端に布を巻き、シフトロック解除穴のカバーを外す。
▶ マイナスドライバーの先端を、図のように切り欠きに入れて外します。



4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを N に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」と表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示されたとき

パワーシステムが高温になると、マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.91

1. ただちに車を安全な場所に停める。

▶ セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. パワーシステムを起動したまま、警告メッセージが消えるのを待つ。

▶ 警告メッセージが消えない場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示されたとき

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。

▶ セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけます。

2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

▶ **蒸気が出ていない場合：**パワーシステムを起動したままボンネットを開ける。

▶ **蒸気が出ている場合：**パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

次ページに続く

» マルチインフォメーションディスプレイに「温度上昇のため出力が制限されます」とメッセージが表示されたとき

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

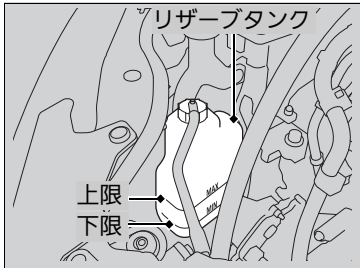
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」のメッセージが表示されなくなったらパワーシステムを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動する。
「エンジン冷却水高温」のメッセージが消えた場合は、運転を再開します。消えないときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由
エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること
1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること
1. パワーシステムを停止させ、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
▶ **消灯した：**運転を再開してください。
▶ **10 秒以内に消灯しない：**パワーシステムを停止させ、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由
12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること
電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

» 油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

» 12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。
パワーシステムの起動は、12Vバッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

外気温 −30 ℃以下でパワーシステムを起動すると警告灯が点灯することがあります。高電圧バッテリーの温度が上がると消灯します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

≫PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキシステムが異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

電子制御パーキングブレーキシステム警告灯が点灯した



■点灯の理由

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点灯します。

■点灯したときは

パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が同時に点灯、または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキが解除しないときは、ただちに安全な場所に停車して、Honda 販売店へご連絡ください。

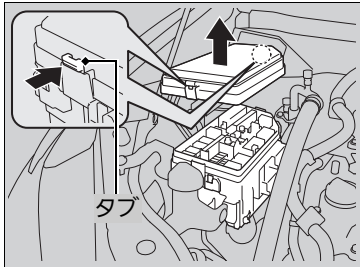
電子制御パーキングブレーキ作動警告灯だけが消灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキを解除しても、電子制御パーキングブレーキ作動警告灯が一緒に点灯または、点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車して、Honda 販売店へご連絡ください。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、5 つのヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



■ヒューズボックス A

エンジンルーム内の運転席側に付いているウォッシャータンクの隣にあります。タブを押して開けてください。

エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

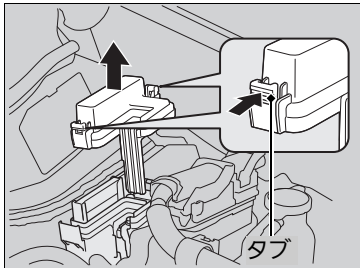
次ページに続く

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ヒューズボックス メイン 1	60A
		リヤオプション	(70A)
		リヤデフロスター	40A
		ヘッドライトメイン	30A
		ヒーターモーター	40A
		メインヒューズ	150A
2		EPS	70A
		ヒューズボックスメイン 2	60A
		イグニッションメイン	30A
		ABS/VSA FSR	40A
		ヘッドライト ロービームメイン	30A
		ABS/VSA モーター	30A
		電動サーボブレーキ	40A
	RR R	運転席側パワー スライドドアモーター	(40A)
		ワイパー	30A
		イグニッションメイン 2	30A
		室内助手席側ヒューズ ボックスメイン	30A
3	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
4	R	右側ヘッドライト ロービーム	10A
5	L	左側ヘッドライト ロービーム	10A
6		制動灯	10A
7		イグニッション 1 MON	7.5A
8		LAF	10A
9	—	—	—
10	—	—	—
11	—	—	—
12		オーディオ	15A
13		バックアップ	10A
14		—	(20A)
15		—	(20A)
16		リヤブロアー	20A
17		室内灯	10A
18	RR R	運転席側 パワースライドドア クローザー	(20A)
19		フォグライト	(20A)

	表示	装備	容量
20		IGP	15A
21		IGP2	15A
22		イグニッションコイル	15A
23		EVTC	20A
24		スモールメイン	20A
25		バックアップ FI-ECU	10A
26		イグニッション ホールド 1	10A
27		PCU EWP	10A
28		制動灯 / ホーン	15A
29		非常点滅表示灯	15A



■ヒューズボックス B

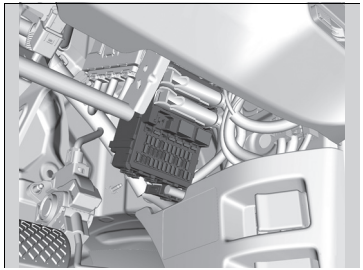
エンジンルーム内の助手席側にあります。
タブを押して開けてください。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
	📖	—	(40A)
	📖	冷却ファン	(40A)
	📖	エアコン PTC2	(40A)
1	📖	—	(40A)
	📖	エアコン PTC4	(40A)
	📖	COMBI SW GND (LT)	(30A)

次ページに続く

■室内運転席側のヒューズボックス



アクセルペダルの上方にあります。

室内運転席側のヒューズボックス

ヒューズボックスの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

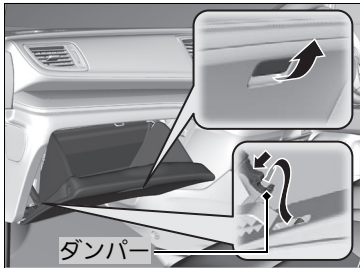
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		エアコン	7.5A
2	—	—	—
3	—	—	—
4		リヤワイパー	10A
5		OP1/ メーター	7.5A
6		バッテリーECU	(7.5A)
7		オプション	7.5A
8		ミッションソレノイド / VBACT	10A
9		フューエルポンプ	15A
10		ABS/VSA リレー/ ABS/VSA	7.5A
11	—	—	—
12		フロントワイパー	7.5A
13		発電機	10A
14		アクセサリーソケット (コンソール)	20A
15	DR	運転席パワーシート (リクライニング)	(20A)
16	—	—	—
17	FR	シートヒーター	(20A)
18	—	—	—
19		運転席側ドア アンロック	10A
20		助手席側ドア アンロック	10A
21	—	—	—
22		運転席側ドアロック	10A
23	—	—	—
24		SRS エアバッグ	10A
25	(INTR)	室内イルミネーション	10A
26		ACC キーロック	7.5A
27	(EXTR)	車幅灯	10A
28		アクティブ コーナリングライト※1	(10A)※1
29	R	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
30		ウォッシャー	15A
31		Honda スマートキーシステム	10A
32	DR	運転席 パワーウィンドー	20A
33	AS	助手席 パワーウィンドー	20A
34	REAR L	後席左側 パワーウィンドー	20A
35	REAR R	後席右側 パワーウィンドー	20A
36	DR	運転席パワーシート (前後スライド)	(20A)
37		アクセサリー	7.5A
38	—	—	—
39	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
40		フロント アクセサリーソケット	20A
41		助手席側ドアロック	10A
42		ドアロック	20A

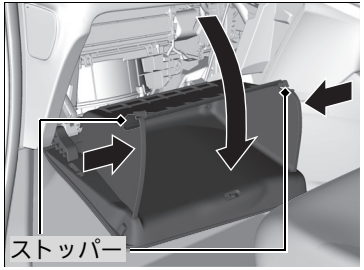
※1 ：アクティブコーナリングライト装備車

次ページに続く

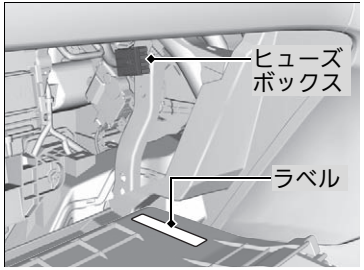
■室内助手席側のヒューズボックス



1. グローブボックスを開け、ダンパーを外す。



2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



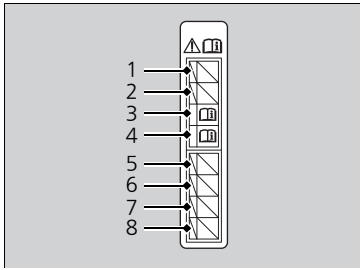
エアコンフィルターの右側にあります。

▶室内助手席側のヒューズボックス

下ろしたグローブボックスの裏側に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

■各ヒューズの装備と容量

下図を参照し、該当するヒューズの位置を確認してください。

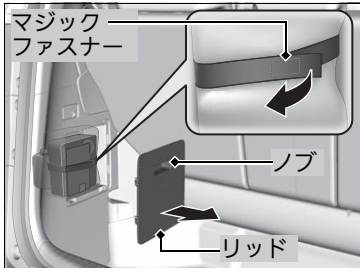


容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

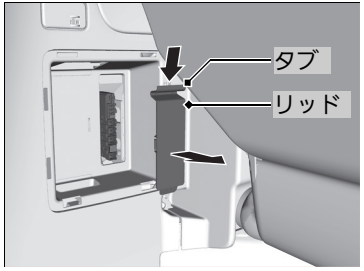
	表示	装備	容量
1	—	—	—
2	—	—	—
3		イグニッション ホールド 2	10A
4		イグニッション ホールド 3	15A
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—

次ページに続く

■室内カーゴスペース左側のヒューズボックス



1. ノブを引いてカーゴスペース左側のリッドを開ける。
2. マジックファスナーを外し、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。



3. タブを押しながら手前に引いてリッドを開ける。

≫室内カーゴスペース左側のヒューズボックス

リッドの裏側に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

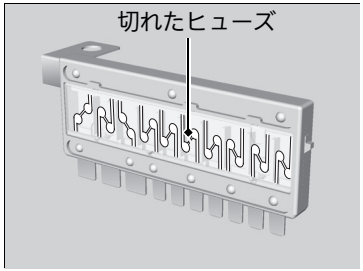
■各ヒューズの装備と容量

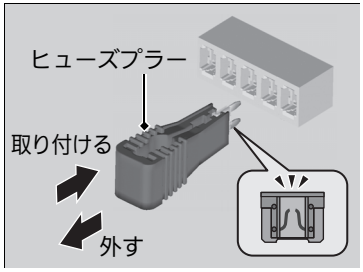
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		助手席側 パワーシート ※1 （前後スライド）	(20A)
2		助手席側 パワーシート ※1 （リクライニング）	(20A)
3	—	—	—
4		助手席側 パワースライドドア クローズ	(20A)
5	—	—	—
6		右側電子制御 パーキングブレーキ	(30A)
7		—	(40A)
8		助手席側 パワースライドドア モーター	(40A)
9		左側電子制御 パーキングブレーキ	(30A)

※1 ：助手席パワーシート装備車

ヒューズの点検と交換





1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。

2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外し、大きいヒューズを点検する。

▶切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。

3. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。

▶切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

≫ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。

エンジンルーム内のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。

けん引は専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

≫非常時のけん引

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

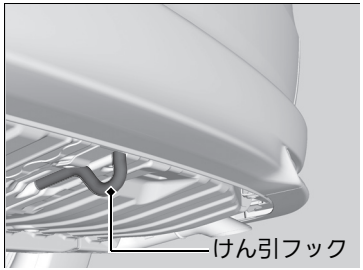
車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

パーキングブレーキが解除されていることを電子制御パーキングブレーキ作動警告灯で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

次ページに続く

■やむをえず他車をけん引する場合



やむをえず他車をけん引するときはけん引フックにロープをかけて行ってください。

▶▶やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

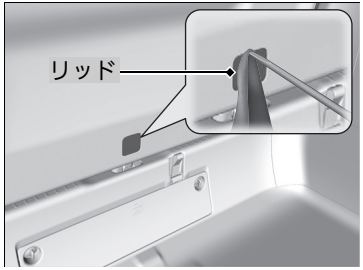
けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
車体が破損、変形する場合があります。

自車より重い車のけん引は避けてください。

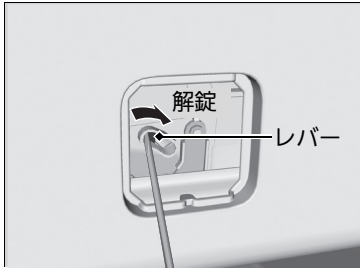
ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

■開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押して開ける。

≫開かないときの対処方法

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



仕様：Hybrid..... 471

仕様：Hybrid

■仕様

名称	オデッセイ
排気量	1,993 cm^3
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	7 名※1 8 名※2

※1 ： セカンドプレミアムクレードルシート装備車
※2 ： セカンドベンチシート装備車

■調節

点火プラグ	NGK	ILZKAR7E11S

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	8.1-15.9mm
	床板とのすき間	123mm 以上 { 約 196N(20kgf)の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	86.6mm 以上 { 約 196N(20kgf)の力 }

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	55 L

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	36AH(5) /46B24R

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5 L

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	12V-60W
フォグライト	LED
アクティブコーナリングライト※1	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
車幅灯	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
尾灯 / 後部側方灯	LED
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED
スライドドア・アウターカーテシーライト	LED
番号灯	LED
フロントシート室内灯 / マップランプ	LED
セカンド、サードシート室内灯 / マップランプ	LED
カーゴスペース照明灯	12V-5W
テールゲート照明灯	12V-5W
バニティミラー照明灯※2	12V-2W
フロントドア開閉灯	LED

※1 ： ブラインドスポットインフォメーション装備車
※2 ： 17 インチホイール装備車

仕様：Hybrid

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ウルトラブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF DW-1	2.11 L（交換時）

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジンオイル	ULTRA NEXT※1	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	3.5 L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.8 L

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	5.77 L（交換時：冷却水リザーブタンク 0.80 L 含む）

■タイヤ

サイズ		215/60R16 95H※1 215/55R17 94V※2
空気圧 kPa（kgf/cm²）	前輪	230（2.3）
	後輪	240（2.4）
リムサイズ		16×6 1/2J※1 17×7 J※2

※1 ： 16 インチホイール装備車
※2 ： 17 インチホイール装備車

数字

12Vバッテリー充電警告灯 76, 453

A

A/C(エアコン) 216
ABS(アンチロックブレーキシステム) 336
ABS警告灯 78, 336
AT(オートマチックトランスミッション) .. 253

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 269
CMBS警告灯 81, 82

E

ECONスイッチ 256
ECON表示灯 88
ECOスコア 13, 117
ECOドライブディスプレイ 13, 116
EPS警告灯 80
ETC車載器 ..... 別冊
EVスイッチ 8
EV表示灯 90
EVモード表示灯 90

H

HDMI®ジャック 235
Hondaスマートキー 139, 140
Hondaスマートキーシステム警告灯 77
Hondaスマートキー持ち去り警告 169
POWERスイッチ 167
電池交換のしかた 414
Hondaスマートパーキングアシスト システム 1, 355

I

IRカットドアガラス 420
ISOFIX/i-Size 55, 63
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシート 55

L

LKAS(車線維持支援システム) 299
LKAS警告灯 79
LKAS表示灯 89

M

MIST 175

P

PGM-FI警告灯 76, 454
POWERスイッチ 167
POWER(パワー表示) 109

R

READY表示灯 90

S

SEL/RESETスイッチ 111
SPORT HYBRID i-MMD(インテリジェント マルチモードドライブ) 5
SRSエアバッグ 42
エアバッグシステム警告灯 49, 80

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 262
VSA警告灯 80, 262
VSA OFF警告灯 80

W

W(ワット)数 471

ア

アクセサリー 425
アクセサリーコンセント 209
アクセサリーソケット 208, 433, 439
アクティブコーナリングライト 171, 399
アダプティブクルーズコントロール(ACC)
ACC警告灯 79
ACC表示灯 89

安全に関する表示 28
安全のための確認事項 31
アンチロックブレーキシステム(ABS) 336
ABS警告灯 78, 336

イ

一酸化炭素の危険性 70
イモビライザーシステム 161
イモビライザーシステム表示灯 87
イルミネーションコントロール 177
インフォメーション表示灯 88

ウ

ウィンドーの開閉 163
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 397
ウィンドウォッシャースイッチ 175
ウェアインジケーター 410
運転
シフト操作 254
パワーシステムの起動 247
ブレーキ操作 331

エ

エアコン 216
エアクリーンフィルター 417
エアコンの使いかた 217
後席用オートエアコン 225
後席用クーラー 228
タッチパネル操作音のONとOFF 222
窓の曇りや霜の取りかた 220
モード切り換えスイッチ 217, 218
連動作動(シンクロ)モード 221
エアバッグ 42
SRSエアバッグ 42
エアバッグシステム警告灯 49, 80
エアバッグシステム故障診断記録装置 28
エアバッグのお手入れ 50
サイドエアバッグ 45
サイドカーテンエアバッグ 47
エコアシストシステム 12
エマージェンシーストップシグナル 338
エンジンオイル 396
推奨エンジンオイル 472
油圧警告灯 76, 453
エンジン作動表示 119
エンジンルーム内のメンテナンス 394
ウィンドウォッシャー液の補給 397
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 394
推奨エンジンオイル 472
ボンネットを開ける 395
エンジン冷却水 472

オ

オーディオ装置 232
オートドアロック/オートドアアンロック .. 150
オートライトコントロール 172
追越合図(パッシング) 172
オートマチックブレーキホールド 334
オドメーター 112
温度センサー 114

カ

カーゴスペース照明灯 202
電球の交換 404
外気温表示 114
改造や部品交換について 426
鍵(かぎ) 138
カスタマイズ機能 120
ガソリン 386, 471

キ

キー
Hondaスマートキー 139, 140
キー閉じ込み防止装置 146
キーナンバータグ 139
キーの種類と機能 138
キーレスエントリー 139, 144
キーレスエントリーでドアが開かない 26
後席ドアが開かない 26
電池交換のしかた 414
内蔵キー 139
キー閉じ込み防止装置 146

キーナンバータグ 139
キーレスエントリー 144
キックダウン 253
給油 386
給油のしかた 387
指定燃料 386, 471
燃料計 108
燃料残量警告灯 78

ク

空気圧 472
グラブレール 3
クリープ現象 253
グリップ 428
車の改造 426
グローブボックス 203

ケ

経過時間表示 113
計器 71
警告灯 72
ABS警告灯 78, 336
CMBS警告灯 81, 82
EPS警告灯 80, 455
Hondaスマートキーシステム 警告灯 77
LKAS警告灯 79
PGM-FI警告灯 76, 454
VSA OFF警告灯 80
VSA警告灯 80, 262
エアバッグシステム警告灯 49, 80
シートベルト非着用警告灯 77
渋滞追従機能付ACC警告灯 79
充電警告灯 76, 453
電子制御パーキングブレーキ作動警告灯 .. 74
電子制御パーキングブレーキシステム 警告灯 75, 456
トランスミッション警告灯 77
燃料残量警告灯 78
パワーシステム警告灯 83
ブラインドスポットインフォメーション 警告灯 83
ブレーキ警告灯(レッド) 72, 455
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 73
油圧警告灯 76, 453
路外逸脱抑制機能警告灯 84
けん引 467

コ

交換
アクティブコーナリングライト電球 399
カーゴスペース照明灯電球 404
後退灯電球 403
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 電球 401
車幅灯電球 399
スライドドア・アウターカーテシーライト 電球 403
制動灯電球 400
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 電球 399
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球 400
タイヤ 411
テールゲート照明灯電球 404
ハイマウントストップランプ電球 402
バニティミラー照明灯電球 404
番号灯電球 402
尾灯/後部側方灯電球 402
尾灯電球 402
フォグライト電球 400
ヘッドライト電球 398
ホイール 411
ワイパーブレードラバー 405
工具 428
交差点案内表示 114
後席用オートエアコン 225
後席用クーラー 228
航続可能距離表示 113
後退出庫サポート 345
高電圧バッテリー残量 119
高電圧バッテリーの特性 267
コートフック 211

サ

サービス診断記録装置 28
データの開示について 28
サイドエアバッグ 45
サイドカーテンエアバッグ 47
サングラスボックス 212
サンバイザー 3

シ

シートの調節 182
アームレスト 198
サードシート 191
セカンドプレミアムクレードルシート 187
セカンドベンチシート 185
フロントシート 182
ヘッドレスト 194
シートヒーター 214
シートベルト 32
アンカーポイント 40
シートベルトの着用 35
シートベルトの点検 39
シートベルト非着用警告灯 77
シートベルトプリテンショナー 34
シートベルトリマインダー 33
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた 39
分離収納式シートベルト 37
時刻の設定 135
室内装備品 203
室内灯 200
シフト操作 254
車外の清掃 421
車線維持支援システム(LKAS) 299
LKAS警告灯 79
LKAS表示灯 89
ジャッキ 428, 441
ジャッキハンドルバー 428
ジャッキハンドル(ホイールナットレンチ) 428
車内の清掃 419
車幅灯 399
車両接近通報装置 261
ジャンプスタート 447
渋滞追従機能付ACC(アダプティブクルーズコントロール)
渋滞追従機能付ACC警告灯 79
渋滞追従機能付ACC表示灯 89
充電警告灯 76, 453
仕様 471
衝撃感知ドアロック解除システム 150
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 269
CMBS警告灯 81, 82
ショルダーアンカー 36
信号情報活用運転支援システム 257
親水ミラー 424

ス

スイッチ
オートマチックブレーキホールドスイッチ 334
パーキングブレーキスイッチ 331
スイッチ操作
EVスイッチ 8
POWERスイッチ 167
アクティブコーナリングライト 171
イルミネーションコントロール 177
フォグライトスイッチ 174
方向指示器(ウィンカースイッチ) 170
ライトスイッチ 172
リヤデフロスタースイッチ 178
ワイパー/ウォッシャー 175
スーパーUVカットドアガラス 420
ステアリング 178
スノータイヤ 413
スパークプラグ 471
スピードメーター 108
スライドシャッター付コンソールボックス 204
スライドドアウィンドウサンシェード 213
スライドドアの開閉 152, 153

セ

清掃 419
制動灯 400

セカンドプレミアムクレードルシート 187
セカンドベンチシート 185
セキュリティシステム 161
イモビライザーシステム 161
セキュリティアラームシステム 161
セレクト/リセットノブ 177
セレクトポジション 254
シフトポジション表示灯 88, 255
セレクトレバー
セレクトレバーが動かない 449
セレクトレバーの操作 255
先行車発進お知らせ機能 317

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 .. 400

タ

タイヤ 409
ウェアインジケーター 410
交換 411
指定空気圧 472
タイヤの点検 409
タイヤのローテーション 412
冬期のタイヤ 413
パンク 429
タイヤチェーン 413

チ

チェーン 413
チャージメーター表示(CHARGE) 109
チャイルドシート 51
ジュニアシート 68
乳児のチャイルドシート 52
幼児のチャイルドシート 53
チャイルドプルーフ 149
駐停車操作 339

テ

テールゲート照明灯 202
電球の交換 404
テールゲートの開閉 151
テールゲートが開かないとき 469
停止表示板固定ベルト 215
デフロスター 220
リヤデフロスタースイッチ 178
点火プラグ 471
電子制御パーキングブレーキ 331
電子制御パーキングブレーキシステム
警告灯 75, 456
電子制御ブレーキアシスト 337
電池交換 414

ト

ドアの施錠と解錠 138
Hondaスマートキー 138, 139
キー閉じ込み防止装置 146
キーナンバータグ 139
キーの種類と機能 138
キーレスエントリー 139, 144
キーレスエントリーでドアが開かない 26
後席ドアが開かない 26
車外でのドアの施錠/解錠 141
車内での施錠/解錠 147
チャイルドプルーフ 149
ドアミラー 180
冬期のタイヤ 413
スノータイヤ 413
タイヤチェーン 413
時計 109
時刻の設定 135
トップテザーアンカレッジ 64
トップテザーストラップ 64

トラブルシューティング
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 26
キーレスエントリーでドアが開かない 26
警告灯の点灯/点滅した 453
けん引してもらいたい 467
後席ドアが開かない 26
ジャンプスタートしたい 447
セレクトレバーが動かない 449
走行するとブザーが鳴る 27
パワーシステムが起動しない 443
パンクした 429
ヒューズが切れた 457
ブレーキを踏むと音がする 27
ブレーキを踏むと振動する 25
プレミアムガソリンは使える？ 27
トランスミッション警告灯 77
トランスミッションフルード 472
トリップメーター 112
ドリンクホルダー 205

ナ

内蔵キー 138, 139
ナビゲーションシステム ..... **別冊**

ネ

燃料 386, 471
燃料計 108
燃料残量警告灯 78

ハ

パーキングセンサーシステム 341
排気ガスの危険性 70
ハイビーム 172
電球の交換 398
ハイビーム表示灯 86
ハイマウントストップランプ 402
ハザードスイッチ ..... **表紙ウラ**
発炎筒 428
バッシング 172
バッテリー
ジャンプスタート 447
充電警告灯 76, 453
容量 471
発話スイッチ 1
バニティミラー 3
パワーウィンドーの開閉 163
パワーシステム
ジャンプスタート 447
パワーシステムが起動しない 443
パワーシステムの起動 247
パワーシステムの停止 248
パワーシステム警告灯 83
パワースライドドアの開閉 152, 154
パワー表示(POWER) 109
パワーフロー 119
パワーモード 167
パワーモードオートオフ機能 168
パワーモード警告ブザー 168
パンク 429
ハンドル 178
ハンドル位置調節レバー 178

ヒ

ヒーテッドドアミラー 178
非常点滅表示灯スイッチ ..... **表紙ウラ**
尾灯 402
尾灯/後部側方灯 402
ヒューズ 457
ヒューズの設置場所..... 457, 460, 462, 464
ヒューズの点検と交換 466
標識認識機能 321
表示灯 86
ECON表示灯 88
EV表示灯 90
EVモード表示灯 90
LKAS表示灯 89
READY表示灯 90
イモビライザーシステム表示灯 87
インフォメーション表示灯 88
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 90
オートマチックブレーキホールド表示灯 .. 90
シフトポジション表示灯 88, 255
渋滞追従機能付ACC表示灯 89
セキュリティアラームシステム作動表示灯 88

ハイビーム表示灯 86
フォグライト点灯表示灯 86
方向指示器/非常点滅表示灯 86
ライト点灯表示灯 86

フ

ブースターケーブル 447
フォグライト
電球の交換 400
フォグライトスイッチ 174
フォグライト点灯表示灯 86
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 26
走行するとブザーが鳴る 27
フューエルリッドの開けかた 387
ブラインドスポットインフォメーション 264
ブラインドスポットインフォメーション警告灯 83
プラズマクラスター 224
ブレーキシステム 331
ABS(アンチロックブレーキシステム) ... 336
電子制御ブレーキアシスト 337
フットブレーキ 333
ブレーキ警告灯(レッド) 72, 455
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 73
ブレーキを踏むと音がする 27
ブレーキを踏むと振動する 25
ブレーキフルード 472
ブレーキ警告灯(レッド) 72, 455
ブレーキシステム
エマージェンシーストップシグナル 338
オートマチックブレーキホールド 334
電子制御パーキングブレーキ 331
フロントシート 182
フロントシートヘッドレスト 182, 183, 194
フロントセンサーカメラ 328
フロントワイパー 175

ヘ

平均車速表示 113
平均燃費履歴表示 110, 115
ヘッドライト 172
追越合図(パッシング) 172
電球の交換(ハイビーム) 398
電球の交換(ロービーム) 398
ハイビーム 172
ハイビーム表示灯 86
ライト点灯表示灯 86
ロービーム 172
ヘッドライトオートオフ機能 173
ヘッドレスト
サードシート 196
セカンドプレミアムクレードルシート 187, 194
セカンドベンチシート 185, 194, 196
フロントシート 182, 183, 194

ホ

ホーンスイッチ 1
ホイール
交換 411
サイズ 472
ホイールサイズ 472
ホイールナットレンチ(ジャッキハンドル) 428
方向指示器(ウィンカースイッチ) 170
方向指示器/非常点滅表示灯 86
歩行者事故低減ステアリング 279
ボトルホルダー 207
ホンダセンシング 268

マ

マイナスドライバー 428
マスタードアロックスイッチ 148
マップランプ 201
マルチインフォメーションディスプレイ 110
メッセージ 91
マルチビューカメラシステム 1, 350

ミ

ミラー 179
ドアミラー 180
バニティミラー 3
ルームミラー 179

メ

メーター 108
スピードメーター 108
チャージメーター表示(CHARGE) 109
燃料計 108
パワー表示(POWER) 109
マルチインフォメーション ディスプレイ 110
メンテナンス
Hondaスマートキー 414
エアコンのお手入れ 417
エンジンルーム内のメンテナンス 394
清掃 419
タイヤの点検と整備 409
メンテナンスに関する注意事項 393
メンテナンスを安全に行うために 392
ライト類の点検と整備 398
ワイパーブレードラバーの点検と整備 405

モ

モード切り換え(エアコン) 217

ユ

油圧警告灯 76, 453

ラ

ライトスイッチ 172
追越合図(パッシング) 172
ハイビーム 172
ハイビーム表示灯 86
ライト点灯表示灯 86
ロービーム 172
ライト類の点検と整備 398
アクティブコーナリングライト電球 399
カーゴスペース照明灯電球 404
後退灯電球 403
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 電球 401
車幅灯電球 399
スライドドア・アウターカーテシーライト 電球 403
制動灯電球 400
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 電球 399
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球 400
テールゲート照明灯電球 404
ハイマウントストップランプ電球 402
バニティミラー照明灯電球 404
番号灯電球 402
尾灯/後部側方灯電球 402
尾灯電球 402
フォグライト電球 400
ヘッドライト電球 398
ラジエーター 450

リ

リアエンターテインメントシステム 233
電池交換のしかた 416
リフトアップトレイ 203
リヤデフロスタースイッチ 178
リヤワイパー 176

ル

ルームミラー 179

レ

レーダーセンサー 330
冷却水 452, 472
オーバーヒート 450
補給 452

ロ

ロービーム 172
電球の交換 398

路外逸脱抑制機能 310
路外逸脱抑制機能警告灯 84

ワ

ワイパー/ウォッシャー 175
ワイパーブレードラバー 405

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/
※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8－1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名